

10周年記念誌



発足10年にあたり
飯能RCの為に
光をかけた人々に
この小史を捧ぐ

1974-10-16



記念誌発刊に際して

会 長 荒 井 栄

当クラブも昭和39年7月22日創立以来こゝに10年の歩みを続け、バストガバナーの御指導、並びに先輩各クラブ、又会員各位の御協力によって10周年の記念式典も無事に終へ、こゝに「10年の歩み」の発刊を見るに到ったのでありますが、この編集に当って御寄稿、また御助言御尽力下されました各位に深甚なる敬意を表すると共に、その好意に対して感謝申し上げるものであります。

さて、10年をかへり見ますと 358地区の当時神守ガバナーの時代に創立され発足して以来、地域社会へのロータリー精神の普及に努力して参りました。その後 358地区より分離して千葉と共に 357地区となり6年間、その責任を果たさせていただきましたが、昨年より千葉と分離、埼玉独立 357地区となり、その変遷と共にすすくとクラブは会員の精進により発展し今日の姿となったのでありますが、その間ホストとして越生毛呂クラブの誕生を見、また韓国東清州と姉妹クラブの提携を見たのであります。今後はこの10年の歩みを第一歩として、更に埼玉地区の一クラブとして、我々の“ロータリー精神を振るい起こす”ことに、又更に先輩クラブの御指導と会員の益々の御精進によって地域社会への奉仕にはづかしくない活躍を期するものであります。こゝに10周年記念誌を発行するに当り、編集に御尽力下されました会員各位に感謝を申し上げ、発刊のことばといたします。



1964-11-12 加盟認承

4 つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか



例 会 風 景

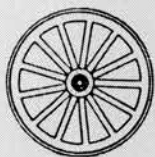
汗拭い シニヤ－会員 階登る (黒田)

ロータリーの誕生

アメリカ、シカゴ市に弁護士を開業していた青年ポール・ハリス(1868-1947)は当時の不安定な世相と、また移住者としての寂しさを感じ、お互いに何事も語り合える親しい友人が欲しい、これが彼の念願であった。同じ世代に同じ処に住む人々が互に助け合い、且つ励まし合ったら明るい町、明朗な社会、そして国が出来たろうと考え、この考えを1905年2月23日友人の石炭商シルベスター・シュレー、鋳山技師ガスター・ロール及び裁縫師のハイラム・ショウリー等に打明け、一つのクラブを作ることに同意を得、翌日更に印刷屋のハリ・ラップルにも賛成を求め、土地周旋屋のウイル・ジェンソンも加わる事になり、シュレーの事務所を会合に使う事にして、彼を会長とし、ジェンソンが連絡係、ショウリーが記録係をして、ラップルが会計係となって、こうしてクラブの形が出来上った。その時彼は37才であった。

この6人は何れも故郷を離れてシカゴ市へ移住して来た見知らぬ同志であったが、常に故郷を想い、友情にうえていたため、このクラブも最初は唯々友情を深くしてお互いにその仕事を助け合おうと云うのが目的であった。クラブの名もいろいろ考えられたが、ポール・ハリスの発案で、この会合が各自の事務所を回り持ちで使うと云う特徴をとらえてロータリーと名付けた。

1907年にポール・ハリスが会長に就任した時始めて、これと同じクラブを他の都市にも作り度いという願望をもった。その結果1908年にサンフランシスコにロータリー・クラブが誕生、そしてその後1912年に現在のロータリーに於ける歯車の形が制定された。



1905



1906



1906

国際ロータリーの結成

NATIONAL ASSOCIATION



1910



1912



1920

この政治性のない“奉仕”をモットーとしたクラブはお互に広く接するに従い自分の住む町の事情に精通し、意見交換の機会ともなり、友人の増加するに従って遂に国境を越え1910年カナダのウィニペグにクラブが生まれ、翌1911年には海を渡って英国のロンドン、アイルランドのダブリン及びベルファーストにクラブが出来た。この年のポートランドの大会に於て、シカゴクラブのアーサー・フレデリック・シェルドンの演説によって「最もよく奉仕するものは最もよくむくいられる」と云う言葉が生まれ、更にミネアポリス・クラブのフランク・コリンズによって「超我の奉仕」が生れ、この二つが非公式ではあったが、一般に良く知られたロータリーのモットーになったのである。

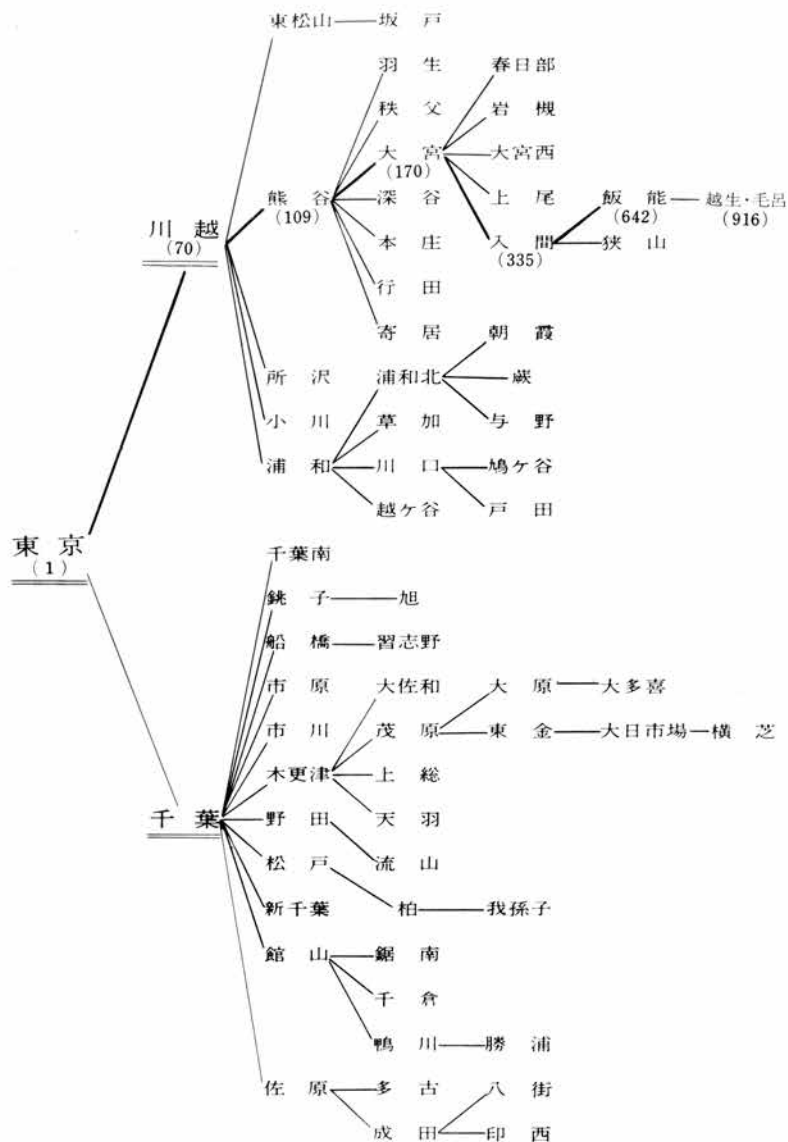
1912年ドルースにおける大会に於て 417クラブの代表者が出席し、ロータリークラブ国際連合会が出来てポール・ハリスがその会長となったが、その当時はクラブ数約50、メンバー約 5,000人であった。

1922年大会決議を以って正式名を国際ロータリーと改名し、現在に至っている。ロータリーの目的は、1910年から22年に至る迄6回改訂されたが、1935年メキシコシティの大会に於て、現在の四カ条に改定せられた。

ポール・ハリスはその長い生涯の間に幾度となく「始めてロータリーを作った時、今の様な世界的なものになると予想していたか」との質問を受けたが、これに対し1946年の創立記念日に送った彼の回答は次の通りであった。

「これに対する回答は「ノー」である。私の考えたのは、こんな大きなものではなかった。何等劇的な始りでなく、田舎出の若い実業家が私の招きに応じて集り馴れない生活の中で、お互に真の友人となって助け合おうと云うに過ぎなかった。私達は淋しかったので、この淋しさをいやす方法を見つけただけである。決して今日の様な世界に拡がってゆくロータリーを1905年に見透していた訳ではない。」

クラブ設立の経過



数字は日本に於ける認承順位 (記 比留間清治郎)

飯能にロータリークラブを設立しようという機運になりましたのは、己に、武蔵クラブが（現在の入間クラブ）入間・飯能・狭山の三市の共同のクラブとして存在しておいて、飯能からも、私始め数人の方が、チャーターメンバーとして、参加しておりました。そこで、拡大方針に従って、飯能へロータリークラブを作ることになり、武蔵クラブが、スポンサークラブと決まりました。

当時、商工会議所の会頭をしておりまして、副会頭の双木卯之助様、斉藤承吉様にも相談をしまして、丁度、商工会館も完成したことでもあるしその祝いも記念して、飯能ロータリークラブ結成に踏み切った次第です。

ですから、メンバーの勧誘も、商工会議所のメンバーを中心として、公平に行う為に、葉書で勧誘致しました。殊に、私はロータリーを飯能に結成することによって、とにかく、派閥をつくりがちな地方都市としての飯能を、明るい、平和な都市に成長させたいと思っておりましたから。

特別代表には、清水逸平氏（武蔵クラブ）で、当時のガバナーが、神守氏、分区代理が、広沢バスターガバナー、武蔵クラブの拡大委員として、飯能クラブの結成に、なにかと御世話戴いたのが、繁田バスターガバナーでした。今思えば結成の指導をして戴いたロータリアンは、誠に豪華な方々でした。これも、幸せの一つだったと思います。

地域の問題ですが、飯能市に限らず、名栗村、日高町を区域に致したのは、己に政治的に、当時、合併をしたらという話がちらほらあったのです。夫々の事情で、現在迄、三市町村は、独立の自治体となって居りますが、私は、当然三市町村は、夫々関係も深く、市町村民の交際も濃いのですから、ロータリーだけでも一つの地域となっていた方が良いと思い、わざわざ川越ロータリーから、日高町の区域を分けて戴き、その手続きの為、国際ロータリーに連絡をとったりして、可成り手続きが大変だったのですが、今思えば、三市町村を飯能ロータリーの区域にしておいて、夫々の町村から、立派なロータリアンが、参加して戴いて、誠によかったですと思って居ります。

創立総会は、飯能商工会議所で行ないましたが、何年かは、例会場も商工会議所で開かれて居りました。

クラブ設立にあたって、思い出しました記憶をつらねて、せめて、今後のロータリー発展の参考になれば誠に幸いです。

（記 平岡文夫）

目

-
- は じ め に
 - 創立10周年記念式典……………13
 - 写真で綴るHRCとその10年……………23
 - わが10年の記録……………33
 - 特 別 寄 稿……………83
 - 飯能市長、日高町長、名栗村長
 - 中里会長、渡辺ガバナー
 - 神守、広沢、河野、半田、繁田パストガバナー
 - 姉妹クラブ洪会長、子クラブ堀江会長
 - 会 員 寄 稿…………… 103
 - 新井、荒井、江沢、江原、福田、後藤、平岡、細田、平沼、比留間
 - 林、檜崎、萩野、井上(峰)、市川、井上(敬)、加藤(音)、加藤(義)
 - 神田、小室、川崎、加藤(善)、金子、黒田、前島、溝口、森、前久
-

表 題 吉 田 会 員 揮 毫



10 周 年 記 念 式 典





記念式典会場 (49.10.16)

めぐり来し 十年の菊や ほぎの宴 (川崎)

＝ プ ロ グ ラ ム ＝

記念式典

開 会 の 辞
 点 鐘
 斉唱「君が代」
 「奉仕の理想」
 来 賓 紹 介
 歓 迎 の 挨拶
 式 辞
 物故会員に黙禱
 記念事業発表
 記念事業目録贈呈
 記 念 品 贈 呈
 越生毛呂 R C より記念品贈呈
 来 賓 祝 辞

祝 電 披 露
 斉唱「我等が生業」

閉 会 の 辞
 点 鐘

記念講演 「現代の世相を斬る」

記念パーティ

挨拶
 乾 杯
 祝 辞

アトラクション

歌 曲
 祭 ば や し
 手唄、万才
 斉唱「手に手をつないで」
 閉 会 の 辞

司 会 幹 事 細田徳二郎
 式典副委員長 石井尊四郎
 会 長 荒井 栄
 ソングリーダー 飯島 武司
 伴 奏 吉田早子
 式典副委員長 梨木 三六
 会 長 荒井 栄
 式典委員長 平岡 文夫

式典副委員長 中里 進
 式典副委員長 新井 清寿
 式典副委員長 武居 藤吉

越生毛呂 R C 会長 平田善右衛門殿
 第 357 地区ガバナー 渡辺 道夫殿
 クラブ創立時特別代表 清水 逸平殿
 クラブ創立時分区代理 広沢 輝雄殿
 飯能市長 市川 宗貞殿

ソングリーダー 飯島 武司
 伴 奏 吉田早子
 会 長 荒井 栄
 会 長 荒井 栄

講師 作家 戸川昌子先生

司 会 S A A 林 幸一
 副会長 井上 太平

第 357 地区直前ガバナー 繁田 正一殿
 第 357 地区ガバナーノミニ 山口 大殿
 第 357 地区第 8 分区代理 岸 善八殿
 親クラブ入間 R C 会長 井ヶ田三男殿
 子クラブ越生毛呂 R C 初代会長 丸木 清美殿

古谷 友子
 伴 奏 吉田早子
 原町町内会囃子連

親睦活動委員長 比留間清治郎

記念事業 (寄贈)

飯能市、日高町、名栗村 天幕 飯能警察署 交通安全標識 ロータリー
財団 金一封 米山記念奨学会 金一封

記念品贈呈

クラブ創立時特別代表 清水逸平殿
クラブ創立時分区代理 広沢輝雄殿
物故会員顕彰 故大久保三男君 律子殿 故小峰正夫君 きく乃殿 故佐野万次郎君 一男殿 故谷島豊一君 保殿 故土肥無二三君 江君殿 故小川泰君 雪子殿 故小林貞治君 久子殿
創立会員顕彰 新井君、荒井君、後藤君、平岡君、細田君、石井君、稲垣君、井上(太)君、加藤(音)君、前島君、中里君、梨木君、武居君、武久君、吉島君、吉田君
10年間皆出席者表彰 平岡文夫君、前島金助君、吉島力良君、吉田富雄君
クラブ協力者 埼玉銀行飯能支店殿
事務局職員表彰 佐藤喜久江殿、中島祐八殿

来賓ご芳名

| | | | |
|-----------------|--------|----------------|---------|
| 第 357地区ガバナー | 渡辺道夫殿 | 越生毛呂 R C 初代会長 | 丸木清美殿 |
| 直前ガバナー | 繁田正一殿 | 越生毛呂 R C 初代副会長 | 堀江作司殿 |
| バストガバナー | 広沢輝雄殿 | 越生毛呂 R C 初代幹事 | 小山朝雄殿 |
| バストガバナー | 半田利一殿 | 入間 R C 会長 | 井ヶ田三男殿 |
| ガバナーノミニ一 | 山口 大殿 | 入間 R C 幹事 | 鈴木祐治殿 |
| 創立時特別代表 | 清水逸平殿 | 所沢 R C 会長 | 平岩研作殿 |
| 第 357地区第 8 分区代理 | 岸 善八殿 | 所沢 R C 幹事 | 遠藤幸男殿 |
| 飯能市長 | 市川宗貞殿 | 狭山 R C 会長 | 牧野逸朗殿 |
| 日高町長 | 大沢正雄殿 | 狭山 R C 幹事 | 五十子福二殿 |
| 名栗村長 | 町田真之亮殿 | 新所沢 R C 会長 | 梅原義信殿 |
| 県議会議員 | 石井泰彦殿 | 新所沢 R C 幹事 | 植木 皓殿 |
| 飯能市議会議長 | 岩沢邦雄殿 | 越生毛呂 R C 会長 | 平田喜右衛門殿 |
| 飯能警察署長 | 安芸喜夫殿 | 越生毛呂 R C 副会長 | 小山芳三殿 |
| 飯能市消防長 | 和田 清殿 | 越生毛呂 R C 幹事 | 比留間嘉一郎殿 |
| 飯能ライオンズクラブ会長 | 坂本繁夫殿 | 祝 電 | |
| 飯能青年会議所理事長 | 細田春夫殿 | バストガバナー | 河野秀夫殿 |

若青



渡辺ガバナー



清水逸平特別代表



広沢分区代理



平岡初代会長



市川飯能市長



大沢日高町長



創立会員代表 武久宗吉殿



遺族代表 大久保律子殿



10年皆勤代表 前島金助殿



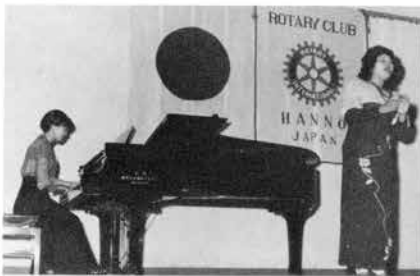
参 列 者



10代中里会長



式典記念アーチ



歌曲 吉田早予子・古谷友子さん



独唱 戸川昌子さん



会員家族挨拶



祭ばやし

歓迎の辞

会長 荒井 栄

歓迎のご挨拶を申し上げます。昨日まではっきりしない天気でしたが、心配された天気も当クラブ10周年記念式典に幸してか、快晴となり会員一同よろこびに耐えません。

当クラブ創立10周年記念式典に、渡辺ガバナー、繁田直前ガバナーはじめ歴代のバストガバナー殿並びに各自治団体の市町村長殿、警察署長殿、県会議員殿、或は各団体の関係の方々、近隣クラブの会長幹事さん、特に創立当時大変ご厄介になった特別代表殿、越生毛呂クラブの初代会長さん等ご多忙の処大勢の方々にご参集いただきまして、当クラブ創立10周年記念式典に錦上添花を添えていただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

本日の式典は、ご案内申し上げました通り、私達のクラブが昭和39年7月22日に仮クラブとして創立総会を開きまして以来、10年の歳月を経て、ここに列席の会員の方々、又ご夫人の方々のご尽力と、この10年の間にご参集の来賓の諸先生方のご指導、ご鞭撻により地域社会の我々ロータリークラブとしての歩みを着々と進めて参りました。

今日、10年を経過いたしました現在、地域に即したクラブとしての性格が達成されたと存じます。この10周年の佳き日に当り、私達のこの感激に満ちた日に際し、関係各団体にいささか記念事業としてその記念品を贈呈し、又、記念事業の一端を発表させていただきたいと思ひます。

本日の式次第に従いまして、記念事業の発表及び記念品の贈呈の後に、さ、やかなパーティを開きご参集いただいた皆様方に、私達の微意を表したいと存じます。

折角、お招き申し上げましたが、時節柄充分なご接待が出来ません。本日の晴天と、ここ飯能の山紫水明に満ちた空気を一つのご馳走としていただき、パーティにおいても、我々の進むべき道をご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げ、誠に措辞ですが歓迎のご挨拶申し上げます。

式 辞

式典委員長(初代会長) 平 岡 文 夫

飯能ロータリークラブ創立10周年記念式典を挙行するに当り、来賓各位並びにご参会のロータリアン及びご夫人の方々には、公私共ご多忙の処、ご参列を頂きまして、衷心より感謝申し上げます。

顧みますと、飯能ロータリークラブは、昭和39年7月22日入間クラブを親クラブとして飯能市、日高町、名栗村を地域として、チャーターメンバー36名、副会長に双木卯之助、幹事齋藤承吉、理事に小林貞治、新井清平、武久宗吉、武居藤吉、荒川由吉の各氏、S A Aに小川郁次郎氏の役員で、飯能商工会館で誕生いたしました。殊にガバナーは神守源一郎氏、特別代表に清水逸平氏、分区代理に広沢輝雄バストガバナー、そして入間クラブの拡大委員として繁田正一直前ガバナーという豪華な顔ぶれのご指導で発足したことは、誠に有難いことでありました。

当地方は、緑の山々に囲まれ、水清き名栗川、高麗川の清流に洗われた誠に美しい環境

に恵まれ、ここに心の通い合った、そして、国際的なつながりのある集いを作れば、地方の将来の発展にも貢献できると存じ、皆様方と相はかり、商工会館完成を契機に、ロータリークラブ結成にふみきった次第です。

当時は、ロータリークラブの普及も少なかった時代でしたから、今思いますと未熟な若輩の呼びかけに、忽ち、飯能地方の名士の方々36名が、よく参加して頂いたものと感慨、誠にひとしおの感がいたします。

爾今、各代の会長、小林貞治、双木卯之助、新井清平、土肥無二三、小川泰、石井尊四郎、梨木三六、武居藤吉、中里進、荒井栄現会長にいたるまで、チャーターメンバーに更に新しい有能な会員を加えて60数名、隆々と、飛躍して今日の盛儀をみるに至りましたのは、夫々の代の会長、幹事、役員の方をはじめ、会員皆様並びにご理解あるご夫人のご協力の贈と感謝にたえません。それにつけても、この10年の間に惜しくもなくなられた会員の方々に、衷心より哀悼の意を表する次第です。

この10年の間に、夫々の代に、思い出多いクラブ活動、親睦活動等いろいろありましたが、特に、認証状伝達式、川越地区大会、入間地区大会、越生毛呂RCの結成、韓国のニュー清州RCへの訪問等が記憶に残る行事でありました。かようにして、飯能RCは、明るい気持ちのよい派閥のないクラブとして地域社会と共に発展して参ったことは、天下に誇りうることでございます。

今後も会員一同、10周年を一つの節として伝統を守り、更に発展することを心に銘じております。どうぞ来会の来賓各位並びにロータリーアンの皆様にご旧の御指導、御支援を切にお願い申し上げます。

最後に10周年記念行事に当り、2年間にわたりご努力頂いた吉島準備委員長始め実行委員会の役員の方々に心より感謝を申しあげて、式辞と致します。

来賓祝辞

第357地区ガバナー 渡辺道夫殿

飯能クラブの皆様おめでとうございます。白髪のヤングパワーの異名を頂いている渡辺でございます。本日は飯能RCの皆様、ご家族の方々、又近隣の友朋クラブの皆様、或いは地元の関係団体の皆様方お揃いで、飯能RC10周年をお祝いできることは大変嬉しいことでございます。

10年の歴史というと、長い伝統があること自体大変価値のあることであります。その上チャーターメンバーの方々も沢山ご健在でいらっしゃるのには誠に結構なことでもあります。飯能は山紫水明の土地柄空気が美しい為に皆様ご健康なのでしょう。今後共ますますお元気で、クラブの為にご尽力下さるようお願い致します。

歴史は長いことだけでも価値がありますが、要はその内容であります。先程平岡委員長のお話があり、又、今朝9時からクラブの方々のお話を伺いましたが、その内容が大そう豊

かであります。飯能RCが地域社会に尽した奉仕の数々は、誠に価値のあるものでございました。又、只今はロータリー財団へ沢山のご寄付有難うございました。

歴史が長く、その内容が豊かであることは、非常に価値あることですが、本日の10周年記念式典が益々その価値を高めることでしょう。

今日までの歴史を踏台にして、これから20周年、30周年に向って、皆様の力を合せて飯能RCを飛躍させて頂くなら、今日の意義も深まること、思います。この佳き日を記念して、将来への足がかりにして欲しいものです。

飯能RCの皆様、10周年記念おめでとうございます。

クラブ創立時特別代表 清水逸平殿

本日は飯能RC10周年記念誠にありがとうございます。私は10年前に当クラブ結成の為特別代表としてお手伝いをいたしました。当時私は不勉強でロータリーに対する十分な智識もありませんでした。飯能RCの創立で大部迷惑をおかけ致しました。特に残念なことは、創立時に本部との連絡がわなかった為に、創立総会から認証状伝達式まで非常に長くかかりました。

このことは私の終世の心のシミのように思っています。それにもかゝらず、本日の記念式典にご招待頂き、こうして皆様にお目にかゝることができました。10年前をふり返って、自分自身をいさめなければならない気持であります。当時の会員の皆様はいつでも立派な方々で、私共がご指導するよようなことは何もございませんでした。皆様の力で自然に盛り上ったのが当クラブと思います。

その後立派な活動をなされ、10年の歳月を地域社会の為に尽された奉仕の数々は、近くでよく拝見しております。どうか飯能RCの皆様方、いよいよ商売繁昌、又ご家庭の皆様方ご健康で、これからも飯能RCがますますご発展されますよう、過去を反省し、10周年のお祝辞を申しあげる次第でございます。

クラブ創立時分区代理 広沢輝雄殿

ご紹介頂きました広沢でございます。私の所属は川越RCで、長いことロータリーにあります。

本日この式に参列し、お祝いを申しあげることができますことは、非常に光栄でございます。飯能RC創立10周年記念誠にありがとうございます。又、私が当時の分区代理でありました為、記念品を頂戴いたし有難うございました。

なお、私は米山奨学会の理事をつとめていますので米山奨学会への寄付金をたしかにお届け致します。重ねてお礼申し上げます。このクラブが創立されました当時は埼玉県は4分区で、ガバナーは神守源一郎氏でした。鬼ガバナーと言われた方ですが、実際は理解の深い温情溢れる方で、現在もご壮健でいらっしゃいます。そのガバナーの下で第4分区代

理をしておりました。

ガバナーが何もかもお膳立てして下さったので、私は大したお手伝いもしないで、チャーターナイトには花章をつけて、大きな顔で参列したものでした。その後の飯能RCの発展は目ざましいものがございます。何回となくこのクラブを訪問いたしました皆様よくやっておられ、感心しております。あの名栗川の清流、この公害のない町なので、クラブの皆様的心も美しいのであらうと考えております。

10周年記念誌に何か書くようにといわれましたので、「飯能RCは心に公害のない方々の集りだ」と書きました。本当にそう思っております。どうかこれからも、ご家族の皆様方もロータリアンの家族として、ロータリーの奉仕活動にご協力の程お願い致します。

私の思い出話を申しあげましょう。私がガバナーの時川越で年次大会を開きました。そのあとのエクスカージョンに秩父の三峰神社へ参りました。長瀬で宿泊しての帰途、正丸峠を経てバスで飯能へ参りますと、飯能RCの方々全員が出迎えて下さりまして、私達一行にお土産を頂戴いたしました。その心温まるご厚意は、今も忘れることができません。他の方々も、時々思い出しては話しておられます。

どうか今までの心がけをお忘れなく、飯能RCのご発展にお尽力下さいますよう祈念いたしまして本日の祝辞と致します。

飯能市長 市川宗貞殿

飯能市長でございます。飯能RC創立10周年だそうでおめでとうございます。

10年前、私は信用金庫にご厄介になっておりました。「ロータリークラブが出来て毎週1回会合があるのだそう。随分大変だろうな、私には出来そうもない」と申したことを覚えております。只今伺いますと10年間無欠席の方が4人もおいでとのこと、又創立以来の方が16人もいらっしゃるこのことで、RCの方々には誠によくやっておられると感心致しました。

時間に対する観念とか規律が非常にやかましいとも伺っておりますが、何としても、健康でなくては到底できないことだとつくづく感じました。現在60余名の会員がおありだそうですが、全員ご健勝でこの先の20周年の式典をお迎え下さいますようお願い申し上げます。飯能RCの他に、ライオンズ、青年会議所、ボウイスカウトと、飯能には世界に通じる奉仕の団体が4団体あります。どうかこの4つが協力し合って、この地方が、この埼玉が、この日本が、この世界が、明るくほがらかに、そして奉仕の活動がスクスクと伸びてゆくことを祈念いたします。

この式典を記念して、飯能市、日高町、名栗村へそれぞれ記念品を頂戴し、誠に有難うございます。各々大切にして、飯能RCを大いにPRする所存でございます。ご好意ありがとうございました。



10周年記念事業（交通安全標識）

写真で綴る H R C と

その 10 年



認承式記念撮影(40.4.7)



平岡会長



式典会場アーチ



清水特別代表



式典会場内



交歓会



アトラクション



ガバナー公式訪問



広沢さん



繁田さん



年次大会（入間）



年次大会（川越）



I・C・G・F (48. 2. 17)



I・C・G・F (48. 2. 17)



静岡 R C . M U と親睦旅行（浜名湖）（44. 6 . 23～24）



親睦旅行（稲取）（42. 6 . 21～22）



箱根仙郷楼 (45.6.7~8)



京 都 (46.2.28~3.1)



箱根大涌谷 (49.6.19~20)



入間基地 (45. 1. 22)



三 R C 合同新年会 (45. 1. 22)



日本セメント埼玉工場見学 (46.6.16)



観劇会 日劇 (47.12.1)

12月 1日
P.M. 7:30
有楽町日劇
FLOOR 2
ROW 4
SEAT NO. 14
(座席番号)



A

V.S. 001



ボウリング大会 (46.9.22)



わ が 10 年 の 記 録

飯能ロータリークラブ

| | |
|-------|-------------|
| 創 立 | 昭和39年7月22日 |
| 承 認 | 昭和39年11月2日 |
| 認証伝達式 | 昭和40年4月7日 |
| 創立会員 | 36名 |
| 区 域 | 飯能市・日高町・名栗村 |
| 事 務 所 | 飯能商工会議所 |
| 例 会 場 | 埼玉銀行飯能支店 |
| 例 会 日 | 水曜・12時30分 |
| 姉妹クラブ | 韓国東清州R・C |
| 子クラブ | 越生毛呂R・C |

歴代 会長・副会長・幹事

| 代 | 年 次 | 会 長 | 副 会 長 | 幹 事 |
|----|---------------|---------|---------|---------|
| 初 | 39. 7 ~ 40. 6 | 平 岡 文 夫 | 双 木 卯之助 | 斉 藤 承 吉 |
| 2 | 40. 7 ~ 41. 6 | 小 林 貞 治 | 新 井 清 平 | 浅 見 滝次郎 |
| 3 | 41. 7 ~ 42. 6 | 双 木 卯之助 | 小 川 泰 | 吉 島 力 良 |
| 4 | 42. 7 ~ 43. 6 | 新 井 清 平 | 土 肥 無二三 | 小 川 郁次郎 |
| 5 | 43. 7 ~ 44. 6 | 小 川 泰 | 石 井 尊四郎 | 荒 井 栄 |
| 6 | 44. 7 ~ 45. 6 | 土 肥 無二三 | 梨 木 三 六 | 井 上 太 平 |
| 7 | 45. 7 ~ 46. 6 | 石 井 尊四郎 | 武 居 藤 吉 | 吉 田 富 雄 |
| 8 | 46. 7 ~ 47. 6 | 梨 木 三 六 | 中 里 進 | 溝 口 卓 男 |
| 9 | 47. 7 ~ 48. 6 | 武 居 藤 吉 | 荒 井 栄 | 江 原 寿 |
| 10 | 48. 7 ~ 49. 6 | 中 里 進 | 吉 島 力 良 | 曾 根 丈治良 |

国際ロータリー加盟認証状伝達式次第

昭和40年4月7日

ところ 飯能市公会堂

1. 登録受付 10:00~11:00
2. 伝達式 11:00~12:10
3. 観光 12:10~13:40

(飯能繊維工業KKレース工場見学)

天覧山桜花見物

4. 披露宴 14:00~16:00

余興(郷土芸能、飯能囃子)

5. 当日来賓招待者 27名
 参会者30RC 387名 } 489名
 飯能会員、家族 75名 }

6. ガバナー神守源一郎氏病気のため、バスターガバナー永沼政久氏が代理として認証状を伝達された。

7. 認証状伝達式次第

朝来より絶好の来陽に恵まれた飯能RCチャーターナイトの会場には、ぞくぞくと各地RCのロータリアン(県外遠く花巻、熱海、小諸、渋川より)及び来賓、招待者が到着されるのを地元会員と夫人家族等が笑顔と拍手で迎えた。

会場市公会堂は、前日地元会員と家族で、まれにみる華かな明るい準備万端完了。

定刻11時 進行係 齊藤幹事、小川SAAにより開始された。

A) 点鐘……………司会 特別代表 清水逸平君

B) 万国旗入場……………飯能高校プラスバント演奏裡に飯能ボーイスクアウト団の手に捧持されて。

昼食及び休憩

12:10～12:30 休憩（昼食） 飯能市公会堂

工場見学及観光

12:30～14:00 飯能繊維工業株式会社

レース工場見学と一週間早い桜花は蕾かたく惜しいことであったが全山若葉に彩られた天覧山桜花探勝は好評をはくした。

披 露 宴

会 場……飯能市公会堂

14:00～16:00 進行係 幹事 齊藤 承吉

- | | | |
|------------------|----------|-------|
| A) 開 宴…………… | S A A | 小川郁次郎 |
| B) 会長挨拶…………… | 会 長 | 平岡 文夫 |
| C) 来賓挨拶…………… | 分区代理 | 広沢 輝雄 |
| D) 余 興…………… | 郷土芸能飯能囃子 | |
| E) ロータリーソング…………… | 手に手つないで | 参会者全員 |
| F) 万才三唱…………… | ガバナー | 神守源一郎 |
| G) 閉会のことば…………… | 副会長 | 双木卯之助 |

以 上

創 立 会 員

1964. 7. 22

| | | | |
|-------|----------|--------------|---------|
| 新井清平 | 米穀販売 | 中清商店社長 | 明43. 9 |
| 荒川由吉 | 酒類販売 | 西武酒販社長 | 明39. 9 |
| 浅見滝治郎 | 木材販売 | カクニ製材社長 | 大4. 7 |
| 荒井榮 | 歯科研究 | 荒井歯科院長 | 明45. 7 |
| 土肥無二三 | 歯科医 | 土肥歯科院長 | 明28. 5 |
| 後藤平吉 | 郵便事業 | 日高郵便局長 | 大3. 7 |
| 平岡文夫 | レース製造 | 平岡レース社長 | 昭2. 3 |
| 細田徳二郎 | 玉突及ボウリング | 富士エースレーン社長 | 大12. 7 |
| 平沼伊兵衛 | 農業協同組合 | 飯能農協理事長 | 明40. 2 |
| 石井尊四郎 | 産科医 | 西武産婦人科小児科病院長 | 明27. 9 |
| 稲垣広助 | 陶磁器卸売 | 菊屋商店社長 | 明36. 9 |
| 井上太平 | 冷凍食品 | 井上冷蔵社長 | 大12. 5 |
| 小林貞治 | 木材製造 | 飯能木材社長 | 明29. 6 |
| 加藤音治 | 室内装飾 | 加藤装飯センター社長 | 明44. 9 |
| 蒲沢義夫 | 相互銀行 | 大生相互銀行支店長 | 大7. 3 |
| 町田右之亮 | 林業 | | 明37. 1 |
| 前島金助 | 薬品卸売 | 前島商店社長 | 明31. 8 |
| 又木卯之助 | 家具販売 | 鹿島屋社長 | 明28. 9 |
| 中里進 | 合成繊維品製造 | 丸中織布社長 | 明44. 6 |
| 梨木三六 | 建築 | 梨木建設社長 | 明36. 1 |
| 小川郁次郎 | 履物販売 | 紙屋代表取締役 | 明42. 7 |
| 小川泰 | 婦人子供服販売 | 松屋代表取締役 | 明31. 7 |
| 大久保三男 | 時計販売 | 大久保時計店社長 | 大2. 11 |
| 奥貫芳雄 | 商業銀行 | 埼玉銀行飯能支店長 | 大4. 2 |
| 斉藤承吉 | 衣料販売 | サイトウ取締役社長 | 明31. 5 |
| 曾木正夫 | 貯蓄銀行 | 武蔵野銀行飯能支店長 | 明42. 11 |
| 佐野万次郎 | 信用金庫 | 飯能信用金庫専務理事 | 明23. 3 |
| 武居藤吉 | 伐採 | 武居商店代表取締役 | 明34. 4 |
| 武田正章 | 貨物運輸 | 高麗川通運社長 | 大7. 8 |
| 武久宗吉 | 絹製品卸売 | 武久常務取締役 | 明34. 4 |
| 高橋満 | 税理士 | 高橋計理事務所長 | 大14. 12 |
| 上村勇 | 生糸製造 | 飯能製糸KK社長 | 明40. 8 |
| 横川竹造 | ホテル | 東雲亭社長 | 明31. 2 |
| 吉島力良 | 会計士 | 吉島会計事務所長 | 大10. 6 |
| 吉田富雄 | 呉服小売 | 吉田屋呉服店取締役社長 | 大10. 9 |
| 谷島豊一 | ゴム製品販売 | 三和ゴム商会社長 | 大10. 10 |

第1年度

1964.7 ~ 65.6

HRC

☆ターゲット☆

ロータリーに生きよう

- ロータリーを分かち合ふことにより
- あらゆる職業関係において
- 貴地域社会の指導的任務を通じて
- 世界的友好を通じて

1964~65年度R I会長 チャールズ W. ベッテンギル(米国)

「会員相互の親睦」

HRC会長 平岡文夫

人の和、人の立場、人間相互の触れあいを重んじた人であってこそ、30代で初代会長を立派に乗り切ったのだと思います。心の底からの親睦が、当クラブに今尚躍動を続けているのは、私害を持たない平岡さんのお陰である。
(文責 比留間)

| | | |
|-----|---------|--------|
| 役員 | 会長 | 平岡文夫 |
| | 副会長 | 双木卯之助 |
| | 幹事 | 斉藤承吉 |
| | 会計 | 奥貫芳雄 |
| | S・A・A | 小川郁次郎 |
| 委員長 | 国際奉仕 | 新井清平 |
| | 社会奉仕 | 武久宗吉 |
| | 青少年 | 武田正章 |
| | 職業奉仕 | 武居藤吉 |
| | クラブ奉仕 | 双木卯之助 |
| | 出席 | 加藤音治 |
| | 職業分類 | 小川泰 |
| | 会報 | 主肥無二三 |
| | 雑誌 | 稲垣広助 |
| | 親睦 | 荒川由吉 |
| | 会員詮衡 | 町田右之亮 |
| | プログラム | 吉田富雄 |
| | 広報 | 報石井尊四郎 |
| | ロータリー情報 | 小林貞治 |
| 理事 | | 平岡文夫 |
| | | 小林貞治 |
| | | 双木卯之助 |
| | | 新井清平 |
| | | 武久宗吉 |
| | | 武居藤吉 |
| | | 荒川由吉 |

入会者

| | |
|-------|------|
| 加藤 義市 | 40.3 |
| 曾根丈治良 | 40.3 |
| 田中 鎮次 | 40.3 |
| 山崎 省次 | 40.3 |
| 小峰 正夫 | 40.3 |

退会者

| | |
|-------|-----------------------|
| 横瀬 一郎 | 40.6.30以前に入会したものと認定する |
| 小峰 正夫 | 40.6.30以前に死亡したものと認定する |
| 高橋 満 | 小林会長就任時は退会しているものと認定 |



行事

- 39. 7. 22 クラブ創立総会 来賓 杉山、神守、柏原、中村、広沢、繁田、清水 諸氏
- 8. 8 第358地区大会 6名出席
- 9. 9 飯能R・Cバナー制定、ロータリーの友註文
- 10. 26 西部地区ゴルフ大会
- 11. 9-11 第358地区年次大会 (H. オータニ)
- 11. 12 国際ロータリー加盟承認
- 12. 26 クリスマスパーティ (レストランサイトウ)
- 40. 1. 20 親睦家族会 (東雲亭)
- 1. 27 高畑地区へ火災見舞金、5万円
- 1. 28 西部地区ゴルフ大会 (当R・C主催)
- 2. 24 クラブ協議会 (認承式の打合せ)
- 3. 3 チャーター伝達式案内状発送
- 3. 24 家族会
- 4. 7 国際ロータリー加盟認承状伝達式 (飯能市公会堂)
- 5. 24 西部地区ゴルフ大会 (霞ヶ関C・C)
- 6. 9 ガバナー訪問 神守源一郎氏
- 6. 13 埼玉県下英語弁論大会へ助成金

卓話

- 39. 7 清水逸平氏 R・Cのあり方
- 福本英一氏 職業分類
- 井ヶ田知吉氏 出席委員の仕事
- 8. 19 市助役小山氏 戦後の教育
- 8. 26 飯高中村校長 オリニックと聖火ランナー
- 9. 2 市教育委員富沢氏 飯能文化財
- 飯能警察吉田署長 交通事故防止
- 9. 23 史学研究家蔵原氏 豊臣秀吉時代の茶の湯
- 9. 30 史学研究家蔵原氏 豊臣秀吉時代の陶器
- 10. 14 飯高飯島氏 ロータリーソングの練習
- 10. 21 飯能消防署長 防火の話
- 10. 28 県商工部長大沢氏 県内商工業について
- 11. 4 渋谷飯能保健所長 長寿の秘訣
- 11. 25 田中検事正 社会情勢と日本人のあり方
- 12. 9 元陸軍航空士官学校校長菅原氏 太平洋戦争と南方作戦

40. 1.27 飯能一小校長新井氏教育の近代化
 2.3 関口芳正氏（十日町R・C会員）
 十日町の話
 2.10 日セ埼玉工場長青川氏
 日本のセメント工業の過去・現在
 ・将来
 2.17 飯能一中校長松田氏お茶
 2.24 飯能教育長岡田氏 教育の実際
 3.3 埼玉県商店診断員 県下並に各国に於ける商店経営
 三枝氏
 3.17 川越税務署法人課長須田氏
 法人税
 10 3.17 大江賢太郎氏 食品化学 現代及び将来の人間の
 食糧
 3.31 飯能林業事務所長清水氏
 森林について
 4.21 石井会員 性の問題
 4.28 井上会員 お酒の話
 5.12 映画会（チャーター伝達式）
 5.19 町田会員 公明選挙
 5.26 飯高飯島氏 短歌講座
 6.2 飯高校長新井氏 沖繩の近況
 6.16 ジェームス・ウィズイ夫妻
 日本の印象、学校教育、家庭生活
 育児
 6.23 市川宗貞氏 東南アジア、台湾香港の視察談
 6.30 石川元中將 空軍の南方作戦



神守 P.G.

第2年度

1965.7 ~ 66.6

HRC

☆ターゲット☆

1. 行動 2. 強化 3. 継続性

1965~66年度R I会長 C.P.H.ティーンストラ(オランダ)

☆小林会長の夢☆

「先づ出席」

HRC会長 小林 貞 治

小林さんは、親しさの中に、会場のムード作りに努め又地区大会協議会、認承式又は他クラブの例会等に出席することを会員に奨励し、彼自らも 200%出席率の模範を示した。(文責 比留間)

| | | |
|-----|-------|---------|
| 役員 | 会長 | 小林 貞 治 |
| | 副会長 | 新井 清 平 |
| | 幹事 | 浅見 滝治郎 |
| | 会計 | 奥貫 芳 雄 |
| | S・A・A | 吉田 富 男 |
| 委員長 | 国際奉仕 | 町田 右之亮 |
| | 社会奉仕 | 土肥 無二三 |
| | 職業奉仕 | 武田 正 章 |
| | 会務奉仕 | 新井 清 平 |
| | 青少年 | 石井 尊四郎 |
| | 出席 | 荒井 栄 |
| | 親睦 | 梨木 三 六 |
| | 雑誌 | 高橋 満 |
| | 会員詮衡 | 上村 勇 |
| | プログラム | 谷 島 豊 一 |
| | 広報 | 荒川 由 吉 |
| | 会報 | 井上 太 平 |
| | 職業分類 | 細田 徳次郎 |
| | ロータリー | 平 岡 文 夫 |
| 理事 | | 小林 貞 治 |
| | | 荒川 由 吉 |
| | | 新井 清 平 |
| | | 武田 正 章 |
| | | 町田 右之亮 |
| | | 土肥 無二三 |
| | | 石井 尊四郎 |

| | | |
|-----|--------|-------|
| 入会者 | 加藤 寿男 | 40.12 |
| | 比留間清治郎 | 41.4 |
| | 神田 邦武 | 41.4 |
| | 長沢泉一郎 | 41.4 |
| 退会者 | 蒲沢 義夫 | 40.11 |
| | 奥貫 芳雄 | 40.11 |
| | 斎藤 承吉 | 不明 |

行 事

- 40. 7. 14 会員協議会
- 7. 28 ボーイスカウト大会に助成金贈呈
- 8. 4 理事会
- 9. 1 理事会
- 10. 6 理事会
- 11. 10 理事会、奥貫芳雄氏退会
- 12. 1 加藤寿男氏入会、年末助け合い（福祉事務所、警察署
消防署、同仁学院、第一小、中特殊学級へ各1万円）
S A A より皇太子妃王子ご出産祝1万6千円
ジョンソン基地英語会に曾木会員出席
- 12. 22 忘年懇親会（於・給食センター）
- 12. 29 クリスマスパティー（於・レストランサイトウ）
- 41. 1. 12 理事会
- 1. 23 インターアクト地区大会（於 浦和） 中里会員出席
- 1. 26 親睦家族会（於 東雲亭）
- 2. 2 国際ガンセンターへ寄附1万円
- 2. 9 ノーネクタイ、サンダル履に100円罰金を決定
- 3. 10 第11回西部地区懇親ゴルフ会（於 久邇C・C）
- 3. 30 国体協賛時計台新設資金徴収
- 4. 1 神田邦武、比留間清治郎、長沢泉一郎君入会
- 4. 10 狭山RC、チャーター・ナイト
- 4. 13 椿本チェーン製作所埼玉工場見学
- 5. 11 高校生4名に奨学金
- 5. 17 西部地区RC親善ゴルフ大会（於 飯能C・C）
- 5. 29 新卒就職者激励会に寄附
- 6. 8 ガバナー竹田恒徳氏公式訪問
- 6. 12 埼玉県下英語弁論大会へ寄附
- 6. 17 県下新旧会長、幹事会（於 埼玉会館）
- 6. 22 例会をかねて懇親会（於 椿山荘）
4号大風見舞金（福祉事務所へ）
- 6. 27 第358地区協議会（於 H・ヒルトン）

卓 話

- 40. 7. 8. 18 比留間病院長比留間清治郎氏
世界の民族とその人間感情

- 9 .
10. 6 飯能電報電話局長棚木 大氏
飯能局の現状と将来
10. 20 映画会 R C 認証式の状況 8 mm
10. 27 飯中校長加藤氏 特殊教育
11. 10 埼玉銀松平晃氏 国際的に見た日本経済
11. 17 中村米平氏 R C 解説
11. 24 小林会長 南方諸国視察
12. 1 戸田画伯 美術について
12. 8 飯能警察署長松坂氏 青少年の犯罪
12. 15 荒川会員 南方諸国視察
12. 22 聖望学園ウィズィー氏
12. 29 平岡会員 レースの話
41. 1. 5 飯能市長市川氏 国体招致と市の協力
1. 12 平沼(伊)会員 郷土武士・中山氏について
1. 19 田 誠氏 雑誌週間について
2. 2 早瀬氏(国連) チリー・アルゼンチン等の風俗・
習慣・人情
2. 9 大川孝氏 飯能の上水道
2. 16 神守源一郎氏 R C の 5 つの週間について
2. 23 ミセス・スワダー(米)
アメリカ・イギリス・ドイツの家
庭生活
3. 2 県工業試験所長関根昌一氏
3. 9 飯能土木事務所長 小池清介氏
県の土木行政
3. 16 菅原道大氏 航空機の話
3. 23 肥田通夫氏(誠話産業 K. K 社長)
健康法
3. 30 武田一郎氏(研修学院)
ヨーロッパの教育視察法
4. 6 神田、比留間、長沢会員
入会の挨拶
4. 13 椿本チェーン製作所社長山中一郎氏
“運ぶ”
4. 20 高麗神社宮司 高句麗の由来
4. 27 森田豊氏 梅干療法



高麗神社

- 5.4 飯能職業安定所長門倉忠利氏
就職・退職者の現況等
- 5.18 飯能警察署関 交通係長
交通安全週間
- 5.26 大蓮寺住職田口義夫師
仏教と信仰
- 6.8 竹田恒徳氏 公式訪問挨拶
- 6.15 渡辺肇氏 国体と花一ぱい運動
- 6.22 椿山荘主任 椿山荘の来歴
- 6.29 平岡会員 韓国視察談



椿 山 荘

第3年度

1966.7 ~ 67.6

HRC

☆ターゲット☆

ロータリーでよりよい世界を

1966~67年度RI会長 リチャード L. エバンス (米国)

会長示針

- (1) 例会の始まる30分前に集合を励行。この間に会員の皆さんが楽しく歓談する。
- (2) 会員の100%出席に力を入れた。そして後半は、その業績が上った。

HRC会長 双木 卯之助

尚むづかしい三代目を引きうけました。何とぞ「楽しいクラブ」で終始できるよう、ご協力戴きたい。

| | | |
|-----|------------|-------|
| 入会者 | 小室 敏一 | 41.9 |
| | 財満 勲 | 41.9 |
| | 町田 義晴 | 41.12 |
| | ジェームス・ウイズイ | 41.12 |
| | 柴田 直 | 42.3 |
| | 平沼 保男 | 42.4 |
| | 小堺 実 | 42.5 |
| | 溝口 卓男 | 42.5 |
| | 宮田 憲一 | 42.6 |
| | 大久保三男 | 41.8 |
| 退会者 | 横瀬 一郎 | 42.4 |
| | 曾木 正夫 | 42.5 |
| | 田中 鎮次 | 42.6 |
| | | |

| | | |
|-----|---------|--------|
| 役員 | 会長 | 双木 卯之助 |
| | 副会長 | 小川 泰 |
| | 幹事 | 吉島 力良 |
| | S・A・A | 細田 徳二郎 |
| 委員長 | 社会奉仕 | 上村 勇 |
| | 国際奉仕 | 石井 尊四郎 |
| | 職業奉仕 | 武田 正章 |
| | 会務奉仕 | 小川 泰 |
| | 青少年 | 中里 進 |
| | 出席 | 前島 金助 |
| | 親睦 | 荒井 栄 |
| | 雑誌 | 町田 右之亮 |
| | 会員選考 | 荒川 由吉 |
| | プログラム | 井上 太平 |
| | 広報 | 新井 清平 |
| | 職業分類 | 武久 宗吉 |
| | ロータリー情報 | 平岡 文夫 |
| | 会報 | 小川 郁次郎 |
| | ゴルフ | 浅見 滝治郎 |
| | インタビュー | 曾根 丈治良 |
| 理事 | | 双木 卯之助 |
| | | 小川 泰 |
| | | 荒井 栄 |
| | | 石井 尊四郎 |
| | | 中里 進 |
| | | 上村 勇 |
| | | 武田 正章 |

行 事



第100回例会

- 41.7.6 「100回例会」にあたり記念品（ネクタイピン）贈呈
新役員挨拶
- 7.20 HRC会報が、ガリ版の月報から活字印刷となる
クラブ協議会、次年度より第358地区を2地区に分割
する（RI通告）
- 7.29 第4分区会長幹事会（於 所沢市）
- 8.31 大久保三男会員逝去退会
- 9.7 小室、財満君入会
- 10.26 松方三郎ガバナー「公式訪問」
- 11.2 双木会長、小林前会長を地区大会選挙人に指名
- 11.9 クラブ協議会
- 11.17 第358地区大会（於 H・オークラ）
- 11.18 川名正義君次期ガバナーに指名
- 11.24 西部地区ゴルフ大会 当RC団体優勝
- 12.14 町田、ウイズイ君入会
- 12.21 歳末親善家族会（於 東雲亭）
- 12.28 米軍将校夫人英語普及に感謝状
- 42.1.4 定款改正 名栗村加入
- 1.12 三地区合同親睦会 賀詞交歓
- 1.18 柏原孫左衛門来訪シクラブ討論会
- 2.25 第4区I.C.G.F（於 入間基地）
- 2.28 創立以来初めて全員100%出席
- 3.1 次年度理事決定 柴田君入会
- 3.22 次年度役員委員役割発表
- 4.5 平沼君入会 横瀬君退会
- 5.10 溝口、小堺君入会
- 5.30 曾木君退会
- 6.7 田中君退会
- 6.13 県下会長幹事会（秩父市） 宮田君入会
- 6.14 平岡工業KK工場見学、繁田正一君第4分区代理に決
定
- 6.16 第358地区協議会（於 H・ヒルトン）
- 6.21~22 新旧役員歓送迎会兼親睦旅行（稲取温泉稲取荘）伊東
国際CCでゴルフ会
- 6.28 東ヶ崎RI次年度会長当選
最終例会、双木会長挨拶、2月より6月の5ヶ月間全

員 100%出席次年度より会場を埼銀に移転

卓 話

41. 7. 13 松崎弥造氏 中国人の見た日本及び日本人
 7. 27 茂木光雄氏 剣道精神
 8. 3 市国体課長町田氏 埼玉国体
 8. 10 沼部氏(所沢高校) 漢字
 8. 17 市建設課長油谷氏 都市計画
 8. 24 飯能研修学院大浦氏 秀才教育
 8. 31 大石真人氏 奥武蔵高原
 9. 7 新井次郎氏 飯能戦争
 9. 14 井上紋次郎氏 明治維新前後
 9. 21 飯島武氏 欧米旅行談
 9. 28 市立東吾野病院院長岩村氏
 癌の話
 10. 5 飯能保健所長渋谷氏 献血運動・腰痛体操
 10. 12 毛利征一郎氏 宇宙映画解説
 10. 19 田辺文男氏 B. B. S 運動
 10. 26 松方三郎氏 ガバナー挨拶
 11. 2 警察官友の会高橋氏会の紹介
 11. 9 飯高生徒有志 英語劇
 11. 16 須永飯能警察署長 漫談
 11. 30 吉田・稲垣・中里会員 海外視察談
 12. 7 岩田万蔵 外2君 唐手
 12. 14 中里光男氏 経営の基本方鉢
 12. 21 映画(吉田会員) 西陣帯の生立
 12. 28 村田光司氏 健康法
 42. 1. 25 高篠薫一郎氏 南米より帰りにて
 2. 1 ナイトオラーン氏(スタンフォード大学)
 挨拶
 石井会員 女性性器解説
 2. 8 土木事務所長酒井氏 県土木事業
 2. 15 東電営業所長佐藤氏 東電の紹介
 2. 22 松方ガバナー 日本RCの歴史
 3. 1 飯能警察須永署長 物の見方、考え方
 3. 8 吉良憲夫氏 飯能焼
 3. 15 平岡会員 画で見る20年後の日本



飯 能 焼

- 3.22 大友亮氏 鯨
- 3.29 小川泰、長沢、財満、小林会員
他クラブ例会に出席して
- 4.5 青木三郎氏 新電元工業KKの紹介
- 4.12 管原道大氏 第二次大戦開始前の模様
- 4.19 鏑木一佐（入間自衛基地幕僚長）
航空自衛隊の内容
- 4.26 深谷光熙氏 いけばな
- 5.10 東京海上火災川越所長涌井氏
保険
- 5.17 財満会員 ライオンズクラブについて
- 5.24 智観寺往職中藤栄祥師
武州高麗郡中山村記録
- 5.31 石井会員 女性の身体内部構造
- 6.7 近藤狭山高校長 内観教育
- 6.28 丸木清美氏 チベット留学生の紹介

第3期（41.7～42.6）の年譜にそえて

双木第3代会長の「楽しい例会を」という方針が実って、5ヶ月間全員100%出席を達成、この記録は現在も破られずにある。又会員数も50名に近付き、クラブの運営もどうやらオーソドックスな形を整えたのが第3期の成果と言えるか。 (吉島)



行 事



例会場変更

- 42. 7. 5 新年度第一例会
第 357地区（埼玉、千葉両県）の新発足
新しい例会場—商工会議所から埼玉銀行飯能支店三階
ホールに移転—に於ける最初の例会
飯能 R C 第 150回例会を記念して、メンバー全員に18
金製バッチを贈呈
新しい首途と諸々の意味をこめて、祝宴・記念写真37枚
- 7. 12 埼玉国体に当り飯能市へ20万円、埼玉県へ5万円寄附
バナー紹介（武蔵 R C が7月1日から入間 R C と改称
）を小林君から
- 7. 21 所沢市民会館で所沢 R C 5周年記念会に新井会長出席
- 9. 10 第 357地区Leadership Forum に新井、中里、武田、
双木、前島の諸君が参加。於帝国ホテル
- 9. 13 敬老の日のお祝い
喜寿・佐野君
還暦・上村君、細田君母堂、新井君母堂、曾根君母堂
浅見君母堂、平岡君母堂
- 9. 27 新潟水害見舞として1万円贈る
- 10. 2 } 第 358地区年次大会が沖縄で開催され小林、武田、谷
4 } 島の諸君参加
- 10. 10 東村山 R C 認証式、新井、土肥、後藤、比留間、石井
稲垣、井上、小林、加藤音、加藤義、神田、町田右、
前島、双木、中里、梨木、小川郁、小川泰、武田、平
沼保、ウイズイの諸君に夫人連を加え26名が参加した
- 10. 11 新井きよさんを表彰。“幸の鐘”のマイクの前に無報
酬で立って、永年世の人々から感謝された
- 10. 13 } 第 357地区年次大会が千葉県館山市で開催され、新井
15 } 小川郁、土肥、平沼、小室、町田、溝口、財満の諸君
が参加
- 10. 22 埼玉国体開会式に新井会長参加
- 11. 10 第 4 分区会長、幹事会が入間 R C で開催、新井会長、
小川幹事出席
- 11. 12 小川 R C 認証式が小川小学校講堂を会場として開催。
新井、土肥、細田、平沼保、小林、加藤寿、加藤義、
前島、町田義、小川泰、曾根、武田、武久、横川、吉
島、山崎、中里の諸君が参加

「幸の鐘」の新井きよさんへ
ロータリー・クから感謝状

八年もの水いっ曲の鐘の音を
担当してきて飯能市所訂の新井
きよさんへ、十一日ロータリー
クラブから感謝状と記念品が贈
られた。
写真は新井商平会長が呈
状を受ける新井きよさん。



川名P.G.



チャリティショー

- 11.15 川名ガバナー公式訪問
- 12.11 入間、狭山、飯能のRCが合同で、ジョンソン基地夫人15名を招待し、附近地の名所、旧跡の案内。生糸、レース等の産業視察、日本庭園、茶の湯等の日本情緒を紹介し、国際親善を深める催しをした。
- 12.20 午後3時から東雲亭で最終例会。チャリティショーと忘年懇親会、
- 12.27 飯能市役所福祉課え5万円を歳末助け合いとして寄託1万円を市民体育館前のフラワーポット用製作費に。此は前回のチャリティショーで6万余円の協力の賜
- 43. 1. 17 入間、狭山、飯能RCの三地区合同新年会が午後3時から東雲亭で
- 2. 7 毛呂、越生地区えのロータリアン拡大のため、繁田分区分代理からの話で拡大委員会が発足し小林、後藤、比留間、長沢、曾根の5君が推挙された
- 2. 27 第4分区分ICGFが所沢RCがホストで開催され、小川泰、浅見、武田、曾根、小川郁、武居、財満、石井稲垣、新井、小林、山崎、宮田、中里、町田義、谷島土肥、比留間の諸君が出席
- 3. 5 東急ホテルで東ヶ崎次期RI会長の壮行会と勉強会を兼ねたインターシティミーティングに新井会長、小川幹事が出席
- 4. 2 第4分区分会長、幹事会が川越市であり新井会長、小川幹事、小川次期会長が出席
- 4. 7 坂戸RCの認証式に新井、土肥、平沼保、比留間、石井、小林、加藤音、加藤義、小室、町田義、前島、宮田、梨木、中里、長沢、小川泰、小川郁、曾根、武田上林、横川、山崎、後藤、平岡の諸君が参加
- 4. 14 小平RCの認証式に新井、前島、加藤義、町田義の諸君が参加
寄居RCの認証式に石井、小川泰、小林、江沢の諸君が参加
- 4. 23 第357地区年次大会準備委員会に、吉島、吉田の諸君出席
- 4. 24 飯能高校定時制生徒の図書費として新井会長、曾根職業奉仕委員長が校長を訪れ15,000円を贈呈
- 5. 8 川越RCから15年史の寄贈を受け会員に披露



親睦旅行

- 6.12 岐阜RC30年のあゆみの寄贈を受け会員に披露
- 6.14 第357地区協議会が東京プリンスホテルで新千葉RCがホストで開催され小川泰、荒井、平岡、比留間、石井、溝口の諸君が参加
- 6.19 第200例会記念、年度末親睦をかねた親睦、工場見学旅行で23名の参加。ライオン歯磨小田原工場見学後、市内古稀庵で昼食、伊東の海老名ホテルで例会並に親睦会、例会時200回全出席と、入会以来皆出席の諸君に夫々記念品が贈られた。
- 6.20 伊豆スカイライン、仙石原、御殿場を経て鶴巻温泉光鶴園で昼食、夕方全員無事帰飯
- 6.26 ベニス、ミラノ、ローマ、パリー、アムステルダム西の5クラブのパナーが欧州7ヶ国、14都市を視察された梨木、町田義、武田の三君から紹介された

卓 話

- 42.8.2 飯能保健所長和田歌氏
夏季衛生について
- 8.9 ジェームス・ウイズイ君
海外旅行土産話
- 8.16 飯能歯科医吉良蘇月氏
俳句について
- 8.23 飯能高校々長塚越氏人生への教訓
- 8.30 国史研究所長山上八郎氏
日本の風土と家紋
- 9.6 聖望学園校長沢田英彦先生
托鉢行脚に依るアメリカ3万kmの教育視察談
- 9.13 椿本チェーンKK安田忠雄氏
自動車のタイミングチェーンについて
- 9.20 入間基地広報班長白子三佐
日米安保保障体制について
- 9.27 石井君 老化阻止と健康管理
- 10.4 川越税務署課長補佐高坂和正氏
相続税外税法について
- 10.11 飯能電能電報電話局長鈴木俊造氏



新年会



- | | | |
|---------|------------------------|-------------------------------|
| | | 電信電話の現状と将来について |
| 10.18 | 小林君 | 沖繩大会より帰りて |
| 10.25 | 日本レスリング協会長・参議院議員 八田一郎氏 | レスリングについて |
| 11.1 | 飯能郵便局長横堀常雄氏 | 郵便事業の今昔 |
| 11.8 | 平岡君 | ソ連・欧州より帰りて |
| 11.22 | 飯能警察署長須永東作氏 | 無題 |
| 11.29 | 小林君 | 沖繩の8ミリに依る紹介 |
| 12.6 | 平岡君 | 洋行よもやま話 |
| 12.13 | 飯能第一小学校吉田先生 | 特殊学級について |
| 43.1.10 | 峰岸先生 | 手品の実演 |
| 1.24 | 狭山RC町田恒藏君 | 印度セイロン四方山話 |
| 1.31 | 安藤久夫君 | 飯能青少年相談員協議会の代表として、東南アジアを視察した話 |
| 2.7 | 日本通運埼玉支店長代理及川武夫氏 | 流通経費について |
| 2.14 | 田中義雄先生 | 社会教育のはなし |
| 2.21 | 石井君 | 更年期障害とホルモン作用 |
| 3.6 | 東電飯能営業所長浦野高雄氏 | 電力事情の現在と将来 |
| 3.13 | 平岡君 | バンコックよもやま話 |
| 3.27 | 華道家深谷光慈先生 | 華道について |
| 4.3 | 日産自動車重役新山春雄氏 | 日本のロケットについて |
| 4.10 | 埼玉銀行調査課長山村高男氏 | 経済情勢について |
| 4.17 | 比留間君 | 老化と老衰 |
| 5.1 | 飯能警察署長須永東作氏 | |
| 4.24 | | 無題 |
| 5.1 | 水野興道氏 | 詩吟 |
| 5.8 | 比留間君 | 老化と性 |
| 5.15 | 金子中学校長小谷野寛一先生 | 書く—ということ |
| 5.29 | 裏千家落合宗擁氏 | 茶ののみ方 |

第5年度

1968.7 ~ 69.6

HRC

☆ターゲット☆

参加し敢行しよう

1968~69年度R I会長 東ヶ崎 潔 (日本)

☆会長の夢☆

“炉辺会談を一齐に” “充実した年次計画を
樹てよう”

HRC会長 小 川 泰

| | | |
|-------|------|--------|
| 役員 | 会長 | 小川泰 |
| 副会長 | 石井尊 | 石井尊 |
| 幹事 | 荒井上 | 荒井上 |
| 副幹事 | 井藤太 | 井藤太 |
| 会計 | 加藤平 | 加藤平 |
| S・A・A | 後藤吉 | 後藤吉 |
| 委員長 | 国際奉仕 | 比留間清治郎 |
| 社会奉仕 | 前島見 | 前島見 |
| 職業奉仕 | 浅石井 | 浅石井 |
| 会務奉仕 | 石垣 | 石垣 |
| 青少年 | 稲曾 | 稲曾 |
| 出席 | 席類 | 上村卓 |
| 職業分類 | 報 | 柴田富 |
| 会誌 | 睦 | 吉小財 |
| 親睦 | 詮 | 財井上 |
| 会員 | 証 | 財井上 |
| プログラム | 報 | 財井上 |
| 広報 | タリ | 財井上 |
| 情報 | 報 | 財井上 |
| インタ | ア | 神田邦 |
| クト | フ | 神田邦 |
| ゴ | ル | 梨木三 |
| 拡大 | 大 | 小树林 |
| 財団 | 新 | 小树林 |
| 理事 | 小川泰 | 小川泰 |
| | 石井尊 | 石井尊 |
| | 新井清 | 新井清 |
| | 比留間清 | 比留間清 |
| | 前島金 | 前島金 |
| | 吉島力 | 吉島力 |

| | | |
|-----|------------|-------|
| 入会者 | 山長 又男 | 43.10 |
| | 松下 克己 | 44.3 |
| | 大野 光三 | 44.3 |
| | 品川 誠三 | 44.3 |
| | 沢辺 浩 | 44.3 |
| | 竹田 久治 | 44.3 |
| | 吉田 勇 | 44.3 |
| | 江原 寿 | 44.4 |
| | 安田 忠雄 | 45.5 |
| | 水越 昇 | 45.5 |
| 退会者 | ジェームス・ウイズイ | 43.7 |
| | 町田右之亮 | 43.9 |
| | 財満 勲 | 43.9 |
| | 山長 又男 | 43.12 |
| | 柴田 直 | 43.12 |
| | 加藤 寿男 | 44.4 |
| | 谷島 豊一 | 44.5 |
| | 中里 進 | 44.6 |

行 事



広沢 P.G.

- 43.7.3 新年度初の例会で、当 R C からの平岡第 4 分区代理をはじめ、会長、幹事から夫々挨拶があった。
R I 会長に日本人として初めての東ヶ崎氏をいたゞくことは意義深い
ロータリー財団委員を新設した。
ロータリー会費が 3 ドルから 4 ドルに値上げされた
新年度の発足を祝い懇親会をもつ
- 7.10 飯能保健所に採血資金として 1 万円贈呈
- 7.24 第 4 分区新旧会長、幹事会が飯能 R C がホストとなり東雲亭で開催。新井、小川郁、小川泰、荒井の諸君参加
- 7.30 ジョンソン基地米軍の招待による入間、狭山、飯能の三地区合同の親善ゴルフを武蔵 C C でやり、梨木君外 5 名が出席した
- 8.7 広沢ガバナー公式訪問
クラブ協議会后パーティ開催
広沢ガバナー、平岡分区代理をお迎えして、ウイズイ君が勉強帰米の為一時退会、当 R C の 7.22 の創立の記念等々の意味を籠めたパーティであったが殊更和やかであった
- 8.18 第 357 地区リーダーシップ フォーラムは熊谷 R C がホストでパレスホテルで開催、小川、双木、浅見、武居、柴田の諸君が参加
- 8.21 工藤製氷社長工藤文二君に感謝状、14 年間幼稚園児の送迎を車で、無報酬無事故でされた奉仕
- 9.18 ロータリー 5 周年誌編集委員は、歴代幹事で構成する
- 9.21 ボーイスカウト奥武蔵地区野営大会が飯能市営グラウンドで、21~23 の 3 日間開催され、小川会長は招待を受け、当 R C のボーイスカウト育成、協力に対しボーイスカウト埼玉連盟奥武蔵地区協議会長加藤氏から表彰を受けた
- 9.22 第 357 地区インターアクト年次大会が上尾県立高校で開催され、神田君が参加
- 9.25 パーティ、財満君の退会、荒川君の病気全快、敬老のお祝いを受けられた 9 人の方々の祝福等の意義を籠めて

- 9.27 第4分区分長、幹事会が航空自衛隊米軍オフィサーサービスで狭山RCがホストで開催、小川泰、井上、比留間、前島、武田の諸君が参加
- 10.9 家庭に持ち帰っては、教育上よくないと思われる冊子類を投入する為の悪書追放箱を市内各駅に寄贈
町田教育委員会次長から箱設置に関し、青少年不良化防止の立場から深謝の挨拶があった
設置場所は高麗、高麗川、吾野、東吾野、東飯能、飯能の各駅
- 10.12 天覧山の由来を述べた碑を天覧山登山口に建立寄贈、市川市長の手で除幕式を行った。
- 10.19 第357地区年次大会が川越RCがホストになり、川越
20 市市民会館で開催、当RCからも殆んど全員出席
- 11.6 越生、毛呂山地区の新クラブ発足の気運たかまり、同地区の発起人会有志6名が、例会见学の為来場、小林拡大委員長が紹介と挨拶
- 11.17 昭島RCの認証式に荒井、稲垣、井上、小林、同夫人加藤義、町田、双木、中里、武久の諸君が参加
- 11.20 秋田県大館北RC石田会長から大火お見舞に対し感謝の手紙を披露
- 11.21 第4分区分職業奉仕研修会を入間RCがホストで開催、小川泰、吉島、石井の諸君が参加
- 11.22 第4分区分会務奉仕A研修会を所沢RCがホストで開催
小川泰、小林、土肥、宮田、吉田、後藤、曾根、小川郁の諸君が参加
- 11.27 第4分区分会報奉仕B研修会を東松山RCがホストで開催、小川泰、小川郁、柴田、溝口の諸君が参加
- 11.28 越生、毛呂山地区RCの発起人会に会長、副会長、拡大委員会、4大奉仕委員長の諸君が招待された
- 12.14 国際商科大学ローターアクトクラブ認証式が川越RCがスポンサークラブとなり、川越市市民会館で開催、小川会長が参加
- 12.18 年末助け合い運動として、小川会長、前島社会奉仕委員長が当RCを代表して次の所へ寄附
市役所福祉事務所年末助け合い運動に5万円。第一中学、第一小学、原市場中学、原市場小学校の各々の特殊学級に1万円、飯能消防署、日高町老人学園に1万





忘年会

田寄贈

忘年家族会を午後3時から東雲亭で

- 12.25 飯能高校レスリング選手町田康君の第9回アメリカ遠征の壮行会と柴田君の退会を惜しんで会食
- 44.1.8 初例会にあたり市川市長の卓話の後パーティ
- 1.17 入間、狭山、飯能3RC合同の新年パーティが狭山がホストになり入間基地将校クラブで開催、多数参加
- 1.23 越生、毛呂地区の有志懇談会に小川泰、小川郁、小林曾根の諸君が出席、3月中旬創立総会を開く予定
- 1.25 山長君の葬儀が社葬として椿本チェーン埼玉工場で行われ、多数参列した
- 1.27 5周年誌編纂委員会の初顔合せをした。委員はバスト会長及幹事
- 2.8 埼玉県インターアクト協議会が春日部工業高校で開催され、小川会長が参加
- 2.19 第4分区ICGFは東松山RCをホストとして開催、小川泰、荒井、小林、井上、前島、町田、溝口、上村土肥、浅見、双木、比留間、武田の諸君が参加
- 2.21 越生、毛呂地区のRC発足について、会長、幹事、拡大委員の方々が東雲亭で炉辺会談
- 3.5 新会員の入会で一挙に49名となる。大野光、吉田勇、沢辺、品川、松下、竹田の諸君
年次総会で次年度の理事選出
- 3.12 次年度役員の発表
- 3.13 東京麴町RC、芝RC合同の認証式が国立劇場であった。小林、稲垣、溝口の諸君が参加
- 3.20 東ヶ崎RI会長ご夫妻の歓迎パーティがホテルニューオータニで開催され、小川会長、荒井幹事が出席
- 4.2 江原寿君入会、総員50名となる
- 4.15 第357地区第34番目のクラブとして越生、毛呂クラブの創立総会は、小林特別代表に依り無事結成式を終えた。当RCからは国旗、会旗、鐘、ニコニコボックス等を贈呈した
- 4.30 加藤寿君転勤の為退会
パーティ加藤君の送別と平沼伊君の市議再選のお祝いを兼ねて
- 5.6 西部地区RC親睦ゴルフ会に平岡君外7名参加



ハワイ大会



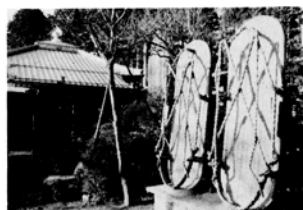
サブリン博士

- 5.7 安田忠雄君入会
奨学金を飯能高校2名、聖望学園2名の生徒に贈呈
- 5.11 鴻巣RCの認証式に荒井、江原、小川泰、前島、山崎の諸君が参加
- 5.14 水越昇君入会
パーティーハワイ国際年次大会に出席される小川泰、石井、神田、武田の諸君の門出を祝って
- 5.19 自衛隊入間基地からの入間、狭山、飯能の3RCに對する招待飛行で曾根、前島、品川、後藤の諸君が、YS11で郷土を空から見る催しに参加
- 5.28 5.25のハワイ国際年次大会に参加した小川泰、石井君並びに家族、神田、武田のみなさんは、無事帰国、本日の例会に出席
- 6.4 新聞少年の労をねぎらい、ノート、ボールペン等の品々を贈った。対象者121名
- 6.15 福生RC認証式が東京サマーランドを会場として開催され、土肥、井上、加藤音、加藤義、小室、前島、大野、山崎、小川泰、小林、竹田の諸君が参加
- 6.23 年度末親睦旅行、静岡RCに集団メイクアップ、館山寺温泉一泊

卓 話

- 43.7.10 武田君 ヨーロッパ旅行の感想
- 7.24 ニューヨークシティ、ルーテル協会牧師 クレメント サブリン博士 人種差別の問題
- 8.14 新井君 ロータリー財団委員会とは
- 8.28 旭光学工業(株)専務取締役吉田信行氏
我国のカメラの現況
- 9.11 比留間君 ロータリーの友に掲載された医学記事の解説
- 9.18 ソ連東欧貿易会専務理事小川精一氏
ソ連東欧の情勢について
- 10.2 比留間君 9.11に引続き解説
- 10.9 富沢実氏 民族文化史料館の構想
- 10.16 元入間基地司令坂口工藏氏
自衛隊の人づくり
- 10.23 戸田三顕画伯 現代日本画の見方

- 11. 6 入間基地広報班長細田一等空尉
中立国の防衛
- 11.13 松方三郎バスターガバナー
ロータリー財団に就て
- 11.20 埼玉県経営者協会専務理事森正樹氏
近代の労働行政のあり方
- 11.27 飯能市助役小山次郎氏
世相あれこれ
- 12. 4 不動産鑑定士今西定雄氏
最近の土地問題について
- 44. 1. 8 飯能市長市川宗貞氏新年のあきつ
- 1. 29 山崎君 金物類の供給と需要の調査
- 2. 5 小西六写真工業KK開発本部長橋田喜典氏
技術革新と智的能力の開発
- 2.12 平沼伊君 常識としての仏教
- 2.19 萩野昌己氏 ソ連帰朝談
- 2.26 広沢ガバナー ロータリー雑感
- 3.12 埼玉銀行調査部長永田武彦氏
経済問題
- 3.19 元入間基地司令坂口工蔵氏
東南アジアを旅して
- 3.26 テレビドクター近藤宏二先生
寿命は10年のばせる
- 4. 2 飯能一中校長小林五郎氏
教育の諸問題について
- 4. 9 埼玉銀行飯能支店次長加藤真三氏
職場のモラル
- 4.16 飯能警察署長野口正雄氏
交通について
- 4.23 増田金蔵氏 交通戦争は我々に何を教えるか
- 4.30 天竜寺住職楠筒亮映氏
子の権現
- 5. 7 大橋恭三氏 信玄公に学ぶ経営戦略
- 5.14 入間基地広報班長細田一等空尉
国土の守り
- 5.21 飯能文化財審議委員井上紋次郎氏
畠山重忠のはなし



子の権現

- 5.28 飯能駅長木村梅造氏飯能市表玄関のはなし
- 6.4 小川君 国際年次大会に出席して
- 6.11 埼玉銀行経営相談所次長金子文雄氏
商店経営について
- 6.18 神田道德氏 来るべき70年代

五年目の幹事を終えて

荒井 栄

会長さんが大変はりきっていたことが非常に運営に反映してクラブの体制がはっきりと足を地につけた感じで、1年がまた、く間にすぎた感じでありましたが、一番つらく、しかしまた楽しかったのは、ホストクラブとして、越生・毛呂の拡大が出来たことでもあります。しかし、ロータリーの拡大はなかなかのことで、幸い当時の広沢ガバナーの指導よろしきを得たことが印象に残ります。

第6年度

1969.7 ~ 70.6

HRC

☆ターゲット☆

再検討し、刷新しよう

1969~70年度R I会長 ジェームス F.コンウェイ (米国)

☆就任挨拶☆

ロータリー精神の昂揚と実践。コンウェイ新R I会長のターゲットを力強く押進めること

HRC会長 土肥 無二三

| | | | | | |
|-----|-----------------|---------|-------------|------------|-----------------------|
| 役員 | 会副幹副会 | 長幹計 | 土梨井武前 | 肥木上田越島 | 無二三 |
| | S・A・A | S・A・A | 町小加稲梨江 | 田室藤垣木 | 三六平章昇助晴一治助六三吉実徳二郎雄泰治貞 |
| 委員長 | 国際社職業クラブ青出職会雑親会 | 奉奉奉少 | 仕仕仕年席類報誌睦 | 田加稲梨江山荒小平小 | 義敏音広三幸省由伊兵衛郁次郎 |
| | プログラム | 少 | 衡 | 双神武小 | 木田久川 |
| | 広ロータリー | 情報 | 会 | 員 | 田富 |
| | ゴロタリー | 財団 | 員 | 推 | 小川 |
| | 会 | 員 | 推 | 大 | 小林 |
| 理事 | 土梨細稲加小小 | 肥木田垣藤室川 | 無二三六徳二郎助治一泰 | 田久川 | 林 |

| | | |
|-----|------------|-------|
| 入会者 | ジェームス・ウイズイ | 44.8 |
| | 谷島 豊一 | 44.11 |
| | 中里 進 | 44.12 |
| | 飯笹 健次 | 44.12 |
| | 前久保幸雄 | 45.5 |
| | 森 和夫 | 45.5 |
| | 入子 昌雄 | 45.6 |
| | 清水 勇三 | 45.6 |
| 退会者 | 宮田 憲一 | 44.10 |
| | 長沢泉一郎 | 45.3 |
| | 佐野万次郎 | 45.6 |

行 事



五周年誌



金氏の手紙

- 44.7.2 パーティ 新年度発足を祝って
- 7.8 西部地区 R C 親睦ゴルフ会が飯能ゴルフで行われ、平岡君外11名参加、団体三位入賞
- 7.23 創立 5 周年記念パーティが例会后開催された
- 7.30 飯能保健所に 献血運動資金に金一封贈る
5 周年記念誌協議会で、年内発刊を申合わす
- 8.27 親睦家族会月見の宴を宮沢湖で。基地外人家族も約10人参加して盛会であった
- 9.1 第 4 分区会長、幹事会が川越 R C がホストとして開催され、平岡地区諮問委員、土肥会長、井上幹事が参加
- 9.11 国際 R I 会長 J . F . コンウェイ氏夫妻の観迎会が、東京パレスホテルで開催され、土肥会長、井上幹事が出席した
- 9.17 西部地区 R C 親睦ゴルフ会が高坂 C C であり、梨木、長沢、水越、松下、小堺、神田の諸君が参加
秋の交通安全旬間の行事として、標語入りの花の種子 5200 袋を寄贈。自動車免許者の再教育を沢辺君のご協力で飯能自動車学校で実施
- 10.9 第 357 地区年次大会が、新千葉がホストになり開催、土肥、江沢、江原、平岡、稲垣、井上、小林、加藤音神田、小室、小堺、平沼伊、松下、水越、双木、梨木小川泰、品川、山崎の諸君が参加
- 10.12 国立 R C の認証式が国立音楽大学を会場として開催。土肥、溝口、小林、前島、町田、松下、小川泰、江沢の諸君が参加
- 10.29 宮田君転勤のため退会
- 11.5 飯能第一中学校外 4 校の特殊学級に助成金を贈呈
韓国清州 R C から越生、毛呂 R C え姉妹クラブとしての希望申入れがあった。越生、毛呂 R C は飯能 R C が適当と判断し、この旨連絡があった
- 11.9 田無 R C の認証式が武蔵野女子学院を会場として開催
小林、町田、前島、水越、武田、加藤義の諸君が参加
- 11.19 小林君の「勲五等瑞宝章」の受彰と谷島君の病気全快をお祝してパーティ
- 11.26 韓国清州 R C の金照模氏から、R C 同志のお付合をしてほしいと申入れがあり、当方も O K であると返事を



I・C・G・F



森田P.G.



越生・毛呂認承式

- した
12. 2 西部地区RC親睦ゴルフ会が狭山CCであり、比留間神田、溝口、松下、梨木、竹田、吉田の諸君が参加
12. 3 飯笹健次君入会
12. 17 歳末助け合い運動にと飯能市福祉事務所に5万円、飯能消防署に1万円、日高老人クラブに1万円夫々寄贈
12. 29 土肥会長の全快祝いと年忘れを兼ねて例会後パーティ
45. 1. 7 新年初例会のため、例会後パーティ
1. 17 第4分区会長幹事会が入間RCがホストで開催、梨木井上の両君参加
1. 22 三地区合同新年宴会が入間RCがホストで入間基地将校クラブで開催。例会終了後、殆んど全員これに参加
2. 4 浦和RCから15年の歩みと題する本を贈られた
2. 18 第4分区ICGFが飯能RCを会場として開催された152名参集し、熱心に討議された。
懇親会は東雲亭で川名リーダーの乾杯の音頭で始まり終始和やかであった
3. 7 第4分区会長幹事会が所沢RCがホストで開催、平岡土肥、井上の諸君が参加
3. 11 森田ガバナー公式訪問
クラブ協議会后パーティ
3. 18 年次総会、次年度の理事が選出された
3. 22 越生、毛呂RCの認証式に殆んど全員参加
昭和43年10月頃から盛り上ったRC結成の気運は、当クラブの指導と援助で、越生、毛呂RCとして完成
3. 25 次年度役員決定
4. 5 南多摩RCの認証式が読売ランドで行われ、小林、前島の両君参加
4. 8 新年度の委員会編成で改正された点は次のようである
ゴルフ委員会は、親睦委員会に含める
インターアクト委員会は、青少年委員会に含める
拡大委員会は解散
会務奉仕委員会は、10委員会を総覧する
4. 26 上福岡RCの認証式に、平岡、土肥、比留間、石井、井上、小林、小室、神田、前島、小川郁、小川泰、武久、武田、双木、山崎の諸君が参加
5. 6 森和夫君、前久保幸雄君入会



箱根旅行

- 韓国清州新R Cと姉妹クラブの締結に全員賛成、文書草稿にかゝる
- 5.20 300例会を記念して、ロータリー関係、地元関係者を招待しパーティ、5周年誌を配布
- 5.21 西部地区R C親睦ゴルフ会が小川C Cであり、松下、小堺、溝口、森、水越の諸君が参加
団体3位入賞
- 6.7 年度末親睦旅行。玉川高島屋を見学小田原經由箱根、
8 例会後懇親会一泊、河口湖畔經由塩山市恵林寺見学後帰飯
- 6.7 所沢商業高校のインターアクト認証式に中里君が代表として参加
- 6.11 佐野万次郎君は入院中の所逝去
- 6.14 親クラブである入間R Cの10周年記念式典に招待を受け、土肥、梨木、小林、石井の諸君が列席
- 6.17 入子昌雄君、清水勇三君が入会
飯能高校、聖望学園夫々2名の生徒に対し奨学金贈呈
- 6.24 第4分区新旧会長、幹事会が東松山R Cがホストであり、石井、井上、武田の諸君が参加
韓国ニュー清州R Cと姉妹クラブ締結
- 6.28 357地区協議会がホテルニューオータニで開催され、石井、江原、小川郁、武田、武居、山崎の諸君が参加

卓 話

- 44.7.16 原田泰夫八段 対局観
- 7.23 山口彰先生 信念の魔術
- 8.6 野口家嗣氏 郷土の民謡を聞く
- 8.13 飯能警察署長野口正雄氏
交通安全について
- 9.10 リコーカメラ販売K K取締役会長安島外喜雄氏
70年闘争と企業のあり方
- 9.17 文化財保護委員会富沢実氏
新しく指定になった文化財について
- 9.24 秩父織物商事K K社長中島照一氏
奄美大島について
- 10.1 アイディア(株)社長山中典士氏

- これからの企業とアイデア
10. 8 横川君 観光事業50年の思い出
- 10.15 比留間君 常識で理解に苦しむ二、三の臨床症例
- 10.22 安田君 私の見た日本海軍の航空戦力
- 10.29 浦和中央児童相談所相沢二郎氏
重症身心障害児を守る会について
- 11.12 毎日新聞論説委員金野宗次氏
佐藤内閣と安保、沖縄問題について
- 11.19 入間基地司令石井信太郎氏
日本の防空
- 11.26 飯能保健所長和田歌氏
公害について
12. 3 第 357地区幹事川口幸造氏
ロータリー財団について
- 12.10 中里光男氏 人事相談の技術
- 12.17 職業安定所飯能出張所長富田誠司氏
労働力需給について
45. 1. 7 飯能市長市川宗貞氏年頭に際して
1. 14 飯能警察署長野口正雄氏
交通事情について
1. 28 白百合幼稚園長藤原政太郎氏
運命のとらえ方
2. 25 沢辺君 品川君 メンバースピーチ
3. 25 日本赤十字社外事課長渡辺晃一氏
国際赤十字とナイジェリア難民救
援活動について
4. 1 江原君 大野君 メンバースピーチ
4. 8 飯能電報電話局長古屋数智氏
電話局概況説明
- 4.15 埼玉銀行調査課長山村隆男氏
当面の金融問題について
5. 6 江沢君 浅草の思い出
- 5.13 埼玉県商工部中小企業総合指導所長逆井清直氏
商店街の近代化について
- 5.27 飯能消防署長茂木勲三郎氏



5.6 江沢君卓話

消防事情について

6.3 埼玉銀行飯能支店次長加藤真三氏

企業における若手従業員の問題

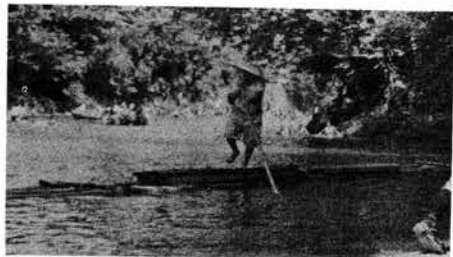
6.17 武蔵野銀行経営相談室調査役安沢猛氏

本年度中小企業の重点

一年を顧て

幹事 井上 太平

土肥会長が在職中に病臥したため、梨木副会長が代行、その間飯能RCがホストでICGFが行われ、大変な一年でした。



いかだ流し（武居君卓話）

花八つ手 通り榮えし いかだやど 筏宿 （川崎）

第7年度

1970.7 ~ 11.6 7

HRC

☆ターゲット☆

“隔りを取り除こう”

- 人と人との間の
 - 諸国間の
 - 人とその生活環境の
- 1970~71年度R I会長 ウィリアム E. ウォーク Jr. (米国)

☆我が方針☆

“楽しい例会”

“炉辺会談を活発に行うこと”

HRC会長 石井 尊四郎

| | | |
|-----|--------|--------|
| 役員 | 會長 | 石井 尊四郎 |
| | 副會長 | 武居 藤吉 |
| | 幹事 | 武田 正章 |
| | 副幹事 | 吉田 富雄 |
| | 會計 | 水越 昇 |
| | S・A・A | 町田 義晴 |
| | 副S・A・A | 江沢 幸三 |
| 委員長 | 國際奉仕 | 小川 郁次郎 |
| | ロータリー | 平岡 文夫 |
| | 財團 | 梨木 三六 |
| | 社會奉仕 | 溝口 卓男 |
| | 青少年 | 山崎 省次 |
| | 職業奉仕 | 武居 藤吉 |
| | クラブ奉仕 | 稻垣 広助 |
| | 出席 | 曾根 丈治郎 |
| | 職業分類 | 江原 寿 |
| | 會報 | 土肥 無二三 |
| | ロータリー | 後藤 平吉 |
| | 情報 | 淺見 滝治郎 |
| | 親睦 | 吉島 力良 |
| | 雜誌 | 荒井 栄 |
| | 會員詮衡 | 細田 徳次郎 |
| | 會員推薦 | 小林 貞治 |
| | プログラム | 荒井 栄 |
| | 広報 | 土肥 無二三 |
| | 理事 | 梨木 三六 |
| | | 小川 郁次郎 |
| | | 山崎 省次 |

入会者

| | |
|-------|-------|
| 佐野卯三郎 | 45.8 |
| 高荷 宗一 | 45.11 |
| 林 幸一 | 46.3 |
| 加藤善兵衛 | 46.3 |
| 川崎 一郎 | 46.3 |
| 高橋 啓夫 | 46.3 |
| 清水 栄次 | 46.3 |
| 木島 金助 | 46.5 |
| 橋本 重輔 | 46.6 |

退会者

| | |
|-------|-------|
| 谷島 豊一 | 45.7 |
| 小堺 実 | 45.10 |
| 武田 正章 | 45.11 |
| 淺見滝治郎 | 45.11 |
| 吉田 勇 | 46.2 |
| 土肥無二三 | 46.2 |
| 水越 昇 | 46.4 |
| 小川 泰 | 46.6 |
| 平沼伊兵衛 | 46.6 |

行 事

- 45. 7. 15 ニュー清州RC李憲雨君来会
- 7. 22 ニュー清州RC親善委員会設置
- 8. 19 河野ガバナー公式訪問
- 8. 26 狭山精密工場見学
- 9. 2 越生、毛呂合同例会東雲亭
- 9. 17 姉妹クラブニュー清州RC訪問団出発3泊4日参加者
26名、石井、武井、武田、比留間、後藤、小川郁、吉
田富、荒川、井上、細田、梨木、入子、山崎、町田、
加藤義、江沢、品川、平沼保、稲垣、加藤音、江原、
中里、前島、沢辺、小林、清水
- 10. 4 地区大会熊谷
- 10. 14 第一回優良従業員表彰5名
- 10. 21 スコットランド研究グループ来飯
- 11. 24 越生、毛呂合同例会山水荘
- 12. 16 忘年ボウリング大会
婦人交通指導員表彰
- 46. 1. 27 狭山、入間、飯能RC合同新年会
- 2. 20 6代目会長土肥無二三君逝去さる
- 3. 3 年次総会次年度役員決定
- 3. 5 I C G F 狭山RC
- 3. 24 ロータリー日本50年史発刊
- 5. 13 シドニー国際大会に参加8名、比留間、石井夫妻、江
沢、平沼保、小林、町田、梨木
- 6. 16 日本セメント埼玉工場見学
- 6. 23 5代目会長小川泰君逝去さる



訪 清



河野P.G.



SYDNEY

シドニー

卓 話

- 45. 7. 8 韓国教育大学教授李憲雨氏
音楽を通しての人間形成
- 7. 22 松下会員 親睦旅行8mm映画
- 7. 29 川越女子高飯島氏 教育を学校に任せるな
- 8. 5 石井会員 医学漫談
- 8. 12 河野ガバナー 隔りを取り除こう
- 8. 26 広沢バスターガバナーロータリー雑話
- 9. 2 森、前久保会員 挨拶
- 9. 30 武田、比留間会員 韓国訪問の印象

- | | | |
|----------|-----------|----------------|
| 10. 7 | 小川、山崎会員 | 報告事項 |
| 10.14 | 沢田氏 | ボーイスカウト |
| 10.21 | 入子会員 | 経済の見通し |
| 10.28 | 小川精一氏 | 最近のソ連・印度・中国を語る |
| 11. 4 | 高荷会員 | 挨拶 |
| 11.11 | 武居会員 | 西川村 |
| 11.18 | 平岡会員 | ロータリー財団 |
| 11.24 | 野々宮高成氏 | ヨーロッパ教育事情 |
| 12. 2 | 飯能職安富田氏 | 労働力の需給 |
| 12. 9 | 関交通係長 | 交通戦争 |
| 12.21 | 言論科研永崎氏 | 人間関係と話し方 |
| 46. 1. 6 | 市川飯能市長 | 年頭の挨拶 |
| 1.13 | 中里会員 | 小断 |
| 1.20 | 福祉事務所長梅本氏 | 福祉事務所のシステム |
| 2.10 | 東飯能駅長清水氏 | 国鉄の状況 |
| 2.24 | 小畑政男氏 | 中央教育審議会の教育改革案 |
| 3.17 | 村田光司氏 | 呼吸健康法 |
| 3.24 | 荒井会員 | 幼児の歯と健康 |
| 3.31 | 埼玉調査課山村氏 | 特恵関税 |
| 4. 7 | 副知事大塚茂氏 | 県の現在及将来 |
| 4.14 | 高篠薫一郎氏 | 欠陥車 |
| 4.21 | 比留間会員 | 前立腺肥大 |
| 5. 5 | 飯能署長吉田氏 | 青少年の非行問題 |
| 5.12 | 清水会員 | 衣料品業界から見た小売業者 |
| 5.19 | 東電飯能所長浦野氏 | 電力の歴史と現況 |
| 5.26 | 石井会員 | シドニー国際大会 |
| 6. 2 | 多田鉄之助氏 | 季節の味とスタミナ料理 |
| 6. 9 | 尾高分区代理 | 郷土史の一駒 |
| 6.23 | 加藤善会員 | 都市ガス |



皆様にお願ひ!!

幹事 吉田 富雄

憎まれ口になりますが、期限になっても提出書類がそろわず、又出欠の返事が一向に集まらない等は、時間厳守をモットーとするロータリアンとして御一顧戴きたいと痛感しました。

週報改正

第8年度

1971.7 ~ 72.6

HRC

☆ターゲット☆

善意は先づあなたから

1971~72年度R I会長

アンストG・ブライトホルツ (スウェーデン)

「親睦こそ、ロータリー活動の

原動力である」

HRC会長 梨木三六

| | | |
|--------|-------|--------|
| 役員 | 会長 | 梨木三六 |
| 副会長 | 中里進 | |
| 幹事 | 溝口卓男 | |
| 副幹事 | 江原寿 | |
| 会計 | 木島金助 | |
| S・A・A | 江沢幸三 | |
| 副S・A・A | 平沼保夫 | |
| 委員長 | 国際奉仕 | 比留間清治郎 |
| ロータリー | 財団 | 武居藤吉 |
| 社会奉仕 | 細田徳二郎 | |
| 青少年 | 井上太平 | |
| 職業奉仕 | 安田忠雄 | |
| クラブ奉仕 | 中里進 | |
| 出席 | 曾根丈治良 | |
| 職業分類 | 吉島力良 | |
| 会報 | 沢辺浩 | |
| ロータリー | 情報 | 石井尊四郎 |
| 親睦 | 誌 | 品川誠三 |
| 雑誌 | 吉田富雄 | |
| 会員詮衡 | 小林貞治 | |
| 会員増強 | 新井清平 | |
| プログラム | 荒井栄治 | |
| 広報 | 報 | 竹田久 |
| 理事 | 比留間 | 清治郎 |
| | 石井 | 尊四郎 |
| | 細田 | 徳二郎 |
| | 吉島 | 力良 |
| | 安田 | 忠雄 |

| | | |
|-----|-------|-------|
| 入会者 | 市川 清二 | 47.1 |
| | 大久保一郎 | 47.1 |
| | 井上 峰次 | 47.1 |
| | 大沢 正敏 | 47.2 |
| | 金子 重雄 | 47.2 |
| | 斉藤 文雄 | 47.2 |
| | 福田 禾積 | 47.5 |
| | 桜井 宗吉 | 47.5 |
| 退会者 | 荒川 由吉 | 46.9 |
| | 上村 勇 | 46.12 |
| | 入子 昌雄 | 47.2 |
| | 安田 忠雄 | 47.3 |





青山P.G.



下呂温泉

行 事

- 46. 8. 4 新旧役員歓送迎会雨だれ荘
- 9. 21 西部地区ゴルフ大会団体優勝
- 10. 6 親睦家族会夜の東京見物
- 10. 20 青山ガバナー公式訪問
- 10. 27 新電元工業見学会
- 11. 3 交通法規講習会
- 11. 17 越生・毛呂合同例会東雲亭
- 12. 8 新聞少年表彰
- 47. 1. 19 より良き世界を創るためにスライド映画会
新年会雨だれ荘
- 2. 18 入間・狭山・飯能合同例会於狭山農協
- 2. 26 ICGF所沢
- 3. 1 年次総会次期役員決定
- 3. 25 第357 第358 地区連合年次大会
- 4. 19 プリヂェストン工場見学
- 5. 10 川島村遠山記念会館見学会
- 6. 11 ヒューストン世界大会
- 6. 19 親睦旅行名古屋RC訪問、下呂温泉

卓 話

- 46. 7. 14 高橋会員 共産主義と利潤
- 8. 11 川越女子高飯島先生 ロータリーソングの練習
- 8. 18 小川洋先生 終戦当時の中国
- 8. 25 安田会員 我が社の貸金制度
- 9. 1 橋本会員 セメント業界の現況と将来
- 9. 8 町田恒蔵氏 東南アジアお茶の旅
- 9. 22 小林会員 ソ欧より帰りにて
- 9. 29 飯能簡易裁判所判事渡辺氏
裁判所について
- 10. 20 青山ガバナー 公式訪問
- 11. 10 石井泰彦氏 有間ダム
- 11. 17 広沢バストガバナーロータリー財団
- 12. 1 河野バストガバナー職業奉仕週間
- 12. 8 飯能市公報係長岡部章雄氏
広報はんのう
- 12. 15 入間基地航空偵察隊司令岩永氏

| | | |
|--------|-----------------|---------------|
| | | 航空偵察の概要 |
| 12.22 | 小西六八王子工場小見山総務課長 | カメラの出来るまで |
| 47.1.5 | 市川飯能市長 | 新年の挨拶 |
| 1.26 | 杉山分区代理 | 経営者としての考え方 |
| 2.2 | ウイズイ会員 | 国際理解週間 |
| 2.9 | 小堀憲助氏 | ロータリーについて |
| 2.18 | 西園寺公一氏 | 最近の中国事情 |
| 2.23 | 武居会員 | 名栗川の筏流し |
| 3.8 | 東清州金鐘声氏 | 南北赤十字会談 |
| 3.15 | 読売新聞社宮崎氏 | 佐藤以後の政局の行方 |
| 3.22 | 東洋大学上原教授 | 産学共同 |
| 3.29 | 竹寺住職大野氏 | 一隅を照らす |
| 4.6 | 森田バストガバナー米山財団 | |
| 4.12 | 小堀憲助氏 | アメリカに於ける奉仕クラブ |
| 4.26 | 保健正食普及会田中氏 | |
| | | 玄米食 |
| 5.10 | 清水会員 | 衣料品店から見た消費の変化 |
| 5.17 | 警察署長加藤氏 | 管内の交通事故 |
| 5.24 | 井上峰会員 | 森林の効用 |
| 5.31 | 大久保会員 | 小売業の「サービス」 |
| 6.7 | 飯高佐藤氏 | 飯能近辺の地質 |
| 6.14 | 牧野逸郎氏 | ロータリー研究会にのぞんで |
| 6.21 | 金子会員 | 製糸業 |



製糸工場

所 感

幹事 溝 口 卓 男

ガバナー公式訪問は10月でした。各委員会で、計画がたてられ、それを7、8、9の3ヶ月実施してみて、或る程度の自信が得られるなり、問題点が出た時期に、青山ガバナーの訪問を受け、半日がかりの討論や、有効なアドバイスで、お互に更に自信を深め、一層の興味をクラブ活動に持つようになった。各委員会は、期末まで失速することなく奉仕に努力されたが、10月という公式訪問のタイミングは、ラッキーであったと思う。

第9年度

1972.7 ~ 73.6

HRC

☆ターゲット☆

もう一度見直そう

1972~73年度R I会長 ロイD、ヒックマン (米国)

☆会長就任のあいさつ☆

- (1) 会員相互の友誼を深め、有意義な運営が出来る様、クラブ協議会、炉辺会談を活発に実行する。
- (2) 毎月1回以上、理事会を開き運営方針並びに重要事項を協議し実行したい。
- (3) 各委員会は、年間行事計画決定通りに実施し経済的にも健実な運営をされたい。
- (4) 適当な人物数名を入会させたい。
- (5) 1973年は、当クラブが10周年を迎えるのでその記念式典開催の為、特別委員会をもうけましたので、準備に遺憾のないよう、ご協力をお願いいたします。

HRC会長 武井藤吉

| | | |
|--------|-------|-------|
| 役員 | 会長 | 武居藤吉 |
| 副会長 | 小川郁次郎 | |
| 幹事 | 江原 | |
| 副幹事 | 曾根 | |
| 会計 | 木島 | |
| S・A・A | 清水 | |
| 副S・A・A | 加藤 | |
| 委員長 | 国際奉仕 | 井上里進 |
| | ロータリー | 中里 |
| | 社会奉仕 | 小室 |
| | 青少年 | 沢辺 |
| | 職業奉仕 | 竹田 |
| | クラブ奉仕 | 小川郁次郎 |
| | 出席 | 吉田富雄 |
| | 職業分類 | 稲垣克己 |
| | ロータリー | 松梨木三 |
| | 情報 | 梨森 |
| | 親睦誌 | 森町田 |
| | 職員 | 山崎省次 |
| | 会員増強 | 前島金誠 |
| | プログラム | 品川光 |
| 理事 | 広報 | 大野 |
| | 武居藤吉 | |
| | 小川郁次郎 | |
| | 井上太平 | |
| | 小室敏一 | |
| | 梨木三六 | |
| | 中里進 | |
| | 竹田久治 | |

| | | | | | |
|-----|--------|-------|-----|-------|-------|
| 入会者 | 榎崎 正雄 | 47.10 | 退会者 | 飯笹 健次 | 47.8 |
| | 松岡 誠 | 47.10 | | 双木卯之助 | 47.10 |
| | 柳内 貞雄 | 47.10 | | 小川郁次郎 | 47.11 |
| | 萩野 映明 | 48.2 | | 横川 竹造 | 47.11 |
| | 井上敬三郎 | 48.2 | | 橋本 重輔 | 47.12 |
| | 小野 拓章 | 48.2 | | 小林 貞治 | 48.1 |
| | 双木 久夫 | 48.3 | | 桜井 宗吉 | 48.6 |
| | 五十嵐喜八郎 | 48.5 | | | |
| | 山口 喬 | 48.5 | | | |

行 事



- 47. 7. 5 第 9 期第 1 回例会、新旧役員交替
- 7. 19 創立記念行事
- 8. 5 第 357 地区インターアクト年次大会
- 8. 16 半田ガバナー公式訪問
- 8. 25 第 8 分区合同例会ホスト狭山 R C
- 9. 15 老人ホームへ医療用ベッド贈呈
- 9. 20 第 8 分区合同例会ホスト当 R C
- 10. 4 家族合同親睦会（栗拾い）
- 10. 20 第 8 分区合同例会ホスト所沢 R C
- 11. 3 市長より感謝状（市庁舎新築に協力）
- 11. 12 新所沢 R C 認証状伝達式へ参加
- 11. 16 第 8 分区合同例会ホスト入間 R C
- 末 韓国養育園、濠州 255 地区病院へ援助金送付
本日より会報の見出しにカラー写真を採用
- 12. 1 親睦家族会（観劇会）
- 12. 11 第 357 地区世界社会奉仕委員会へ参加
- 12. 12 第 8 分区合同例会ホスト新所沢 R C
- 12. 20 忘年家族会、優良従業員表彰、歳末助け合い参加（各福祉事務所等）
- 48. 1. 10 マナグア市地震援助金送付
- 1. 15 成人者へ記念品贈呈
- 1. 24 新年会
- 1. 26 勤労青少年ホームへ百科辞典贈呈
小林貞治会員逝去
- 2. 17 第 8 分区 I C G F ホスト当 R C
- 3. 11 第 357 地区年次大会浦和 R C
- 3. 14 G S E 来訪
- 5. 13~17 ローザンヌ国際大会出席 3 名、石井、川崎、比留間
- 5. 16 飯能、聖望両高校生徒へ奨学金贈呈
- 6. 6 親睦旅行（熱川温泉）
- 6. 10 第 357 地区協議会参加
- 6. 13 特殊学級等へ助成金贈呈
- 6. 27 お別れパーティー



ローザンヌ

卓 話

- 47. 7. 19 歴代会長 思い出を語る、回顧談

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 8.16 | 半田ガバナー | 公式訪問 |
| 8.25 | 小堀憲助教授 | RCの原点を探ねて |
| 8.30 | 福田会員 | 椿本の給与の話 |
| 9.6 | 桜井会員 | 子供会のこと |
| 9.13 | 小堀憲助教授 | 職業奉仕とは何か |
| 9.20 | 安西愛子議員 | 最近の政治情勢 |
| 9.27 | 大島検事正 | 法の日になんで |
| 10.11 | 齊藤文会員 | 脳と心 |
| 10.20 | 千葉大椎名教授 | 円再切上とデノミ |
| 10.25 | 飯能警察宮原係長 | 現在の交通状況 |
| 11.1 | 文化新聞社長吉田氏 | 新聞週間に因んで |
| 11.8 | 埼玉銀行川野氏 | 円切上げの影響 |
| 11.16 | 鍋山貞親氏 | 政治状況の行方 |
| 11.22 | 電々公社高林氏 | 電話の話 |
| 12.6 | 森田バストガバナー | 職業奉仕について |
| 12.12 | 埼玉大学村川教授 | 日本経済の動向 |
| 48.1.10 | 市川飯能市長 | 新年を祝う |
| 1.31 | 齊藤飯能教育長 | 当地方とアイヌ |
| 2.21 | 檜崎会員 | 「お金」について |
| 2.28 | 飯島先生 | 歌唱指導 |
| 3.28 | 柳内会員 | お菓子の話 |
| 4.4 | 萩野会員 | 永平寺の生活 |
| 4.18 | 松岡会員 | ホテル経営 |
| 4.25 | 広沢バストガバナー | 一遇を照らす |
| 5.2 | 小野会員 | セメントについて |
| 5.9 | 若柳光八重さん | 日本舞踊について |
| 5.16 | 双木会員 | 教育の問題点 |
| 5.23 | 葩島護士 | 護士について |
| 5.30 | 石井会員 | 国際大会参加報告 |
| 6.13 | 齊藤分区代理 | 一年を顧りみて |
| 6.20 | 比留間会員 | アフリカの話 |



アフリカの話

第9期幹事として

江 原 寿

省りみると合同例会、リトルエンジェルズ観劇会、第7第8合同ICGF苦しかった又楽しかった1年間でした。この様なことは私の一生の内でもないと思います。

第10年度

1973.7 ~ 74.6

HRC

☆ターゲット☆

今こそ行動のとき

1973~74年度 R I 会長 ウィリアム C. カーター (英国)

☆「お 願 い」☆

“楽しい例会” “充実した例会” を目標とします。
 例会終了後、満足感をもって帰れるようにしたい。と思います、よろしく御協力下さい。

HRC 会長 中 里 進

| | | |
|-----|---------|-------------|
| 役員 | 会 長 | 中 里 進 |
| | 副 会 長 | 吉 島 力 良 |
| | 幹 事 | 曾 根 丈 治 良 |
| | 副 幹 事 | 細 田 德 二 郎 |
| | 会 計 | 木 島 金 助 |
| | S・A・A | 加 藤 音 治 |
| | 副 S・A・A | 林 幸 一 |
| 委員長 | 国際奉仕 | 溝 口 卓 男 |
| | ロータリー | 沢 辺 浩 三 |
| | 財団 | 江 沢 幸 三 |
| | 社会奉仕 | 江 沢 幸 三 |
| | 青 少 年 | 清 水 栄 次 |
| | 職業奉仕 | 品 川 誠 三 |
| | クラブ奉仕 | 吉 島 力 良 |
| | 出 席 | 柳 内 貞 雄 |
| | 職業分類 | 檜 崎 正 雄 |
| | 会 報 | 井 上 峰 次 |
| | ロータリー | 武 居 藤 吉 |
| | 情報 | 武 居 藤 吉 |
| | 親 睦 | 福 田 禾 積 |
| | 雑 誌 | 比 留 間 清 治 郎 |
| | 会 員 詮 衡 | 荒 井 栄 |
| | 会 員 増 強 | 川 崎 一 郎 |
| | プログラム | 大 久 保 一 郎 |
| | 広 報 | 加 藤 善 兵 衛 |
| 理 事 | 江 沢 幸 三 | |
| | 溝 口 卓 男 | |
| | 沢 辺 浩 三 | |
| | 品 川 誠 三 | |
| | 武 居 藤 吉 | |

| | | |
|-----|-----------|-------|
| 入会者 | 大 沢 昭 | 48.9 |
| | 大 野 勝 男 | 48.9 |
| | 新 堀 隆 治 | 48.9 |
| | 高 水 淳 太 郎 | 48.12 |
| | 関 口 和 夫 | 48.12 |
| | 宮 武 良 光 | 49.1 |
| | 斉 藤 秀 利 | 49.4 |
| 退会者 | 山 口 喬 | 48.3 |
| | 小 野 拓 省 | 48.7 |
| | 山 崎 省 次 | 48.7 |
| | 高 荷 宗 一 | 48.18 |
| | 木 島 金 助 | 48.11 |



ミネアポリス

- 行 事**
- 48. 7. 4 第10期第1回例会新旧役員交替
 - 7. 25 繁田ガバナー公式訪問
 - 8. 18 部門別協議会ホスト当RC
 - 9. 14 老人ホームへ什器類贈呈
 - 9. 26 交通功労者へ感謝状贈呈
 - 11. 17. 18 第357地区年次大会(入間RC)
 - 11. 21 新聞少年表彰
 - 12. 19 優良従業員表彰、歳末助け合い参加
忘年パーティー
 - 49. 1. 30 新年会、宮武良光新入会紹介
 - 2. 13 丸広デパートよりエレクトーンの寄贈
 - 3. 2 第8分区ICGF(狭山RC)
 - 3. 6 年次総会、次期役員選出
丸広寄贈エレクトーン初演奏
 - 3. 20 500回例会記念行事
 - 4. 16 GSE来訪
 - 4. 21 飯能青年会議所認承認伝達式参加
 - 5. 19 家族同伴観劇会(新橋演舞場)
 - 5. 29 横田基地教育施設見学
 - 6. 9~11 ミネアポリス国際大会参加5名、中里、梨木、吉島、
町田、比留間
 - 6. 12 飯能、聖望両高校へ奨学金贈呈
 - 6. 19 親睦旅行(箱根方面)

卓 話

- 48. 7. 25 繁田ガバナー 公式訪問
- 8. 1 比留間会員 ケニアの猛獣、8mm映画
- 8. 8 大宮西佐野氏 GSEからみたアメリカ
- 8. 15 荒井会員 謡曲の話
- 8. 22 元小西六工場長長谷川氏
自己暗示の効用
- 8. 29 吉島会員 ローターと私
- 9. 5 宇田海洋学会長 海の汚染の対策
- 9. 12 心理学者小川氏 人間心理と行動
- 9. 19 狂言師野村又氏 狂言の話と実技
- 9. 26 県議大成正雄氏 資源問題



maruhiro

エレクトーン寄贈



繁田 P.G.

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 10. 3 | 中根速記学校長 | インスタント速記 |
| 10.17 | 川越山本英二氏 | ハイジャック体験 |
| 10.24 | 入間基地花田氏 | 国土防衛 |
| 10.31 | 指圧師浪越氏 | 指圧よもやま |
| 11. 7 | スチープン氏 | 米の奉仕活動 |
| 11.14 | 中里会長 | 庚申塔の話 |
| 11.21 | 埼玉新聞梶氏 | 新聞の話 |
| 11.28 | 五十嵐会員 | 酒について |
| | 山口会員 | R C精神と経営 |
| 12. 5 | 江木言論科研長 | 生活の基本能力 |
| 12.26 | 新井分区代理 | 上半期を終えて |
| 49. 1. 9 | 市川飯能市長 | 年頭の挨拶 |
| | 大沢日高町長 | 年頭の挨拶 |
| | 町田名栗村長 | 年頭の挨拶 |
| 1.16 | 民謡家山田氏 | 民謡の話と実演 |
| 1.23 | 比留間会員 | 雑誌週間に因み |
| 1.30 | 宝井馬琴師 | 関東よもやま話 |
| 2. 6 | 田無R C浜中氏 | R Cバッジの話 |
| 2.13 | 埼玉銀行山村氏 | 日本経済の展望 |
| 2.20 | 狭山R C志村氏 | 2・26事件の回顧 |
| 2.27 | 狭山R C志村氏 | 2・26事件の回顧 |
| 3.13 | マンズW峰岸氏 | ワインについて |
| 3.20 | 平岡会員 | 500回例会記念 |
| 3.27 | 大沢昭会員 | 庶民と苗字 |
| | 大野勝会員 | 旅について |
| 4. 3 | ウイズイ会員 | 欧州の旅 |
| 4.10 | 新堀会員 | 川柳について |
| | 高水会員 | 落語の“おち” |
| 4.17 | 荒井会員 | R C活動雑感 |
| 4.24 | 旭ダイヤ山岸氏 | 浮世絵のみどころ |
| 5. 1 | 田村福三枝社中外 | 小唄と舞踊の実演 |
| 5. 8 | 通産省仲谷鍛氏 | エネルギー問題 |
| 6.12 | 安芸警察署長 | 管内の治安と交通 |

幹事を終えて

幹事 曾 根 丈治良

はからずも10年目の幹事を御引受けしたわけですが、何とか無事に務めを果し得て感謝して居ります。

我がロータリークラブも10年間に積上げた立派な実績と、たゆまぬ勉強が実って、選良の会員による優れたクラブであることを改めて誇りに感じて居ります。世に団体の数は多いわけですが、この様に1人1人が立派な会員によって構成された組織は他にないだろうと信じてうたがいません。

ローザの箱について

中 里 進

当クラブには、ニコニコBOXの他に、ローザの箱が有る。その名はロータリー財団よりつけたので、彼女はローザちゃんか、ミスローザ、或はミセスかマダムローザか判らぬ、その女性のイメージは各位にまかせてある。二つのBOXがあるのは、屋上屋を重ねるようだけれど、ニコニコBOXの寄附額には、定めがあるのに、ローザの箱にはそれがない。極めて自由で最低百円以上ならいくらでもよい。

むしろ献金理由をユーモラスに、明るく例会場のふんいきを盛り上げる為のBOXともいえる。皆さん彼女を大いに愛し、財団のパーセントを上げて下さい。

第11年度

1974.7 ~ 75.8.31

HRC

☆ターゲット☆

ロータリーの精神を振るい越こせ

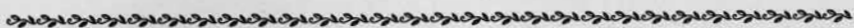
1974~75年度RI会長 ウィリアム R.ロビンズ

☆就任挨拶☆

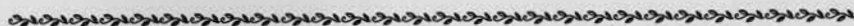
“楽しい例会”

HRC会長 荒井 栄

| | | | |
|-----|---------|------------|------------|
| 役員 | 会長 | 荒井 栄 | 井上 太平 |
| | 副会長 | 井細 田徳二郎 | 上田 敏一 |
| | 幹事 | 小室 淳太郎 | 室水 幸一 |
| | 副幹事 | 高林 久治寿 | 水田 三六 |
| | 会計 | 竹田 保夫 | 原江 三六 |
| | S.A.A | 林 幸一 | 田久 治寿 |
| | 副S.A.A | 竹田 久 | 原江 三六 |
| 委員長 | 国際奉仕 | 江原 三六 | 木沼 保夫 |
| | ロータリー財団 | 梨木 三六 | 沼保 夫 |
| | 社会奉仕 | 平沼 保夫 | ジェームズ・ウイズイ |
| | 青少年 | ジュームズ・ウイズイ | |
| | 職業奉仕 | 清水 栄次 | 井上 太平 |
| | クラブ奉仕 | 井上 太平 | 町田 義晴 |
| | 出席席 | 町田 義和 | 森子 重雄 |
| | 職業分類 | 金子 重 | 中里 進 |
| | 会報 | 中里 進 | |
| | ロータリー情報 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 親睦誌 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 雑員詮 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 員詮 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 員増強 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | プログラム | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 広報 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| 理事 | 中里 進 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 平沼 保夫 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 江原 栄次 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 清水 清 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |
| | 市川 | 比留間 清治郎 | 水田 勇三 |



特 別 寄 稿



飯能ロータリークラブ10周年記念誌発刊の祝辞

飯能市長 市川宗貞

西の空を秩父連山の美しい山並で画し、山の緑と清流に恵まれて、古くより人の和と勤勉によって育ってきたわが飯能市に、創立10周年を迎えられた飯能ロータリークラブ、そのクラブの記念誌発刊にあたり、心からお祝を申し上げる次第でございます。

豊かな自然環境と調和した文化都市の建設と福祉の向上に努力をいたしております本市に、ロータリー精神に徹し文化の香り高い国際的感覚の活動は、当地市の発展のために輝かしい「道しるべ」でありました。また会員相互の親睦を深め地方社会への奉仕に著しく貢献されておりますことは感謝に堪えない次第でございます。

明るい、平和な、そして豊かな社会の建設のため、ロータリーは地域社会を基盤として成りたち社会奉仕に貢献されるその真心が世界社会奉仕となり、国際平和につながるものであると存じます。

創立5周年に際して、初代平岡会長の「言」を拝借いたしますれば、「更に深く・更に広く・そして更に若々しく」大きく発展する力強さを日々の活動によって伺うことが出来るのであります。

福祉関係、交通関係をはじめとする埼玉県下英語弁論大会、ボーイスカウト大会等未来のある青少年に対する助成、援助、又献血運動資金関係への助成、高校生徒に贈る奨学金、ペルー震災見舞金、世界ジャンボリー大会への協力金、ネパール結核児救済基金、東パキスタン災害義援金、韓国李王妃養育園援助さらには市内特殊学級への助成、歳末助け合い関係、その他地域に対する数限りない活発な奉仕活動は、多大の業績をのこして今日の10周年を迎えられたのであります。ご活躍の中でも特に飯能クラブがホストになり「越生・毛呂ロータ

発足10周年に寄せて

日高町長 大 沢 正 雄

飯能ロータリークラブがここに10周年を迎えられ、誠におめでとうでございます。

飯能地方は昔から政治・経済各方面にわたり密接な関係にあります。この地域社会に大きな影響力を持つ会員の方々が、ロータリークラブの旗のもと一致団結、奉仕の精神で活躍され人類の福祉に貢献されたご功績と過去10年のご労苦に対し深甚なる敬意を表する次第でございます。

ご存知のとおり本年7月の参議院選挙の結果、良識の府も保革伯仲となり、わが国経済も高度成長型から、総需用抑制型となって物価の国民に及ぼす影響は政治不信を招きつつある昨今、当地方の中核をなす会員皆様方の言動たるや誠に重且つ大なるものがあると考えられます。かかる現実をふまえ、私どもは広い視野にたつて世界の動向を注視し時の流れに沿った人類お互の幸のため最善を尽さなければならないと存じます。

私も日高町政の担当者として、近隣市町村と相提携し、共に栄え共に自然環境豊かな山紫水明の郷土を守る重責を痛感しております。幸い皆様のご支援によりまして、日高町は歴史的条件及び産業文化の地理的条件等将来に向って大きく飛躍を続け、国及び県当局のご理解あるご指導と住民の皆さんのご協力により順調な歩みを見ておるのであります。しかしながら重要施策の実現には何と申しましても主権者である町民の皆さんの積極的なご協力と深いご理解がなくしては、その成果を得られないのであります。これがため町議会の慎重審議を経て成立した予算執行に対しましては職員一丸となり公僕として奉仕の精神に徹した業務の遂行に当たっておるのであります。私の就任当時即ち昭和46年度の決算総額は11億7千万円でございますが、本年度の当初予算総額は実に49

飯能ロータリークラブ10周年記念を祝して

名栗村長 町田 真之亮

此度貴クラブより祝辞をとの事でしたが生来の文盲にて御辞退させて頂く考へでしたが再度のおすゝめにより名誉ある投稿をさせて戴きますが御笑読願います。春秋の回転は速く貴クラブが発足されて既に10年と云うことで誠におめでたく存じあげて居ります。然しこの間会員諸氏の高度な社会奉仕に対する御努力は並大低でなかった事と厚く厚く御礼申しあげると共に深く敬意を表する次第です。最近特に社会道徳が地に落ち、民主主義が悪用され社会のあらゆる部門に於て混乱を続けている中でロータリークラブのみが毅然たる態度と黙々としてクラブの主旨を尊重これが遂行に日夜健闘しておられる、会員には心から感謝申しあげております。何卒今後共皆様のお力でよりよい幸福な平和な社会を築きあげて頂くようお願い申しあげてやみません。私は戦前剣道を僅かながら修業し戦後は弓道に転向いたしました、剣道に於ては殺人力でなく活人剣でなければならないと指導を受けました、又弓道に於ては戦前独逸の哲学者オイケンヘルゲル教授が日本の武士道を研究して之れを弓道に求めたとの話を聞きました。その結論として弓道は「当てる」のではなく「当たる」のであると此の二つの字句の相異は誠に幽玄にして私共未熟者のはかり知れない奥深さがあります。これを世界に論文として発表されたと申します。人間として完成された皆様は意識しなくとも自然的に高度な社会奉仕をなされていると推察いたしております。これが日本古来の武士道であり徳義であると存じます。皆様方の相互扶助の精神を一層昂揚して頂きますよう重ねて御願いたします。終りに飯能ロータリークラブの益々御発展と会員諸氏の御健勝御多幸をお祈りして御祝いの言葉といたします。

回 顧

第十代会長 中 里 進

人間クラブをホストにして、懇切な指導を受け、発足した飯能RCも、もう10周年の記念行事を迎える事になった。思えば10周年は短かった。アッという間である。最初何年かロータリーなるものが良く判らない儘夢中で過した。だがチャーターメンバーの一人として、あの頃誰が今日の飯能RCの盛大さを予想し得たろうか。現在私は此の立派な飯能RCに籍の在る事を誇りに思っている。

だが短かったと思う10年の間にも色々な事があった。

小林、土肥、小川、小峰、大久保、矢島、佐野の諸氏が不幸にして、此10周年を待たずして逝去された。まことに哀惜に堪えない、心より御冥福を御祈り申し上げます。昭和44年、小林さんの熱意で越生・毛呂山RCが誕生した。昭和45年比留間先生の御骨折りで、韓国の東清州RCと姉妹クラブ締結、親交を温めるため、当RCよりも26名が渡韓して交歓した事も忘れる事は出来ない。

357地区も、最初東京、千葉、埼玉であったが、千葉、埼玉となり、昨年より埼玉だけになった事は、それだけメンバーが増加して居る証拠だ。日本のロータリアンの数は、米国に次いで世界で2番目である。RIにとって日本は優等生であるに違いないが、RIの方針をその儘うのみにして、万事を律するより、もっと日本的なものをアレンジして日本のロータリーらしい方針を打樹て、もらいたいと考える。

終りに、埼銀さんに例会場で永い間御世話になった事、及び本を作った経験がないと判らないが10周年の記念誌を企画、編纂された比留間委員長をはじめ井上(太)、溝口、江原、松下、井上(峰)の諸氏の並大抵でない御労苦に対して心より御礼を申上げる次第です。

御 挨拶

国際ロータリー
第 357地区ガバナー 渡 辺 道 夫

飯能RCさんが、創立10周年を迎えられましたこと、誠に御目出度う存じます。

かの、ウィンストン・チャーチルが「これはまさしく始まりの終りである (The End of the Beginning)」と云ったように、私も亦、飯能RCさん草創時代の10年は本日終った。これから愈々潑刺たる活動を示すべき青年期が始まろうとしているのだと解釈し、その輝かしき第2幕の幕あきのために、その計り知れぬ可能性を秘めた将来のために、杯を挙げたいと存じます。

時あたかも、本年度RI会長、W・R・ロビンズさんは、「ロータリーの精神を振り起こせ」と呼びかけられ、ロータリアン一人一人が、みんな、いつでもどこでも、相手の立場を思いやり、奉仕に献身するよう激励なさっておられます。

飯能RCさんの輝かしき草創の10年がそうであったように、これから始まる第2幕も、少数のリーダー達の功績によってでなく、主役である全会員のGood Willの結集によって、益々素晴らしい花を咲かせることだろうと存じます。会長さん始め、理事、役員、委員の皆様が、クラブの全会員に、素的な奉仕への道を用意して下さるものと信じます。

重ねて、10周年御目出度うございますと申し上げ、将来の隆々たる御発展をお祈り申し上げまして御挨拶と致します。

遠い雲をみていたっけ

あのひとときの出会い

みじかい対話

あかるいイメージ

風のなか「さようなら」

桔梗が一本ゆれていたっけ

あなたは、やがて

白い帽子に真昼の陽をうけ

蝶のように

す、きのかげに消えていった

(蔵原伸二郎)

それにしても、平岡初代会長が時々、われわれのクラブを訪問して下さるのを、うれしくなつかしいと思って、眺めているのである。



蔵原伸二郎と飯能の桜を見て

花を見てかへるこの日の暮れがたし

眼のうちに光あるなり

(石川信夫)

もその通りだ。入れ方によってはうまくもなり味もないものにもなる。扱い方ひとつでいゝ加減にすると茶飯事になって了う。ロータリーの例会を御飯やお茶にたとえてその炊き方、入れ方を上手にしていたゝきたい。自分のものにしていたゝきたい。例会を上手にやっていたゝきたい。昼食会だなんて云われなくなるだろう。委員長の為に出席してやるなど考えず出来る限り出席すること、そして身も心も一緒に出席しなければいけない。

ロータリーの精神を振り起して下さい。

唯々仲よく楽しくやって行くことで夢々強いてはいけない。ロータリーは何時になっても完全とはならないと云われる。どうぞ前向きの進歩をして下さい。クラブのメリットを大に出して下さい。全体が楽しくなります。

10周年をお祝いしながら思いつくまゝを書いて見ました。

前途の御多幸をお祈りしてやみません。

野の花

夏草に昼顔の花沈み咲く

雨一過草に滴る水三筋

窓開け野の花活けよ朝の風 (黒田)

創立10周年を祝して

パストガバナー 河野 秀 夫

飯能RCが創立10周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。飯能といえは思い出すのは今でも同地方に名称の残っている高麗との関係です。古くからの国際交流が実って数年前より韓国東清州RCと姉妹クラブを締結し、国際親善に努めておられることはロータリーの国際奉仕の好事例であり敬意を表します。10年一昔と口で言うのは簡単ですが、10年の星霜はロータリーにとってはなみなならぬ奉仕活動の積重ねであり、ロータリアンの人生修業と生きがいの歴史であると思います。この10年間に飯能RCは数々の優れた業績を残して立派な成長発展を遂げられました。素より我々人間のやっていることで完全ということは至難です。ポール・ハリスは嘗てこう述べています“ロータリーはまだ欠点だらけで結構である、欠点があればこそ今後の向上発展の楽しみがある”と。飯能RCの皆さんには今日までいろいろのご苦心やお喜びも多々あったでありましょう。さればこそ10年のキャリアは当クラブを押しも押されぬベテランクラブに格付けされたと思います。ここいらでクラブ歴史の一区切として見直し、新たな跳躍台として将来の大理想達成の機会とされることは10周年記念の意義を一層深めることでありましょう。なおロータリーのキャリアを重ねて歴史と伝統に富んで来ることは人間で申せば老化に連ることであり古いクラブのマナー化を自戒すべきでありましょう。即ち新手の若い会員を絶えず注入して増強を計り、行動力旺盛な春秋に富む諸君をして活発に活動出来易いように指導して上げることが古いベテラン会員方の大切なお役目と思えます。勿論ロータリークラブは元々各業界の代表的人物の友好団体ですが、それは単なるグループではなくして秩序あるチームであります。

飯能クラブにおかれては有能なるキャプテン指揮の下に地域社会と密着して

奉仕活動に精進せられ、10周年記念を契機として益々発展されますように祈念
申上げてお祝辞といたします。

鮎のうた (森)

春 さわび萌える川の^べ辺を
むらがりおよぐ^{おきらみゆ}雅鮎よ
せせらぎの水^{みなわ}泡にたわむれ^{ひかり}陽光を吸い
力一杯流れをのぼりのほる
何^{どこ}処へゆくのか

夏 山百合におう川の瀬に
きらり光る若鮎よ
鋭く岩の垢をはみ^み反転し
水^{みづ}面より跳び跳ぶ
何を勇むのか

秋 コスモスの花に露重く
淵にゆうゆう^{くだ}下り鮎よ
海の匂いを遠く嗅いだか水にのって
しずかにくだりくだる
何を生きたか

冬 木枯しが川原をふき^ひ抜け
雪が流れに舞うとき
水は時をさ^いそい
そだてた^{いのち}生命うばった生命を青く
思い出しているだろう



飯能R Cの10周年に寄す

パストガバナー 半田利一

本年度R I会長ビル・ロビンズ氏はその行動指針として「ロータリーの精神を振るいおこせ」と発表した。「Renew」を振るいおこせと訳した事の是非については英語学者の議論にまかせるとして、こゝ数年のR I会長指針は必ず「刷新」「行動」「奮起」等と呼ばひかけ、70年に渉るロータリーの固定化し陳腐化した現状を打開せんとして居る事に注目せねばならない。

数に関する限りアメリカに次ぐロータリー大国に成り上った日本の現状は如何であろうか、正にロビンズ会長の叱咤激励は我々の為に呼びかけられたと云っても過言ではないと思う。

始祖ポールハリスは「ロータリーは汚濁の都シカゴをその生誕の地を選んだ事について豪も恥じる必要はない」と云ったが、あの逆境の中に芽生えた友情と結合、そして思いやりの精神が今日我々の型式化した例会、奉仕活動の中に実存するかどうか甚だ疑問と謂わねばなるまい。

我が飯能R Cはこゝに10年の歳月を閲したが、私は敢えて甘美な賞め言葉を呈する代わりに我々の現状をもう一度反省し真に価値ある飯能ロータリーのクラブ作りの為、次の10年にスタートを切られる様心から御奨めしたい気持で一杯である。

ロータリーの金バッチが富と権勢、或いは高い社会的地位を現はした時代はとつくに過ぎ去った事を改めて認識して欲しい。

飯能の町作りの為、例え僅かでも自分の情熱を捧げたい希望を持つ市民ありとせば、ルールに合致する限り最大限の寛容度を持ってクラブに迎へ入れる可きである。本クラブが過大となるならば第二、第三のR Cを創設す可きであるかくして一般市民間のロータリーに対する異和感は解消し、親近感をもたらし

且つ世界市民としての連帯感を与え、クラブの若返へりと強化を強力に推進する事になるであろう。

私は良く反省する。従来のRCは余りにも完全を追いすぎたのではないか、即ちロータリーで謂う60%は我々凡庸人と唯ども努力次第で80%或いはそれ以上に到達し得る可能性を現はすものであり決して例会途中で逃げ出す為の免罪符ではないと。

今や一県一区となった埼玉ロータリーの中堅クラブとして飯能クラブの持つ潜在能力を最大限に発掘していただきたいものである。

研究そして練磨の10年は去った。より良き明日の街造りを目指して会員諸君次ぎの10年を共に大いに頑張ろうではないか。



創立当時の思い出

直前ガバナー 繁田正一

飯能ロータリークラブ創立10周年おめでとうございます。

飯能クラブ創立当時の経緯を書くには、入間ロータリークラブ（当時は武蔵RC）が昭和34年に発足した事から書かなければならない。

当時の国際ロータリー第355地区は関東甲信越を地区としておりガバナーは柏原孫左衛門先生であった。埼玉県下には、川越、熊谷、浦和、大宮の4クラブきりない時代で、一県一分区で大塚作太氏が分区代理をされていた。

この当時、埼玉にもようやく拡大の気運がもり立ってきたが、何としても一般にロータリーの理解度がうすく、遅々として進まない状態であった。

始め大宮クラブでは、飯能か所沢に新クラブを創るべく、商工会議の線からアプローチしていたが、これ又なかなか難航して話が進まない。

それで方向転換をして、飯能、武蔵、狭山の広域で作るべく商工会長によびかけて、ようやく足がかりを作った。地理的に三市の中心は武蔵町になるので武蔵ロータリークラブが難産の末に誕生し、会場は料亭魚一のお座敷で行うことになった。

飯能からは故人になった小林貞治君、及川愛吉君それに平岡文夫君、横川竹造君、佐野作次郎君がメンバーとなって21名で発足した。

それから5年、県内各地にも次第に新クラブが創立され飯能もそろそろ独立しようという事になった。

特別代表に清水逸平君を選び、私はその補佐役という事になったが、新クラブ設立の経験はないしその手続きもよく知らない。当時は川越の広沢先生が分区代理だったので、色々教えて頂いてようやく創立総会にこぎつけた所、バストガバナーの柏原孫左衛門、中村米平両先生も来ていただいたが、手続きの不

備や書類作成上のミス等が重なり、大先輩に大目玉を頂戴してしまった。

それでも曲りなりに創立総会をすませていたゞいて、夜おそくまで書類の作りなおしをしてガバナーにお届けした処、再び職業分類やテリトリーの再訂正を命じられたので、創立総会からR I 認証までの期間が大分長くかかってしまったのは私の責任である。

そんなわけでガバナーとはこわいものだと思っていた私が、去年はガバナーを務めさせていたゞいたのだから、まったく今昔の感にたへない。

その後飯能クラブがスポンサークラブとなって、昭和44年に越生・毛呂クラブが見事に誕生した。分区代理経験者も既に2名いられる。名実ともに地区内の中堅クラブとして活躍していただゞいていることは、私にとって有難いことだし、こんな嬉しいことはない。

飯能クラブ10年の歴史は貴重なものです。しかしその10年はもう終わりましたこれから20年に向って再び力強い第一歩を新しくふみ出す時が来ました。

そしてよりよい飯能ロータリークラブを次の時代の人々に引継いでもらうよう、限りない前進を続けていたゞきたいと思います。



祝 辞

東清州ロータリークラブ元会長 洪 淳 逸

敬愛する飯能RCの会長会友の皆様！ 貴クラブの憲章伝授10周年記念盛典を心から御祝い申し上げます。併せて、貴クラブが一昔の永きに亘り、ロータリー理念具顕の為、日夜専念せられた歴代の会長会友の皆様にご敬意を表しその燦たる業績に讃辞を捧げます。

貴クラブと弊クラブの姉妹結縁は既に4歳に及び其の間、数々の御指導を蒙り又善隣の誼みの良き標本を御示し下され、我々東清州RCの会友一同常日頃良き姉妹クラブをつ衿持と感謝の念で一杯です。

御蔭様で弊クラブもスクスクとのび、去る7月5日憲章伝授5周年記念式を盛大に持ちました。結縁当時を顧みますとその時会長の席を汚して居た私には生涯忘れる事の出来ない数々の思い出を残して居ります。

1970年の9月17日と記憶して居りますが皆様の御光臨を頂いた時、私は終戦後20余年ぶりに始めて日本語を口にしました。

昭和の始め笈を負ふて東京に遊んだ事のある私にとってその日は4昔前の事共をしのぶ良契機を作り40余年前の沢山の学友の顔が眼のあたり浮び揚りその晩は転帳夜の更けるのも知らない程でした。

加之錦地の高麗神社は高句麗の王孫若光王を祀る神社である事を承り、貴クラブとの結縁はありふれた、形式的な結縁とは違い何か神の啓示に依る結縁の様に思はれ、尊い感にすらいたれました。

如斯我々をして意義ある姉妹結縁の月下氷人の役割をしてくださった貴クラブの、比留間清治郎会友と弊クラブの金熙模会友に今更乍ら感謝と敬意を表するものです。

以上簡単乍ら、貴クラブの憲章伝授10周年記念盛典を祝し併せて会長様を始

め会友皆様の御健勝と、貴クラブの無窮なる発展をそして亦、両クラブの親善の度が益々深まる様、神に祈り乍ら擱筆致します。

1974. 8 東清州 R C 洪淳逸

(註)

洪淳逸氏は、1970年当クラブと姉妹締結当時の会長であり、3月6日締結の交渉に私が参りましたとき、清州で先生の立派な邸宅に迎えて、美味しい韓国料理を御馳走して下さいました。目下事業を御子息様にゆづられ、養鶏を趣味として自適の生活を送って居られる由。(比留間記)





会 員 寄 稿



出席について

新井清平

出席と云う事は何んのときでも先づ出席からと云う様に一番大事なことです。しかし毎週水曜日となると仲々大変な事でこれには各人が皆それぞれに苦勞をされていることと思つて居りますが、今度10周年に際して、10年間100%の人が何人が居られるとのこと、全く大したものでも仲々出来ない事です。

私などはロータリー創立当初簡単に考へて欠席をしてしまったが、これが今日になると悔まれてならない。あのときのあの一日がなければと思うのである。しかしそれが一つの動機となつて出席について特に注意し、又家族の者も注意してくれる様になつて以後は今日まで100%を続けて来ている次第ですが、物は取りようですが、私には良い薬になつたと思つている。この事は各ロータリアンの中には私と同じ様に思つている人も相当居るのではないのでしょうか。

出席は容易ではない。しかし心掛ければ出来ると云う事を、又一方出席し易い例会、つまり楽しい例会にする事が必要でこれを皆んなで心掛けるそのためには各自が良く知り合つてお互に話し合が出来る様にしなければいけないし、この事は歴代の会長さん。幹事さん、そして出席委員長さんが努力されて居られ、それだからこそ当クラブも出席は相当の成績をあげていると思つています。出席については日本人は平均して良い方で、357地区、349地区は特に良いとされているようです。外国の中には70%から60%のクラブもあるとのことですが、これを考へると今更そんなに出席に拘る必要もない様に思われますがなんとしても先づ出席ですからこれからも努めて出席をする様にしなければいけないと思つています。ロータリーはその地区の各々の業界の代表者の集りで普通ではとても話しをする事の出来ない様な人々と僅か1時間と云う短い時間ではあるが、話が出来るのであり、これこそロータリーでなければ出来ないことです。それだけに自分に興へられた良い機会である。進んで話しをし、立派なそういう人々から色々な面で学ばせて貰うことが出来るのだと思へばもったいない。欠席は出来なくなる、又一方お互が相当打解けて話が出来る様になれば、時に

は自分には嫁にくれる娘がいる、或は嫁を貰う息子がいる適当な人が居たら世話してくれとか云える様になれば、尚一層例会が楽しくなる様に思われる。色々な会合には出来るだけ出席して多くの人と話し合える機会を持って努めてお互いが話し合う様にすれば出来ない事はないと思います。これからも飯能クラブがより一層良くなる様にしたいものです。

あ る 感 激

荒 井 栄

それは二年前のことであった、寒さもやわらいだ3月も中旬のこと。親戚のものが腎臓結石の手術で相模原の国立病院に入院しているというので息子の運転で見舞に行くことになった。先づ予備知識として車の説明をしておかねばならぬ。コロナのノークラであるが車検も一回すませている所でそんなに調子は悪くなく走っている。

その日は快晴。従兄弟が一緒に行くというので来てもらい朝から出かける。日曜であったが道中は大した混雑もなくすいすいと予定通りに進み、車中でもやま話をしている内に病院に着く。

手術も無事にすんだ患者は、案外元気で、取り出した結石が意外に大きなものであること、また大手術で生死の境をさまよったことなどいろいろ思い出を語ってくれたが声も大きく、ジョークをまじえての会話に一先づお互いに無事にすんだことを喜び合い、あまりの長居はかえって迷惑になるのでお邪魔して帰路に着く。病院を出たのは2時頃、道は大してこまず、これでは予定通り帰宅出来ると話しもはずんでいたが、御殿峠をすぎ八王子に入る頃になるとどうも車の調子が変だという。倅は学校で自動車クラブに入っているので車の診断は若干わかる訳。このまゝではどうも家まで行かれないかもしれないと心細いことをいう。とにかく行く所までと進んでいる中に八王子市内を出る頃益々調子が悪く車のスピードも落ちてくる。坂道にかゝっては氣息奄々あまりの低スピードに他の車に迷惑をかけるような状態で止むを得ずガソリンスタンドによりエンジンを

休め、油などの点検をしたがその点では異常がない。再び途中エンコを予測しながら走らせてくると多摩川の橋を渡った所で加速は殆んどなくなり本命のエンコということになってしまった。幸いスタンドが近いので車を押してたどりつき車をおかせてもらいハイヤーをたのむことにする。前置がすこし長かったが、この状況をお話しておかねば表題の感激の気持が書きあらわせない。これからが本題である。

ハイヤーは京王タクシーの昭島営業所のもので岡野さんという運転手。年齢は40才位、一見親切そうな人である。事のしだいを話すと、エンコの車を見て“これではだめですね”といって車を走らせる。車中倅と今後の処置について話していると、突然岡野さんが“私をもって行ってあげますよ”という。あまりのことでわが耳をうたがったが“私にまかせてくれ”と再びいってくれる。事実レッカー車でもってくるにはと、とまどっていた時であったので話しにあいづちをうってみると、岡野さんは続けてこういう。“私は青梅です、もう一人仲間がやはり青梅から来ている。仕事が夜中の2時にあがるがそれから二人で車で引いて行ってあげますよ。恐らく飯能につくのはあけがたになると思いますが自宅にとゞけてから青梅に帰ります。これも何かの縁でしょう”という、全然見ず知らずの人であり、たゞ飯能に縁のあるものであるということだけでしかも仕事ですんでから疲れもかえり見ずやっってくださいという事になんと返事をしてよいやらあまりの突然のこと、しかも現代世相のつめたい時に、実際に困っている所を見て自然とたくまらずらすらと泉の湧き出るように、押しうりでない親切な善意を見せられた時、ほんとに心の内から熱いものがこみあげ、これこそ“小さな親切”の実行にもつながることで唯その善意に甘えて“それではどうぞよろしくお願いします”という。後とで一応夕方ハイヤーで家につく。家の所在地を確認してから“それではあけがたになりますがお休みになっていたゞいて結構ですよ。表に車をおいておきますから”といってくれる。しかし自分の仕事が終わってから、しかも夜中に二人でやってもらって頼んだ当方がゆっくりねている訳にも行かないので倅と一緒に起きてまつことにする。事実失礼なことであったが若干不安はあった。これは後で自らはち入ることに

なったのだが時間がたつにつれ、このことは強くなっていく。時計の針は4時を廻る。そろそろ約束の時間になる。しかし4時半になっても音がしない。そこで倅が今一台の車で現地にとぶことにする。針はいよいよ進み5時半。そろそろ空が白む頃になって表で車の音がする。人声がある。“さては”と飛び出してみると約束通り二人で車を引いて来てくれている。何とも感激である。言葉であらわしようがない。あがって一息ついて下さいと言っても、これから家へ帰るのでと固く辞退される。止むを得ず心ばかりの御礼を申し上げ、深く頭をさげる。なんということか。この善行は未だかつて味ったことのないことで、しみじみと人の善意が体にしみこんでくる。もしもこのような善意が自分に与えられたことから何かの機会に他の人にこのような事が出来たらと大きな教訓をうける。

“ある感激”と見出しに書いたが、自分自身のあまりに大きな感激であったので、くだらぬ描写であったが筆をとりありのまゝを書きつづけた訳でありまして、ロータリー精神の奉仕を地で行った行為に自分自身はち入ったことを追記して終ります。

(1)飯能と産業 (2)10周年雑感

江 沢 幸 三

(1) 飯能と言えば先づ観光の言葉がでる。面積134km²、その30%が平野である。その中に約400余の中小企業が活動し、市の財政の一端をになっていることを考えると観光とばかりとは言えない。古い歴史の木材、織物が戦前まで何程か地域の発展に役立ったが、現在不況と言われる時、伝統の力を遺憾なく発揮し生産にいそしむ姿は立派であり地域産業の支柱である。戦后市策のため工場誘致が盛んになり機械、電気機器、精密機械等の工業関係工場が進出し飯能の姿も一変した。我々は産業の発展なくして地域の発展なしと考へて居る。然し最近の如く公害、環境問題等が厳しく成った現在、環境保全、公害の面で各事業場は万全を期すべきである。生業にたづさわる人々も何等かの形で、公害の発生

源になっている事も事実であると共に被害者でもある。お互に力をあわせ良い環境作りに努力すべきでしょう。関係官庁も事前に問題を把握し適切な指導と援助を望むものである。

(2) 創立10周年と聞き入会后 6年の余未だ昨日の様な気持でいる。発足時再々入会を進められたがメンバーを拝見し近より難い人々に見えて入会を辞退した。その後又入会を進められ会員の1人となり、時間はかゝったが案ずるより何んとやらでほっとしたのが実情である。

振り返って6年余何をしたかロータリー精神に反した言動がなかったかと考えると彼も之もと反省する事ばかり、性来の粗雑な性格なため諸兄に改めてお許しを願う。

委員もいろいろ命ぜられたが、S A A程気づかれはなかった。食事をして居ても次の事を考え味もわからず、会員からは何等反応もない、隣席で話す人は副会長一人何んとも寂しい限りであった。社会奉仕にしても贈りたい物、要求される物、予算を考えると情けなかった。ロータリーは寄附団体ではないとは言え少々の行動では一般の関心もない。良い意味のP R的な行動が必要と思う。

安西愛子先生のこと

江 原 寿

安西愛子先生、御存知の通り参議院議員の安西先生である。第9期幹事、信用金庫3階の合同例会、未だ今日の事の様に目前に浮んでくる。昭和47年7月幹事を任命され8月16日の公式訪問9月20日の合同例会、失礼な言い方だが、公式訪問より合同例会の方が大変でした。所沢、新所沢、入間、狭山及び当クラブの第8分区ロータリアンが一同に会し協議会を行うのだから。ホストクラブとして他クラブから笑われない様にするには如何にしたらよいであろうか。武居会長と共に智恵を絞ってこの合同例会の成功に全力を尽した。理事会で先生をお呼びする事に決定して以来、ガバナー事務所に電話する、参議院事務所に連絡する「卓話の時間、内容場所謝礼等」この準備が8月初めから始まり

ました。そして「9月20日ホスト飯能クラブ第8分区合同例会はじまる」例会時間は秘書の方と充分連絡をとって居たが大丈夫だろうか。第8分区ロータリオン会場に集合、当日のリーダー、分区代理、会長、幹事、SAA、信金3階の壇上に上った。定例の時間が刻々と迫ってくる。然し先生の姿は未だお見えにならない。一体どうしたのだろうか、場所を間違えたのだろうか、或いは時間を、或いは急に変更されたのであろうか、未だ冷房中の壇上で脇の下から冷汗がながれてくる。そして定刻迄あと数分、突如大波の様などよめきの声と共に大きな拍手が沸き起こりました。遂においでになって下さいました。和服そしてすき透る様な白い顔、その顔面に笑みを浮かべ、しかも堂々と美しく、おもわず会長と共に壇上より駆け下り御挨拶をしたこの感激、良くおいで下さいました。これで飯能クラブホストの合同例会も大成功だと思いました。先生の御紹介も終り卓話に入りましたが、原稿一つなく約1時間、現代の世相について歌をまじえ、笑いを入れそこに政治も入れお話になりました。安西先生の卓話第9期幹事としてこのぐらゐ苦勞し、又その実りの多かつた事はあまませんでした。幹事時代の苦しかった、又楽しかった思い出の一駒を書きました。

わが生い立ち、わが家族

福田 禾 積

大正12年9月と言えば、50年前の関東大震災の時。その7日後の午後5時頃中国山脈のフモト、岡山県津山市で生れた。

当時、家は呉服商を営んでいたが、オヤチはすぐさま東京へ飛んで行って留守であつたらしい。従つて私の生れた頃のアルバムには、当時の震災の時の写真が一杯に張つてある。

津山市は、旧松平藩10万石の城下町で落ちついた町であり、現在の人口も大体飯能市位の大ききで山紫水明の田舎町である。

東大工学部の航空学科を卒業したのが終戦の年の昭和20年9月。飛行機の製造を日本で禁止されたのでチェーン屋に就職し以後30年近く勤務した。

勤務地も大阪→東京→大阪→埼玉と変え埼玉に来てからもう6年半になった工場は飯能であるが、住所は新所沢で家族ぐるみの御交際が少ないのは大変残念です。

妻 倫子も同じ津山市生れの者で、男女共学になった現在では、同じ高校の同窓生である。

長男は、早稲田大学理工学部2年生で、趣味はスポーツと音楽。

次男は、浦和高校3年生で、趣味は同じくスポーツと音楽。最近麻雀も覚えたいらしい。

韓国と我が郷土

後藤平吉

小学生の頃朝鮮の現地服、いわゆるダブダブの白い服に黒の大きな麦わら帽の様な帽子をかぶった、見るからに裕福そうな朝鮮人の団体が、時々高麗神社に参拝に来た。

当時の高麗神社は、すこぶる簡単で、車庫程度の大ききで、社の周囲は四分板でめぐらしてあった。当時“日鮮融和”の問題が日本全土に湧き上り、政府間でもこの問題が大きく台頭し始めていた。

私の父も又、いつしかその渦中に入ってしまったらしい。そして大正末期の頃、父は時の朝鮮総督であった齋藤実閣下から招きを受け京城まで行った。ついでに足を延ばして支那大陸を旅行して来た。その折支那から持って帰ったチベットの聖天様（歎喜天）が、今でも私の家に亡き父の思い出と共に残っている。

さて、それより前大正12年9月1日に突如発生した関東大震災には、在日朝鮮人達が日本人に対し暴行を働くという誠しやかな流言飛語から、多数残酷なリンチを受けたという事件が起きた。疑心暗鬼も手伝って世の中は騒然となった。生き残った朝鮮人たちは、焼跡で団結し大挙して高麗へ来、遠く故郷を偲び乍ら、聖天院前庭で集団自殺をするという噂も流れ、これを真に受けた村民

達は対応策として自警団を結成し、日本刀や木刀、鎌などをもって警戒したほどだ。

その後震災の痛手は復興し、約1・2年は過ぎたが、両者の感情のわだかまりは残っていた。丁度その頃朝鮮の一人の若い学生が放浪の未高麗に来て、聖天院に居ついてしまった。早大生で黄順港という人であった。当時私の父が高麗小学校長で、不足している先生の代りに、黄さんを代用教員とし採用した。

黄さんの受持ちは私のクラスと決定、黄先生からいろいろの事を教えられた今でも印象に残っている事は黄先生の言葉のうちに棒読は朝鮮と日本の二ヶ国だけで従って文法上からみても、つきせぬ因縁に結ばれた国であると云うこと。

又、黄先生からハングル語を習った。「マル」に「棒」とか「ト」とか、少ない文字を並べ簡単に組合せて出来上っている。之も今は全部年とともに忘れてしまった。

然し黄先生の思い出は深く私の脳裏に刻まれて、到底ぬぐい去る事は出来ない。

黄先生は京城の牧師の倅で日本へ留学していた。卒業して帰国し数年たってお嫁さんを貰う段になって、結婚式に父を招待してくれた。父は朝鮮の玄関口である釜山まで4・5日もかゝる長旅をし、出席した。私は手紙一本で済む事なのに馬鹿馬鹿しいにも程があると思った。

その後、拓務大臣児玉秀雄氏、丸山鶴吉氏、満朝新聞主筆武井文雄氏らの肝入りで奉賛会が結成され、多くの村民や各種団体の労力奉仕によって、荘厳華麗な現在の高麗神社の落成を見たのである設計は伊藤忠太博士で建築者は新潟の弥彦の宮大工であった。

昭和18年の夏頃、日本に留学中の朝鮮の男女大学生約100名が高麗に送り込まれ農家に2・3名づつ分宿させられた。私のところにも5名の女子医大生が割り当てられた。この企画は朝鮮奨学会で目的は敗戦の色濃い日本との融和政策であった。それからまもなく朝鮮の若者達が前戦に送られて行った事でも解るのである。

1969年、高麗地区の代表有志の皆様と共に私は、戦後の韓国を訪問した。胸

の「高麗訪問団」と書いたマークを見てキンポ空港の職員が驚いたらしく「この高麗という文字は何んですか」と聞かれた。この質問はソウル市内に入っても時々きかされた。元宮様で、李王根妃殿下であった李方子様を西島町会議長大沢副議長と私の3人でお尋ねしたところ方子様は大変なお喜び様で、私達3人も非常に感激した。方子様は私が青年団員の頃、高麗の日和田山に登山なされ、お供した事がある。その時、方子様がお昼のお弁当を3分の2程残された。お付の人が気をきかして残された弁当を私のところへ持って来て「有難く頂戴しなさい」と言って寄越された。私とそのグリンピース入の肉飯を有難く頂戴した思い出を話等、いろいろと花が咲き、方子様は私達3人に自著「動乱の中の王妃」にサインして下さった。又、墨絵に文字をご自分で書いた掛軸を頂戴し、それは今尚日高の町長室に飾られてある。

発足当時の思い出

平岡文夫

思へば、36才の私の旗振りによく、町の古老の方々が、御協力戴いたものと感慨一入のものがあります。きっと、ロータリーでは最も若い初代会長ではなかったでしょうか。今更のようにロータリー結成に参加して戴いたチャーターメンバーの方々、勿論現在の会員の方々にも厚く御礼申し上げます。

そして、細く長く、このロータリーが、飯能の人と人とのコミュニケーションの場として、永続することを願ってやみません。

月日のたつのは速いもので、ロータリーが結成されてもう10周年という。顧みれば、飯能ロータリーを結成する前、武蔵ロータリーへ飯能から参加していたのは、私と小林貞雄さん、及川さん、東雲亭さん、佐野作次郎さんではなかったでしょうか。この中には、次々に世を去って逝かれた方々があります。夫々の印象を残像として。10年1昔というように、月日のたつのは速いものながら、10年となると、その世の中の移り変わり、人の往来の激しさは、唯驚くばかりです。テレビの画面のように、次々と事件をもたらし、足早に去って行く。

自分ひとり足踏みをしているようだ。

飯能ロータリークラブは、今思へば、それ程の陣痛の苦しみもなく、健康な母体からの誕生のように、すこやかに生れたとって良いでしょう。

それは、一つには、飯能の人の、人柄によるものでしょう。関東平野の一隅に、緑の山に囲まれている地勢によるせいか、東男らしい、さっぱりした中に緑の山育ちの純朴さと、山と水にはぐくまれたしっとりとした雰囲気、そして埼玉の、土くさの中にあっては、古い歴史と格式に年経た権威をもった律義さ、東京へ直通する鉄道をもっているせいか、近代感覚へのあこがれに似た感受性が、大いにプラスしたのではないのでしょうか。

又、一には発足5年前から私始め、4・5人の方が、武蔵ロータリーに入会していた事。

そして、大きな理由は、神守ガバナー始め、清水逸平氏、繁田正一氏等武蔵ロータリーの熱心なロータリアンの指導があった事。

最後に、副会長双木さん始め、チャーターメンバーの方々が、皆粒ぞろいで大いに御協力戴いた事です。

発足当時を思い出すと、苦しかったことを皆忘れてしまっていて、楽しかったことのみ、思い出される。それは、今、立派に飯能ロータリーが、活動を続けているからです。

10周年幹事雑感

細田 徳二郎

10周年記念行事の行われる今期に、はからずも幹事を命令され、最愛の妻と三日三晩語り合い、それならば仕方がないと身の引締る思いで御引受けしました。幸い前会長、幹事の御理解と御指導、又現正副会長役員、会員各位の御協力に依り期末に於ける炉辺会談も盛り上り意欲的ムードの中で第一例会えとスムーズな出船となりホット胸をなでおろした次第です。今後の奉仕活動、ガバナー訪問、10周年行事と多難な問題の山積は充分承知していますが張切って微

力を捧げるつもりです。扱て幹事はクラブの要なりと常々先輩各位に教えられているからには、会長の示す楽しい例会のプログラムとロータリー本来の奉仕活動、特に（職業社会）三つの重点施策を骨子として今期の飛躍を計り10年を経過した当クラブが社会及び地域に貢献する方針への更に厚いステップともなれば幸と存じます。

第一の楽しい例会には進行責任者である会長、幹事、SAA、プログラムが創意を結集して不断に十分な研究と熱意をもって臨み兎角マンネリ化になり易い例会を巾広い進行にして行く事だと思えます。食餌も定められた枠の中で如何に変化に富ませるか近隣クラブの中では最高に食事費を見て居り、しかも本職のSAAに苦心して戴いて居りますので、この一年楽しみな事だと存じます例会進行の順序も卓話を点鐘後直ちに持って行き、後でゆっくり食事をして戴くとか、会員の席は到着順自由席とか、種々工夫が有ると思えます。特にビジターの親睦交歓の真意を受け止められる様に当番が責任を持って配慮する様心掛けたいものです。プログラムについては、先づ足元と言うか、会員或は近隣に住んで居られ、講師にふさわしい方をリストアップして、時に中央から先生を呼ぶ様にしている事は本当に結構な事です。要はマンネリ化にならない様、共に心掛けて行くつもりです。

第二の職業奉仕は、職業人の集り故に職業を通じて奉仕をして戴く事は皆様周知の通りですが、委員長、委員各位の熱心な活動振りに期待したいと存じます。第三の社会奉仕は、過去当クラブのみならず、全体的に奉仕活動の盛り上りが少ない様に思われますが、何故だろうか。ロータリーの体質的なものが或は知識過剰で実行衰弱型なのか、金銭面でも勿論の事、素朴でしかも相手を感じさせる様な奉仕は出来ないものであろうか。幸い苦勞人の委員長並に委員の方々故に人の機微にふれる事を期待し、共に実行して行くつもりです。以上10周年記念行事を迎えるに当たり、実行委員として此の一年、会長の良き女房として又皆様への連絡係として希望を持ち期待し努力して行く積りです。実行委員も兼ねて幹事の職責は誠に重大なものが有りますが、全会員の御協力を得て「クラブ」の飛躍と記念行事が盛会裡に終りその責務を果す事を祈ります。

南十字星を仰いで

平 沼 保 夫

シドニー国際大会の帰路、バリ島を訪れた時の事である。

島内の観光も無事完了した寛ろぎの夕のひとつ、誰か夜の探訪を提唱した。早速10人ばかりの連中意気投合し、タクシーの運転手の案内で出かけることになった。

未開の土地のこととて、辺りは暗く、その方角もはっきりしない。と案内された場所は、公会堂か、学校の講堂か、ガランとした広間には、薄暗い旧式の裸電燈が下っていた。出て来た連中はどれも、如何にもインドネシヤらしく、年の頃は17~18才位だったろうか、素朴で、とても美しかった。兎も角、エキゾチックな点では満点である。

商談が纏まろうとする寸前、誰か、おれは一先づ帰ろうと云いだした。

こうなっては、独り踏止まるわけにもゆかず、残念だったのは私ばかりではなかった。所沢RCのH君も黙然且つ茫然としていた。

帰途、椰子の生茂げた林の中の、赤緑紫と色とりどりのカーテンの下った彼女等のオモチャの国にある様な一戸建のハウスのそばを通ったときは、その無念さは一入強くなった。

ふと見上げると、椰子の葉の間から美しく、きらめく南十字星が見られた。

姉妹クラブ締結に纏わる

一女性の物語

比留間 清治郎

忠清北道、ニュー清州クラブからの姉妹締結希望の手紙を幹事から手渡されたのは、秋も深くなつたうすら寒い日の例会場であったと記憶する。

何回かの文通では一向にらちがあかず。さりとて、引受けたからには、いいかげんな事の嫌いな性格も手伝って、韓国の奥地清州を訪れてみようとした。

早速、日本交通公社に旅券とホテルの斡旋を頼んだのだったが、切符を受取って見ると、清州ではなく濟州（島）への旅行プランであった。

それも道理である。風景が良く、野鳥の多い、対馬海峡の濟州島への旅行なら感知らず、四面海もない韓国唯一の山国の州で、なんの変てつもない清州へ旅行する物好きもないだろう。

切符を手にした私は思わず苦笑したが、次に起った当惑は、未だ当時治安の不安定な韓国の奥地へ独り旅する危険であった。窮余の一策で、思い浮んだのが、先年ウォーカーヒルで知合ったホステス嬢の姿である。“溺るものは藁をも”の譬で、早速手紙で依頼してみた所、心良い返事が来た。

先生の為なら仕事を休んでガイドを買って出ましよう、だが私も未だそんな辺鄙な所へは行ったことがない。大変だと思うけれど、お力になります。飛行機に乗り、高速バスを利用し、尚未だ行けない所なら、私の船も先生のためなら提供しましょう。とのユーモラスな返事に励まされて、单身金浦空港に向ったが、ロビーで彼女を見出すまでは、心なしか不安の旅路であった。

それだけに、彼女が私のために習ったと云う日本語の老教師韓英姫先生と一緒に出迎えて呉れたときは、色々な意味でほんとうに嬉しかった。

清州の例会に出席したが、街は旅行者を迎える様な宿泊施設はなく、錦蒲荘と云う名だけのホテル唯一軒。現地の会員と夜おそくまで懇談して帰ったら客室のバスは湯が出ず、水風呂に入ったような始末であった。

ともあれ、リーダー格の金先生が、ドクターであり、しかも私と同じ皮フ科の専門医であった事が、一気に姉妹クラブ締結に漕ぎ着ける大きな原因であったろう。

翌朝、多数の会員に見送られ、高麗人参を手にして清州を後にしたときは、虎穴に入って虎兇を得た感が深かった。

たまたまの交通公社のミスティクで、予期しない濟州島の美景に接したのはその翌日であり。釜山、慶州、仏国寺の古跡を訪れた2～3日の彼女との旅路は、今尚ほろ甘い記憶として残っている。その間英、日、韓国語を巧に話す彼女に助けられたことは、幾度かであった。

濟州の空港で、スパイ容疑で2人ともども30分程留置されたのも、今は懐かしい思出である。

姉妹クラブ締結の蔭に、こんなロマンスのあった事、そして締結の隠れた功労者、黄順尹嬢を、この際皆様に紹介することも、あながち無駄ではないだろう。彼女は当時25才、細面の美人であった。今はソールの一角で喫茶店を営んでいるらしいが、その後便りも絶え、又居所も解らない。

まだ残っている飯能の自然

林 幸 一

最近、人が寄ると物価、経済の話。災害、公害の話が目立ってきました。年のせいか病気の話も耳にします。その中に、昔を懐しむ声も大変多くなってきたようです。

「昔は良かった。山も川もきれいで、虫や動物も住んでいて……」というのです。私も、そんな話を聞く度に、自然が失われることに淋しきや不安を抱く一人になっていました。ところが最近、ちょっと嬉しい事にぶつかり、その考えを少々改ためさせられました。奥武蔵の玄関口といわれる飯能の自然が、昔のままの条件で残存しているということを知られたからです。

或る初夏のほたるの飛びかう夜の事でした。自宅の下の名栗川に糸を垂れていますと、戸口で変な音がしました。そっと窺うと、何か尻尾のようなものが見えます。興味と怖さ半々で、思い切ってぱっと掴むと、相手も驚いたのでしょう。必死になって逃れて行きました。一体何物だったかその夜は判らず仕舞いでした。すると次の晩、そいつが向うからやって来たのです。然も親子で部屋の中には行って来ました。家中大騒動でやっと捕えますと、それはムササビ（モモンガーの一種）でした。その夜から、2匹は私ら家族のペットになりましたが、惜しいかな、母親は間もなく乳のみ子を残して死んでしまいました。しかし、ムササビの子『モン太』は、努力の甲斐あって、すっかり家族の仲間入りし、今では、夜になると、家中ご機嫌で走り廻る程に親しんできました。

私も、店を閉めたあと、モン太の相手をしなければ一日が終わらないようになりました。こんなわけで、私はモン太を得たことを大変嬉しい出来事として喜んでいますが、それ以上に満足に思ったのは、まだ飯能にもムササビを住まわせる自然が残っていたという事実でした。

その後私は、改めて名栗川の周辺に魅力を感じるようになり、大切にしながらは、と思いました。

都心より1時間たらず、深い緑色を湛えて流れる名栗川の両岸は、よく育ったスギや、枝を絡ませたカシの大木、或はクヌギ、ナラ、ヤマアジサイ、ウルシその他、名も知らぬ雑木が、行く手を阻むように生い茂っています。将に奥武蔵ここより始まるの感を深めるに充分です。

「うちのモン太の仲間が、まだこの辺にいるに違いない。」

私はそう思って、しばしば、うっ蒼と茂った木立を振り仰ぐのです。

この自然は絶対失くしてはならない、飯能の大きな財産だと。

ことわざ

檜 崎 正 雄

ことわざには、古くして新しいものが多い。昔から人間や人生について、永遠に変らない真実や真理を「ことわざ」として後世に遺している。そのなかから二つの言葉をあげてみる。

“油断大敵”

2年前のニクソンのドル防衛、昨年暮の石油ショックは、世界中を震撼させ不況時代の幕あけとなった大事件で、いまだ悪夢のように私達の脳裡に刻みついている。戦後、奇跡的とも言われる復興をなしとげて、昭和元禄時代の到来大型消費に浮かれていた日本人への警鐘であり、天からの啓示とも言われている。このような事件は、当然起こるべくして起きたのか、それともある日突然起きたのかは、誰にも容易に真実はわからない。不幸があらかじめ予測できれば、多くの識者によって対策が考えられ被害を回避されたであろうし、又少な

くとも最小限にくい止められたであろう。

日本人の油断によって起きたものかも知れない。そもそも「油断大敵」とは武士の間に生れた諺で、いつも敵と対峙し、生死を賭けている体験から生れたもので、自らの心のゆるみをもっとも大きな敵であることを戒めたものと考えられる。

“笑う門には福来る”

笑いは人間に与えられた特有なもので、「人間は笑う動物である」と言われている。日常経験していることだが、笑いは人の顔や形が違いうようにその人の性格や教養の程度、職業とか国民性によっても違って来る。それでは「笑い」とは一体なにかと開き直って考えて見ると複雑微妙であって、容易に正体を掴みにくい。道義的なものだ、いや理智的なものだ、これらを折衷したものだとか色々論議も分かれてくる。しかし、ここで言う笑いは、いつもにこにこして楽しげな笑い声のある家には、幸福が自然と寄ってくるものだと教えていることで、「泣く」の反対である。「笑いは人の薬」とか「笑って損をした者なし」とも言われている。

苦しい時、健康のすぐれない時でもつとめて笑うことにより幸福をよび寄せることが大切であって、心の持ち方、物の考え方次第で楽しく、幸福になれることを教えている。

参 禅 会 と 私

萩 野 映 明

能仁寺に坐禅会の看板をかかげて2年半になる。毎月曜朝6時から7時半まで、会員は20数名だが、きまってくるのは5・6人。ロータリーでは溝口会員が常連の1人である。その間、臨時もあった。大久保会員を通じて丸広百貨店が社員研修会に。また狭山の本田技研工場の人達もグループでやってくる。なんだかやと結構にぎやかなのだ。が、正直いって私の心中はおだやかではない。永平寺で修行をしたといっても半年間、暁天から夜坐まで。坐禅につぐ坐禅で

こつてりしぼられたからといっても、しょせんは並の人間。罪業深く、光明は中々見出せない。わが曹洞禅は「坐ることによって身と心を調整し、人生の真実の姿に目覚めて、人生の真実の姿そのものになりきる」ために只管打坐と強調する。ただ、ただ坐わりつづけろ、というわけだ。考えればわからなくなるし、考えなければ入りやすい。

諸先輩を前に、いつも心を痛めつづける私だが、とにかく坐禅はやらなければならぬ。禅宗の僧侶としての務めを怠けてはいけない、といいきかせる。そんな私に、道元禅師のお示しは大きな救いになっている。「仏々祖々、皆な本は凡夫なり。凡夫の時は必ずしも悪業もあり、悪心もあり、鈍もあり、癡もあり。然あれどもことごとく改めて知識に随いて修行するゆえ、皆仏祖と成しなり。我が身愚鈍なればとて卑下することなかれ。今生に発心せずんば何の時を待てか行道すべきや。今強いて修せば必ずしも道を得べきなり」

毎月曜朝は会員ならぬ私にとってなよりの修行の時間なのである。大変に申し訳ないと思っている。

心の出会い

井上峰次

それは、妬ましい庶民感情かもしれないが、「いかにも都会風の、華やかなサロンの集いで、しかも実体の判らない組織」このようにロータリーをみている人は少ない。入会前の私もその一人であったばかりでなく、林業という山の職業人には、まるで縁のない組織だと認識していた。入会后この認識は、ある一面だけを捉えたもので、ロータリーの本質を曲解したものであることを知り妄想と無関心のもたらす恐しさを感じた。

妄想と無関心が生む曲解は、当事者にとってはゆゆしいことである。私らの「山」についても、曲解がまことに多い。日本でも屈指の森林地帯、西川林業をもつ飯能地方ですら、木材の産地であることは知られているが、森林の公益的機能については殆ど関心もたれていない。

自然保護についての論議が、これほど盛んでありながら、私達が聞く声は、山の実体と本質を知らない空虚な妄想が多い。曰く「植えておけば木は自然に育つ。山はいい……」「林業はもう成り立たない時代おくれの産業」「自然を護るには伐木を禁止せよ。又林道造りは自然破壊の元凶……」等々。

これらのひとつひとつに私見を記すスペースはないが、乏しい労力と多額の経費を投じて造る森林は、木材の外に、水と清浄な空気と緑をもたらし、国土の災害を防いで、人間に安住の場を与えてくれることを先づ認識ねがいたい。そして今日の一般的な木材価格では、収支が償うものでないことと、現在私達が造る林木は私達が収益を得るものでないことも熟知ねがいたい。更に繁栄と経済成長の流れの外にいる山の担い手は激減し、山は危機にあることもよく承知ねがいたい。

それでも、私達は山を放棄することはできない。荒れた山のもたらすもの、自然の怒りがなんであるかを私達はよく知っているからだ。そればかりではない。本当の山人は、大自然の摂理、尊厳に同化されて、目先の利害を超へた山造りの清々しさを知っているからだ。

大自然の営みに対する畏敬の念は、神がかりでも強制でもなく、自然に培われ、素直に生れてくる山への愛情であり、山人の奉仕の心である。

ロータリーでは、職業奉仕を「自己の職業に誇りと愛情と責任を持ち、相手の立場にたつ」ことと説く。私は山人の奉仕の心が、その根底でロータリーの心にふれ合うもののあることに気付いたとき、この心の出会いに異常な感銘を受けた。私はこの感銘をいつまでも大切にしたいと思う。そして、これを支へにし、絆にして、山造りとロータリー活動を一体のものにしたいと願っている。

お 祭 り

市 川 清 二

夏から秋にかけて各地を賑わしてくれるお祭りは沢山ある。うっとうしい梅雨空、うだるような暑さを吹き飛ばすような太鼓や笛の音、威勢のいいみこし

かつぎの声は気持をそう快にしてくれる。

陰を潜めていたお祭りが数年前から各地で復活し始め、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等で郷土芸能として盛んに紹介されている。しかし昔本来のお祭りの素朴さはうすれつつあるように見られるが、これも時代の流れとして仕方ないだろう。

何はともあれ明かるく住みよい郷土づくりと、地区住民の奉仕の精神の下に交流と親睦を深めるため一つの行事として、各地でお祭りが盛んになることは喜ばしいことである。老いも若きも参加し、その地域ぐるみの協力を得、交通規制等により車を追放して最高潮の雰囲気をつくることによって、都会に憧れて出て行った若者達が故郷を見直す機会となり、子孫との交流を密にする機会となるだろう。

又郷土芸能の一つとして保存育成の意味からも、情緒に欠けている現代っ子達に人間同士の心のつながり、心のふれあいを知らせ、サーキット族に憧れる若者達の力の発散の場とし、非行に走りやすい青少年育成に役立たせたいものである。

断絶の時代と云われている現代、お祭り復活はおふくろの味の復活にもつながるのではあるまいか。科学の発達に伴い日常生活から季節感が失われつつあるだけに、お祭りの復活は季節感を味わせてくれ、豊かな生活の中にあって一番大切に欠けている心の豊かさを与えてくれるに違いない。

来 飯 2 年

井 上 敬三郎

48年12月、飯能駅前にハートの銀行として、第一勧業銀行が開店し、早いもので2年目を迎えようとしています。

開店に先だち、9月8日全員貸切バスで来飯。最初に諏訪神社に飯能支店開設のご報告と地元の皆様のお役にたつよう祈願に参りました。当日は今年と違い残暑のきびしい日でございました。

地元の皆様方に一日も早く親しまれるよう、又早く私達の気持を理解していたらこうと、飯能市内、日高地区、名栗地区、入間地区と全員でローラー（軒なみ訪問）を致しましたが、毎日毎日うける皆様方の暖い思いやりを行員一同今でも忘れる事ができません。例えば、ローラー訪問中の情報提供、お茶、お菓子の接待、私達に示された好意に加えて、秩父連山につながる山々、妻坂峠付近にみなもとを發する名栗川、入間川……絵に画いたような自然美、都心では味えない心のふれあいが翌日への活動のバイタリティとして、はね返ってまいりました。又女子行員のローラー中“ハートのお姉ちゃん”“ハートのお姉ちゃん”と子供たちにかこまれた事など今でもなつかしく思いだされ、ハートの気持を忘れずに地元の皆様方の真にお役にたつ銀行として頑張っていこうという気持と責任感で一杯であります。

飯能小唄に歌われておりますように、“飯能よいとこ 小鳥のように”ではございませんが、在飯2年飯能のよいところを十二分に味っております。

歴史的な街、伝統的な街、奥武蔵自然公園の入口としての観光の街として伸びゆく飯能地区を楽しみにして居る一人であります。

(1) 発 足 当 時 の 想 い 出 (2) 奉 仕 の 理 想

加 藤 音 治

(1) 発足当時（昭和39年）の出席委員長であった私は重大責任で有る事を痛感し、他クラブの先輩諸氏の御指導を仰ぎ、其の責務の遂行に努力した。例会日時は、毎週水曜日正午からであった。例会日と承知の上しっかりした気持で外交に出た。併し12時になっても帰宅出来ず、途中外交先で1時になった事もあった。例会は時間厳守なので随分と苦しかった。そして無断欠席となった。当時はビジターの有る事も知らずに一ヶ月過ぎてしまった。

当初の只1回の無断欠席が尾を引いて10周年を迎えた現在でも残念至極である。此の教訓を無駄にせず将来立派なロータリアンになる事を決意した次第で有る。

其の当時、飯能市商工会議所でのロータリークラブ設立説明会に入間市の繁田正一氏が来られました。そして、私は発起人会の一員となり、飯能市に於ては商工会議所議員が中心となり、ロータリークラブの設立に努力を致しました。想起こせば、昭和39年4月桜花爛漫の季節に、飯能市公会堂に於いて飯能ロータリークラブの認証状伝達式が挙行されました。私は出席委員長として初めての役員なので、又特に出席関係の為、重大責任を感じ、一生懸命任務遂行に努力を致しました。

(2) 私は、創立会員です（当年62才）創立以来10年になりました。初めから勉強が出来ず、たんたんと過してきました。現在、社会奉仕の一端として若人達の幸福を願って、結婚相談役を続けて居ます。

100%出席は健康のシンボル

加藤義市

飯能ロータリークラブ創立数ヶ月後と思いますが、先輩武居藤吉さんのお世話でクラブに入会させて頂きました。入会直後、飯能公会堂で認証状伝達式が行われ、地区ガバナーを始め各地のロータリアンが大勢集まり、その盛大さに驚いた次第で御座います。

三代目双木会長さんの時、出席委員長に前島金助さんがなられまして非常に御熱心に活躍され、創立以来はじめて出席率 100%を実現して一同喜んだことが御座いましたが、それをきっかけに、その後 100%が4・5回続いたと記憶して居ります。

四代目新井会長さんの時、私は計らずも出席委員長を命ぜられました。前年度の出席がよいだけに大変責任を感じたわけで御座います。何んとかせねばと思い、会長さんをはじめ小林貞治さん、幹事の小川郁次郎さんの直接の御指導を仰ぎ、又会員皆様の絶大な御協力を頂きまして前年度に引続き 100%を任期中3回出すことが出来ました。面目をほどこすことが出来大変うれしく思いました。

出席率 100%と云うことはなかなか貴重なことだと思います。会員の皆様が1人残らず会を大切に思い万難を排して出席なさる御熱意の表われでありまして、それ自体価値あることで御座いますが、それにも増して出席の御意志はあっても健康が伴わなければなし得ぬことで御座いますので、100%の出席率はとりもなおさず会員全員健康であったことの証でありまして、誠に喜ぶべきことであり、且つおめでたいわけで御座います。

私は若い時から商売一途でやって参りましたが、年をとってから名誉あるロータリーに入会させて頂き、当地の一流の方々とおつき合が出来、週に一度は必らず皆様とお会いして卓話を聞き、知識を広め、又世間を広くすることが出来まして本当に幸福に思っています。どうぞ今後共よろしく御交誼御指導の程、心からお願い致します。

10 周年 雑 感

神 田 邦 武

発足以来10年間のR I会長のターゲットを挙げてみました。

- '64~'65 (昭39~40) ロータリーに生きよう
Let Us Live Rotary
- '65~'66 (昭40~41) 行動 強化 継続性
Action Consolidation Continuity
- '66~'67 (昭41~42) ロータリーでよりよい世界を
A Better World Through Rotary
- '67~'68 (昭42~43) ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に
Make Your Rotary Membership effective
- '68~'69 (昭43~44) 参加し敢行しよう
Participate!
- '69~'70 (昭44~45) 再検討し刷新しよう
Review and Renew

- '70~'71 (昭45~46) 隔りを取り除こう
 Bridge the Gaps
- '71~'72 (昭46~47) 善意は 先ずあなたから
 Good will begins with you e
- '72~'73 (昭47~48) もう一度 見直そう
 Let's Take A New Look!
- '73~'74 (昭48~49) 今こそ行動のとき
 a Time for Action
- '74~'75 (昭49~50) ロータリーの精神を振るい起こせ
 Renew the Spirit of Rotary

(註) 神田会員の寄稿を機会に、HRC発足以後のターゲットに原文を添えてみました。英語のHomeに該当するよいドイツ語がない如く、翻訳はその全貌を表現出来ないことが多い。“Renew”と“振るい起こせ”との間に、しっくりしない何物かを感じるのは、私だけではなさそうだ。実は年譜の劈頭に原文を併記しようと考えたが、一寸気障になる様に思えて止めました。が良い折り合なので掲載させて戴きました。(文責 比留間)

回

願

小室敏一

当会に入会を許されてより、今年9月で丁度8年になった。其の間に当地域第一線の方と知己にさせて頂いた事を感謝して居る。

今般10周年記念誌発行に際し、私の経験談を述べ忌憚なき御批判及御教示を頂きたく思う。

昭和47年、私が社会奉仕委員長を命ぜられ早速文献を読み、其の中より適当な案を作成し委員会にて実施項目を検討したが、予算と期間に制約され縮小型のもので出来た。其の行事中に老人ホームにベッド寄贈があった。敬老週間に委員の平沼保夫君、橋本重輔君と共に花束持参で新築後の飯能老人ホームを訪ねた。入園中の人達は大喜びで広間に集合した。挨拶後皆で話し合ったが、殆どの者は立派な施設と良い待遇に感謝していたが、日常生活上の無気力性と将

来に対する不安感等色々ある如く推察されて、夫等に対する打開策も亦慰問の一法かと考へさせられた。

国際奉仕委員として印象深い事は昭和42年12月、中里委員長時代（ウイズイ君通訳で大活躍）入間・狭山3RC合同にて、ジョンソン基地の婦人15名を招待し飯能製糸、飯能繊維両KKを見学後、パーティーを開き、茶の湯、日本舞踊、琴を紹介した時である。基地の婦人は始めて日本の実情を間近に見聞して非常に喜ばれたので、何時か再び懇親会の実施を期していたが、昭和44年8月親睦及国際奉仕両委員会共催の親睦家族会月見の宴を宮沢湖畔で開催した。同日約80名（内家族及子供33名）出席し、夏の夕景を楽しみ懇親の実を揚げ、招待した外人から非常な感謝を受けた。

又世界社会奉仕について不勉強な私は不図も昭和47年12月武居会長のお供だと気楽な気分で第357地区の小委員会に列席した事があった。紙面の都合上、会合の詳細は述べられないが私は其の時より世界社会奉仕としては少くも1～2分区のRCが共同にて、低開発国の特定のRCと密接な連絡をとり、相手国（特に東南アジア）の建設に協力する必要があると考へる様になった。

近年、我が国に於いて社会福祉関係の事業等が着々と実施されるに致った。たとえRCは事業団体ではなくとも、此の流動する社会にてロータリー精神を保持する為には社会奉仕、国際奉仕を始め各種の奉仕に当り、充分な調査準備及計画の基に継続的に実施する事が必要かと思う。

嘗て元会長ホッジス氏は「我々ロータリーの果実を社会にもたらせ」と云われた。

当クラブの色々な果物を地域社会から近隣へも贈りたいものである。

女房の名前を忘れて10万円

（結婚記念日につき思い出語る）

川崎一郎

当クラブでは毎年結婚記念日には立派な御祝品を頂きますが結婚記念日に当り、嘘でなく本当にあった馬鹿馬鹿しい、恥しい思い出話を一席申し上げます。

私も若いときは記憶力がとても良かったのですが、近来とみに頭髪が薄くなるにつれ全く忘れっぽくなってしまいました。

或る日、或る時、のみ友達が帰った後、暫らくウトウトとして居りました。処へ隣組の人が来まして、此の用紙に家族の氏名、生年月日を書いて下さいとのこと、軽く御引受けして早速自分のはちゃんと書きましたが、二番目に妻の名前がどうしても思い出せず、隣組の人が待つて居るので私も少しいらいしてしまいました。丁度御勝手に妻が洗い物をして居りましたので御酒の利いた勢いで、大声で妻に向い御前の名は何んと云うんだと、怒鳴って聞きました。隣組の人が帰った後、妻が私の存在を無視していますと、怒るの怒らないなんて言うの始めてです。

私も酒が利いておった上、御勝手に大立廻りが始まりました。其の挙句、左の頬を $8 \times 8 = 64$ 叩かれましたので、折角入れた大事な入れ歯がはづれ全部オシャカになりました。全くあのときは年甲斐もなく、歯医者に行くのが恥しくて仕方がありませんでした。

結局此の入れ歯の、入れ換へ代金10万円也でした。それ以来女房の名前を忘れなくなりました。

本当に馬鹿馬鹿しい御粗末な、レベルの下った思い出話の一席、御見苦しいことで御座いました。

雑

感

加藤 善兵衛

私はロータリーに入れてもらって4年目を迎えた。会員になって何と立派な会なのだろうと驚いた。

今まで自分が出席した会に於いて、何の会合でも時間に始まったことのないのが一般の集いである。30分以上おくれる会合も少くない様である。又おくれることがあたりまえとさえ思っている人もいる、会合の時にこういうこともあった。もう時間もすぎた、始めないかと言うと、会の責任者がまだ誰れさんが

来ないので今暫らくお待ち下さいとか、又3分の1にも達しませんのでと言う。又飯能時間だ集るわけがないよ。こんなことを耳にしたことがある。然しロータリーこそ1分の遅れもなく始まる、こんな気持ちの良い集いは他にあるであろうか、皆立派な人達だと思うと同時に自分も立派な人達の仲間入が出来たと思うと嬉しく、誇りを持つ様になった。そして自分も何の会合にも時間は守って出席すべきであると思い実行にうつす様になった。又皆も集まりが早くなり最近では会合も時間に近く始まる様になり、自分自身嬉しく感じている。これもロータリーに入会したからである。

ある時、知人にロータリーは全く良い団体であることを話した、知人は私の話をかるく聞き、ロータリーへ入る人は御隠居さんか、暇人でないと入れないねと言われて全く驚いた。隠居どころか、暇人どころか、社会の第一線の多忙な人の集りであることを説明したが余り信じられなかった様だった。そして知人は又こう言ったロータリアンは何と云っても年輩者が多く若い者が少ない様だねと言われた。その時は一寸変な気持であった。

まだまだ若い立派な方々も大勢いるなど思った。本年は、私は会員増強委員である。大いに会員選考及職業分類各委員会と特に協力をし大いに若い立派なロータリアンをもつと多く迎へ入れたいと考えていると同時に、若い者の集いへも出られる様な社交をも身につけたいと感じた。

絹と世相

金子重雄

個人所得の増大とともに国民の衣生活も当然に高級化、多様化して、しかも現在の絹需要は高級品の大衆化にもとづくものであって必しも一部特権階級のもでなくなった。かつて戦前には繭をつくりだす人で、その殆んど絹を買うことが出来ず、生糸の大部分はアメリカ婦人の靴下と化していたのであった。これに対し現在では都市でも農村でも多数の若い婦女子が、兎も角も絹の晴着をもつようになってきたことは、生産・需給の姿としてははるかに健全だとい

う考え方も出来ると思う。しかし昨今では“ステキな服だわ”或は“アラ素晴らしい着物なこと”と思ってもウィンドショッピングでじっと我慢。インフレが進むとまず衣料費を押える家庭がふえる。買い控えには“当分手持衣料で間に合わせ、必要に迫られた時だけ買い足す”家庭が多いのではないだろうか。「衣食足りて……」というがインフレにあえぐ主婦たちは食を満たすのに精いっぱいの様子だ。

インフレの激化に伴い経済社会の諸々の歪に対し、新しい価格体形、安定経済秩序等叫ばれてから既に久しいが、外的、内的諸要因が複雑に重なり合っとなかなか難しい問題である。

全世界のロータリアンがロータリー発足の原点に立返り、夫々の職業奉仕に徹することで、何とか解決が見つからないものか。そして総ての婦人が衣服を楽しむことの出来る平穏な社会にならないものか……R I 会長の“ロータリーの精神を振るい起こせ”を想うにつけ、こんなことを考えるのは新米ロータリアンの真夏の夢か。

小さなたのしみ

—通勤途上の自然—

黒田平八

西武池袋線を下ってくると、車窓は次第に緑を増してくる。武蔵野は切開かれているというより荒されていて、かつて読んだ独歩の『武蔵野』はもう車窓に見ることは出来ない。それでも所沢を過ぎ飯能に近づくにつれて、武蔵野の面影の一部を残している雑木林の丘に緑が色濃く影を宿している。元加治で降りて、飯能市の東の境界附近の住宅の間や農道を工場に通うと、庭先や畑にくりひろげられる自然の変化が、通勤の疲れをいやし、逆に通う喜びと楽しみを与えてくれる。

工場に着任した頃、駅前の柳が淡く緑がかり、それが日増に伸びて、梅雨の頃ともなれば“既に柳は深緑”と藤村の詩の一節が口に出て来る。麦もあれよあれよという内に伸びて、穂が出たと思ったら麦秋で黄色く黒ずんでしまった

桜、つつじ、菜の花、山吹、あやめ、バラ、紫陽花、葵、栗の花等々のほか名を知らない沢山の花が季節を追って私を楽しませてくれた。農道や雑草地では、タンポポ、野いちご、あざみである。今は昼顔が静かにひっそりと花を開いている。

茶畑と桑畑も清々しい空気と共に緑の成長を楽しませてくれた。茶畑にうっすらと煙のような緑の新芽が出て、通勤時刻のせい茶摘の人影は見られない。一回だけ一人だけ見たにすぎない。それも昔の茶摘姿で籠を持ち手で摘んでいた。それにしても製茶の方法が変わったのか茶工場をみかけない。戦時中、鹿児島で茶工場に部隊を駐屯させたので、煉瓦造りの四角い茶工場の煙突に郷愁を感じる。

桑畑もそうである。美しい緑のキレイな葉が日増に成長するのだが、桑の葉を摘んだ跡がない、養蚕農家の建物も目に入らない。それでも桑畑が残っている限り、何所かで蚕が桑の葉を食べているのだろう。

緑だけが自然ではない。元加治の駅附近の草むらの中にすんだ水が流れていて、附近の人々の水をキレイにという努力の跡が偲ばれる。梅雨時になったら、国道への斜面を上って行く道端の草むらより清冽な水が流れ出て、二筋、三筋と道を横切って低地に流れて行く。入間川は山の奥の水だけでなく、このような土地の水を集めて流れ行くのだと思って、二度三度、流れに手を入れた。

こんな自然を楽しみながら工場につくと、若いNさんが机上に野の花を活けてくれる。今ならば昼顔であり、すこし前は紫陽花であり、つるバラであった先日も工場の隅に咲いた桔梗の花を挿してくれた。桔梗には早過ぎるかと問えば、間違いありませんと笑顔の答えがかえる。挿してくれる花瓶も、コップであり、牛乳瓶であり、サントリーの空瓶である。時には、お茶屋の宣伝用の灰皿である。ともすれば殺風景な、ガサガサとする工場の一室であるが、机上に活けられる野の花を見る楽しみはまた格別である。

10周年を顧みて

前島金助

商工会議所によく行きますので、前の西久保専務より此度飯能ロータリークラブが出来るので是非入会してくれと進められ、初会より入会致しました。何もわからず只皆さんの後について居ました。其の年の11月だったと思いますが浅草のロータリークラブの認証式が国際劇場にあり初代会長平岡さん始め、会員の方々と、初めてメーキャップ致し只驚くのみであった。其の翌年4月飯能RCの認証式があり、会員一同心持を合わせて熱心に行った事を思い出します。三代会長双木さんの時、出席委員長を致しました、私の出席委員長の間に、何とか100%の出席に致したいと思い真剣に取り組んで行きました。翌年の3月に100%の出席になり一同乾杯して祝いました。其の記念に会員一同に金のバッヂを配布致しました。3・4・5・6月と100%となりうれしかった。次年度出席委員長さんの時には2、3ヶ月続きましたが、後は続きませんでした。五代会長小川泰さんの時、社会奉仕委員長をやらせて貰いました。この仕事が一番楽しかった。明治百年を記念して天覧山の登り口に天覧山の由来を書いた碑を建て、よい記念になりました。飯能駅（2箇）外5ヶ所の駅に家に持って帰ってはよくない雑誌を入れる箱を7個造って配置しました。六代会長土肥さんの時SAAを1年間やり只、只平凡に勤めました。会員の皆さんに美味しい昼食を召し上がって戴きたいと思って色々苦勞致しました。九代目会長武居さんの時、会員増強委員長をやらせてもらいました。優秀の新会員を募集するのが私の仕事です。自転車に乗ってあちらこちら御願いを致し、其の年8名の方にお話しを致し入会の手続きを致しました処、無事通過致し只今では皆さんは飯能RCの為に盛んに活躍して居ります。今後益々飯能ロータリークラブの発展を御祈り致します。

入会当初の思い出

溝口卓男

入会して間もない頃は、例会日と会社の行事とのサイクルがうまくかみ合わないで、補填のため、近くの狭山、武蔵(現在の入間)、青梅等に出かけたものであった。当時の飯能RCは、毎月出席率100%というのが、当たり前といった状態で、私をロータリーに紹介して下さった前島さんが、たまたま出席委員長をやっておられたので、私の欠席がクラブの成績を下げてはと、ひたむきな心から、メイクアップ、地区大会、年次大会と興味が半分、出席の貯金をしておこうという殊勝な心掛けが半分、で割合気軽に積極的な参加をしたと記憶している。

メイクアップでいやなのは、ビジターとして紹介されると、ヤァーと立ち上って、腕を上げるヒットラー式のあいさつであった。此は身振り手振りの問題だから凶々しくなれば抵抗を段々と感じなくなったが、ソングは会長席に近いビジター席で、調子外れの声もならず、さりとしてモグモグやるのも、ロータリー初年兵をひろうすることとなり、それを取り繕うため、三節を早く覚えようと努めたものであった。全部唱えるようになるには、3ヶ月位かかったのだろうか。

年次大会の思い出は、初参加の館山大会である。42年10月14・15日両日参加したが、館山全市を上げての「ロータリアン、ようこそ!」の歓迎ぶり、乗合バス区間全線の無料サービス、高校生(あとでインターアクトということを知った)のキビキビした会場整理、其他の奉仕振り、動員の規模の大きさ、統制のとれた組織運営には、全く驚いた。飯能からは、新井、土肥、小室、小川、町田、財満の皆さんと私7人が参加したが、1780人参加の大集会は、誠に見事で、初参加だけに深い印象を受けた。夜は財満さんと同宿となった。彼は会報委員長であること、椿本チェーンの工場長であること以外は、すばらしい卓話をしてくれた勉強家という程度の認識しかなかったが、話し疲れて床につき、どちらかとなき身の上話をしているうちに、小学校も中学校も同窓である事が

わかり、その上、5期も上の大先輩と解って床から起き上り、残りのウィスキーボトルを傾けながら夜更け迄懐旧談に耽った。まさに、ロータリーならでこそその奇縁であった。

あれから既に7年、月日の経つのは早いものだと泌々感じる今日此頃である

鮎

森 和 夫

私は夏が好きだ。それは鮎釣りが出来るからであり、又鮎釣りは夏しか出来ないからである。

私が鮎釣りを覚えたのはもう十数年前であったが、それ以来私は鮎釣りの醍醐味にとり憑かれてしまった。鮎釣りの白眉は何といても友釣りであろう。友釣りは生きた鮎、即ちおとり鮎をつけて野鮎を釣る我が国独特の釣り方である。

鮎はその姿の美しさに似ず激しい魚である。成長した鮎は清流の石に発生する珪藻類、いわゆる「石の垢」を常食とするが、食糧を確保するために「縄張り」を作る。そして他の魚がその圏内に入ってくると猛然と追い散らす。この習性を利用して鮎に鉤りを仕掛けておき、野鮎を掛けるのが友釣である。鉤は大体野鮎の背中につきささる。

野鮎がかかったとき、ぐぐんと竿先がしぼりこまれるようなショックに、反射的に竿を立てると、道糸につけた目印がぐいぐいと水中にひきこまれる。「かかった！」私はこの一瞬思わず目をつむる。そしてこの一瞬のために、鮎釣りが止められないのである。

私は鮎そのものも好きだ。鮎は動物学上、一科一属一種の魚類であり亜流がない。私はその点鮎に潔ぎよさを感じるのである。そして鮎は一年でその生涯を閉じてしまう、いわゆる年魚である。

私はそこに自然のあわれを思うのである。鮎の姿の美しさは年魚故のものであろうか。何年も生きる魚には、繊細さより頑強さが要求されるだろうからである。そして鮎の香気も年魚故のものと思えてならない。短い一生で異性に相

まみえる指標を持たなくては鮎はあまりに不憫であろう。

私はせめて鮎を食べないことが鮎を釣ることへの贖罪と思っている。

社 内 旅 行

前久保 幸 雄

本年は会社の旅行が、伊勢参り、と決定した。

伊勢は昨年遷宮の年で、仕事柄新宮殿の見学と帰路豊川稲荷の参拝が予定された。久し振りの伊勢路は遷宮と国体との関連で見違える程道路が立派になり楽しい快適なコースであった。流石神域は神々しく自然に頭の下る思いだ。内宮の方が質素で、お米の神様、外宮の方が棟を金色に輝かせて、成る程と感心させられた。

真珠島の見学は、珠磨かざれば光なし、余りに沢山のバケツの真珠の山を見て興味半減、目の保養だけに終わった。翌日、鳥羽伊良湖のヘリポートではどんどん便利になる交通機関に驚いたり、海上の美しい景色に見蕩れたり、楽しい思い出の一頁。豊川稲荷は三度目だが何度説明を聞いても感心するばかり、近々百年でこの盛況、商売繁昌の神様丈の事は有る様だ。櫓作りの本殿、天地人の庭園、稲荷にして白地の昇り等大いに参考にしたものだ。帰路バスの中眠りと目醒め交錯、夕闇迫る頃とうとう飯能に着いた。

老いてますます盛んに

中 里 進

此標題を御覧になった大方の諸彦は、眼を輝かせて、我意を得たりとお考えになったであろうと存じます。もう面倒な事は沢山だ。考えたり、物を書く事はしたくない等とお考えの方は、失礼だが老化現象が起って居る証拠である。これを防ぐには、いやな事は避けて積極的に前向きでとり組む事と、飯能RCの例会に必ず出席する事である。何故なら例会には定例よりずっと早く御出

掛け下さい。開始前の懇談時間は、爆笑と云った方がふさわしい賑やかさで、他クラブでは余り見られない程盛んです。一業種一人、お互いの専門的な話の交換もあれば、浮世のニュースも聞けます。

色々刺激を受ける事が若返りの薬ともなる。そしてたまさか行方中里の下手な小咄を聞くのが良い。彼の小咄はとても下手で、聴くに堪えないのであるが終ったら拍手をしてやる。心ならずも拍手をする事は、いやな事に積極的、前向きで取組むことにもなる。第一拍手をする事によって、血行が良くなる。新陳代謝が行われ、両腕、両肩の凝りがほぐれて、首すじが柔くなり、動脈硬化の予防になる。一挙両得とはこの事である。而も拍手は、強く強く、何時までも何時までも、長く長く。私はこゝで、老いてますます盛んにと申し上げたいのは、もっとユーモアとロマンをお願いしたいのである。今度のRC世界大会に出席させてもらったが、我々のグループは、錚々たる方々許り(私を除いて)のグループであったが、致る所でお互いにジョークの連発である。バンクーバーのホテルより、バスの出発時間に、某氏が20分以上も遅れた時、誰一人ぶつぶつ言う者も居ない。何か特別な理由であろうという事である。バスの中で、一人が「そうだ、あの方はトイレで会ったがそれにしても遅いのは変だ」「多分あそこで誰か知人にでも偶然会ったのではなかろうか」すかさず、川名氏「それが本当のお知り合いの仲だ」「いやもっと臭い間柄だ」けんけんがくがく、実に余裕のある方々許りであった。此点我々も、もっと学びたいものである。それからもっとロマンを。ロマンとは詩で有り、夢である。

ロマンがフランス語であろうと、なかろうとそんな事はどうでも宜しい。カサカサの現世に潤を与えてくれるのは、ユーモアとロマンである。まして皆様は、その家で、その会社で、最高の実力者である。ロータリーは、親睦と職業奉仕が第一義であるとすれば、其各々の職業と奉仕に、もっとロマンを取入れた素晴らしい発想を容易に実行出来得る立場に置かれて居ます。どうぞ此立場を生かして、職業奉仕にロマンを。

私の抱負

双木久夫

釈尊の遺された教え、涅槃経の中に、
一切のもの総て、生ずるものは必ず滅し
寿命、無量というも必ず終りあり
盛なるものにも必ず衰えあり
会うものにも必ず別離あり一。

人に死のある如く、万有に常住のものはない。

とあります様に、人の一生というものは誠にはかないものであります。

然しはかないが故に我々は一日一日を大切にし、精一杯生きなければならぬ
と思います。

大切な一日を愚痴や争いごとのために費すことなく、常に前向きの姿勢で暮
らす心掛けが大切ではないかと思えます。

経済界全体を見ましても、現在程不安定な時代はないと思えます。猫の目の
様に変る政府の方針、インフレに対する絶対的なきめ手の不足等…………。

従って此の様な不安定な時代では私達が従来やって来た過去3年、5年のデ
ーターを基礎に未来を予測するということが難しくなっております。経済サイ
クルがあまりにも激しく変りすぎます。この時に直面して、一体我々はどう考
え、どう対処したらよいか考えれば考える程不安になります。その時私はフト
故松永安左衛門氏の言葉を思い出しました。それは「自分のやっている事業は
一時社会からお預りしたもので決して自分一個人のものではない。社会からお
預りしている以上は、その事業をうまく回転して少しでも多くの利益をあげ、
その利益を社会に還元しなければならぬ」という言葉です。

やはり社会が必要とする、又必要と認めてくれる企業は最後まで残るのでは
ないでしょうか？

従って私は商業を通じて世の為、人の為に尽すという考えを根本に持って経
営の指針にすべく努力をしております。

伝教大師の言葉に「一隅を照らす者、これ国の宝」とありますが、世の片隅で誠実に精一杯生きている人、この様な人々が国を支えているのではないでしょうか。

やはり人を信じ、未来を信じ、私も更に皆様と共に勉強し、向上してゆかねばと思っております。

俳句 “高麗峠”

新堀隆治

10周年記念誌発行について私に与えられたテーマが『人生と余暇』のうち『俳句』で、日外卓話で駄作の「川柳」を発表、末だに冷汗3斗の思いである。

先日、友人とそれこそ何十年ぶりかで「高麗峠」を散策した。記念誌発行は10月、いさゝか早い、それに季感を併せるため、作句作法にはそむくが季題の先取りと、そのシーンの想像で偶感をものにした次第、御笑覧いただければ句怪の幸いです。

色変えぬ松や 日和田は指呼の間に
檜紅葉 高麗の家並の たゞずまい

梅原のお地藏さまの境内には昔の松並木を彷彿させる老松があり、こゝから眺める高麗郷の景色は実に素晴らしい。旧高麗地区10大字の内、六字までが手にとるようであり遠く「高麗王」の「むかし」を偲ぶようすが充分。然しそれは地形、山谷であって藁屋根も見えず、機音も聞えず、カラフルな人家の屋根屋根、白亜の防音校舎、工場の進出が目立つ。

穂すゝきや 耳朶に さゝやく箴の音
野に山に 秋光 いとも 平らかに

高麗峠は私達の先祖から「梅原尾根」と呼んでおり行政上は勿論、産業、文化の中心地。飯能への往還であって高麗絹を飯能市へ売りに行ったり、冷飯草履をつっかけた飯能学校へ通った故老や先輩の思い出話もなつかしい。私達小学の低学年時代天覧山への遠足も片道は大抵この尾根越し。

歴史を秘める「高麗峠」そして、高麗絹………気の故か耳をすますと機音がきこえてくるような錯覚にとらわれる。

道ゆずる ハイカーの娘や 草もみじ

撮り合いる 娘らの手 秋の七草が

終戦後暫くは人っ子一人通らないような荒放題の峠路は今や奥武蔵自然歩道オリエンテーリングコース等に指定され、四季人の絶えることなく殊に週末や祝祭日等は山の銀座の賑わいである。

自然歩道は特殊工法の舗装ではあるがところどころ木の根、肩崩れなどがあり、やさしくハイカーの娘が道をゆずってくれる。小さい“好意”がとてもほほえましく“ありがとう”の言葉を自然に返す。

小鳥の翔つ 藪ふと見れば ^{アッヒ}通草熟れ

掌ほどの谷津田 見ごとに稲黄ばむ

尾根から一寸それると藪がある。すぐ鼻先から飛びたつ小鳥、よく見れば、色づいた烏瓜もあり、「あけび」が口をあいている。

木の間がくれの谷津田も見事に黄ばんで見え、国道を流れるクルマがチカチカと陽を返す。

秋だな………自然だな………の感じが深まる。

栗のいがふむまじ 径の端によせる

秋晴れや 山清掃の 声若し

天覧山に発した自然歩道は思っ田の踏切から入り「高麗峠」のほゞ中程で合流している。

大企業の開発により一躍有名になった「宮沢湖」への間道は岨根と云わず谷津と云わず縦横無尽それこそ不自然な自然歩道がいっぱい……。あっ!! 目の前が急に展げ、中山の人家が山の中腹迄登ってきている。

開けゆく飯能市は東に南にそして西にと広い。ボーイスカウトだろうか、どこかの山岳会員だろうか？ 峠道を清掃しながら登ってくる。尊い「奉仕」

若人に幸あれ!!

ロータリークラブの繁栄を祈る。

木の香り

大野光三

山に生れ、山に育ち何の因果か18才で父を失い、家業である山林経営と云う現代の化学万能のめまぐるしい時代に、あたかも仙人の様な印象を受ける森林の撫育に生涯を賭ける私に、飯能RCの10周年に当り何でもよいから書けと云われても頭に浮ぶのは、職業柄木材に関係した事位のもので、私達が常日頃寝起きしている住居について木造住宅の良さのPRを兼ね少々触れて責を免れたいと思います。

最近、我々日本人の生活の場である住宅は「木造住宅が最適である」と云う気運がとみに高まって来て居ります。なぜか木材には人間臭さがひそんでいるからだと言はれ、人に親まれ、なじまれ、木材が再評価し始められて来た訳であります。

一時、鉄とガラスとコンクリートの家屋が時代の先端を行く文明の象徴として幅をきかせて居りましたが、しかし冷たい無機質の材料で出来ている住宅には、理屈ではなしに、人間が生きものである以上、生理的に反発を感じるのも当然だと思えます。

特に住宅は我々の仕事の場ではなく生活の場であり心の憩いの場であります。それだけに人間が本能的に求める材料を使った住宅で生活を営むことが最も生理的に合っている訳であります。

木材は他の建築材と比べ耐久力と耐熱性、その他特別に優れている処は無いにも拘らず、此の様に木材が求められるのは古代から色々と変遷を重ねて来た生活用式の中で日本人の気候、風土に最も適応した、いわゆる人間の生物本能に合った最も親しみ易い住家として、長い間の生活の智恵として、木造住宅が生れ育って来たものに外ならないと思えます。

最近ある材界の新聞に発表された住宅の消費者のアンケート（九州一円の県営・市営住宅居住者25,436人の内1,910人を抽出したもの、回答率91%）によると次の様な結果が表れて居ります。

○あなたはどんな家に住みたいか。

- | | | | |
|--------------|-------|----------|-------|
| 1.鉄骨コンクリート住宅 | 13.5% | 3.木造二階建 | 47.3% |
| 2.木造平家建 | 33.6% | 4.プレハブ住宅 | 5.6% |

○木造住宅を建てるとすればどんな木材を使いたいか。

- | | | | |
|-------|-------|----------|-------|
| 1.内地材 | 43.7% | 4.工務店まかせ | 25.9% |
| 2.外材 | 3.7% | 5.その他 | 18.0% |
| 3.新建材 | 7.7% | | |

○木造住宅についての感じは。

- | | |
|--------------|-------|
| 1.天然の美と木の香り | 42.0% |
| 2.日本風土に適している | 29.5% |
| 3.好きな間取りがとれる | 10.0% |
| 4.腐り易く燃え易い | 4.6% |
| 5.その他 | 13.9% |

此の様に住宅を中心に木材の良さが見直され始めたことは、我々木材業界にあるものにとって最も好ましい現象であると同時に、此の灯をいつまでも消さない様に今後共、良材の生産と低廉な木材の供給に努力を重ねて行かなければならない責任を感じて居ります。

奉 仕 雑 感

大久保 一 郎

「奉仕」という言葉は、それ自体大変長い間使われ、しかも社会生活や経営活動を始めRC活動に於ても、その中に含まれている意義や要素が、無意識のうちにセットされ、活動の重要なベースになっていることは確かなことだと思われまます。

しかし、それにもかかわらず「奉仕」ということは自体の意義や具体的行動が何であるかについては、今なお、明確な理解と統一がなされていないま、闇雲に使われているように思います。

RC活動に於ても、RCに造詣の深い諸先生方から、ロータリアンは「職業を通じて社会に奉仕すること」だと教えられます。又RI歴代会長は数々のターゲットを示され、奉仕の実理を要求されております。

私も百貨店人として、奉仕を極度に要求される職業柄、受講中は「成程」と理解したつもりでも、それを具体的行動に移そうとすると、つくづくその難かしさを感じ、結果的には全く理解していないことを残念に思います。

一体「奉仕」とは何であろうか、私は何冊かの本によってこれを分析し、私の共感することを私なりに纏めてみました。

“奉仕とは”

1. 精神的、仕事の人のより丁寧に扱うということ
1. 情報、知識をより多く提供すること
1. 場合によっては物を無償で提供すること

です。しかしこれら三つの有形無形の行為は夫々相容れぬ性格をもつものでありますが、何れかのもので連鎖結合して、行動されているものだと信じ、さ、やかながら私の職業上の奉仕のベースにしております。

昨今の日本経済は、日本風邪とアフリカ風邪を併発した悪性インフレの渦中にあります。しかしこれも、総需要抑制と途上国援助・協力という両ワクチンにより、漸次安定に向うものと思われませんが既に74年の消費は、頭初から“生活防衛型”に移行しております。

ともあれ、かゝる渦中にロータリアンとして「職業を通じて社会に奉仕する」ことは、今までも難かしいことでしたが更に又、一層難かしいものとしてくれたようです。

われら四十代

大野勝男

光輝ある当クラブに入会のお許しをいただいて1年有余、各界の第一線実力者、指導者の方々の言動をひそかに見聞しつつ、何かを吸収して自分の凡ての

事に役立てたいと勉強して居る最中です。

この度、クラブ創立10周年の記念すべき年にあたり、榮ある伝統を築き上げられた幾多の先人のご努力、ご労苦に対して心から敬意をさしげると共に、その喜びの一端を分ち得る一員となった事を非常な光栄と考えます。

日本史の中で、或いは世界史の中で大きな転機を示す終戦から早くも30年近く経てしまいました。私はあの時、中学3年生の夏で、直接、戦争への参加はありませんが、学徒動員で飛行場や工場で働かせられた時代でしたので、戦時中の一面をかいま見る事の出来た世代で、勿論、戦前派ではありませんが、戦中派の最後の方に属して居るのかも知れません。

四半世紀を過ぎると戦争を知らぬ世代が当然ながら増え、戦争を知る世代との断層が次第に大きくなって来ました。若い世代は戦前、戦中派の話も理論も信用しないし、体験と行動による以外、納得出来ないとし、彼等の反権力闘争は断層を克服しようとする彼等なりの試み、或いは旧世代が打破し得なかった壁を、代わって打破しようとして居るとも解釈できます。

敗戦と同時に、体制や規律は無論の事、道徳まで一切が崩れ去ったのは当然です。しかし、戦かって居た時には無かった希望が敗戦と共に生まれて来て、この希望の星に導かれた民族の活力が戦後の復興、繁栄をもたらしました。確かに経済の拡大、欲望の充足を目指して只、がむしゃらに突き進んで来たと言えます。その結果が、成長のための成長、繁栄のための繁栄、浪費のための浪費と云う事でごまかして来たために、資源の問題で、或いはそれ以上に精神文化の軽視、乃至は無視から大きな障害に突き当たった時代になったと思います。あの頃は、国民は腹はペコペコでも、胸は希望にふくらんで居ました。現在は確かに腹はいっぱいだが民族の方向感覚は完全に失われて居る様に思われます。

初心忘るべからずと云う言葉がありますが、凡ての権威がゆらぎ、新しい秩序を摸索しつつある現在に於て、国破れて初めて希望を得た国民の初心は何であったかの思いをはせるべきではないでしょうか。あれから30年、色々な歪みと傾斜が数多く見られる時、そして各世代に於て価値観の相違が確かに存在する時、我が国の将来が経済と人間の調和ある発展の中に、人間と文化の質を高

めて行く事を目標として進むのは当然ですが、その時、戦中派の存在価値は何でしょうか。

ハワイアンの魅力

大 沢 昭

夏と共におとずれるのはハワイアン音楽であります。学生時代よりこの音楽のとりこになり、自ずからバンドを編成し、あちらこちらで演奏をした経験からこのハワイアンの魅力についてペンをすすめる。太平洋のパラダイスとよばれるハワイは 184年前、英海軍のキャプテン、J・クックが発見した。当時は未開の孤島で捕げいのため南下したポリネシア人が土着しているにすぎなかった。

1795年カメハメハ一世が、オアフ島を征服1810年にハワイ、オアフ、カウアイ、モロカイ、ラナイ、ニイハウ、カホラエ、マウイを統合、王の治下に収め93年リリウオ、カラニ女王の代で亡びるまで続いた。5000米の深海からふき出した火山が海面上に現れたといわれるこの島々は、さんごしょうと緑の樹木、色とりどりの花々におおわれ風光気温とともに、どの国よりもすぐれた文字通りの楽園なのです。水と素晴らしいコントラストのダイヤモンド、ヘッドみさきをまわり、オオラウ山が、あおい海にかけを映す港を訪れるエトランゼたちは、カナカ娘たちが捧げる民族の花カーネーション、ジンジャーのレイを首にキスを……ノスタルジックな南海の島々の幻想と、ふんいきの美しいイメージを目の前に描くハワイアンメロディー、ある人はスチールギターの音色、心をゆさぶるスラーなどに限りない魅力を感じるといいます。またある人はハワイ音楽独得のフラ、ソングに聞かれるあのファルセットに、なんともいぬものがあるといっています。ハワイ音楽はロマンチックであり、スイートな音楽だということです。その点では女性的な優しい音楽の性格を持っています。それにハワイ音楽は郷土的な民謡をベースとして発達してきた音楽ですから、非常にフレンドリーな人間の持つ共通の感情を呼び起こす要素を持っています。ハワ

イ音楽を分類してみると、(1)神への祈り (2)自然を讃えるもの (3)生活環境や愛情を歌ったもの (4)花を賞美したもの等です。現在では儀健的な高級なハワイ音楽の演奏は、ほとんど聞くことができませんし、今のハワイ音楽はどちらかといえば庶民の娯乐的な要素のほうを受け継いだといえるでしょう。

現在のモダン・ハワイアンは19世紀半ば頃より伝えられたギターやウクレレ今世紀になって発見されたアンプリファイヤーで音を拡大するギターなど、まったく面目を一新した近代楽器によって演奏されているので実質的な内容は非常に異っています。今の私たちがハワイ音楽と呼び魅力を感じているのは、このモダン・ハワイアンなのです。それはスチールの甘い音に感じることもあるし、ファルセットに、またこれに伴うフラダンスや、ハワイ音楽が持つエキゾティシズム、開放された野性的な感覚、ハワイという常夏のパラダイスに結びついたイメージ、それら全部が強烈的な印象としてせまってきます。こんなところにハワイ音楽の無限の魅力がたたえられているのです。

吾がシルクロード

曾根 丈治良

マユから生糸、そして絹織物へと祖父から父へ、そして私と三代目の歴史の中に育った私にとって絹は私の人生であり、私は絹の歴史と共に今日があると云えるでしょう。

太古から絹は人類の、あこがれの繊維として尊ばれ、愛されて来ました。その歴史は誠に古く、伝説は更に西暦前3000年にもさかのぼるのです。

時の中国皇帝の皇妃西陵が野生の昆虫が作るマユを弄んでいる中に熱湯の中へ落してしまいました。箸を使ってそれを拾い上げ様としましたが箸の先に細い糸がほごれてきてたぐり上げても、無限にまきついて来ました。その美しい気高い光沢と、しなやかな軽い手ざわりに感嘆すると共に、生糸への技術を発見したと伝えられて居ります。

この生糸から絹織物へと進歩したのは中国周朝の紀元前 550年頃と思われま

す。それ以来 400年間中国での絹織物の研究と努力が続けられて紀元前 141年頃から漢朝第7代武帝時代には軽くて、キラキラと輝く織物を詰めた大きな箱を隊商から隊商へと、リレーしてはるかにヨーロッパの婦人達に届けられ、王朝貴族の最高のファッションとなったのです。しかしその為には多くの夫達はそれと同じ重さの黄金を支払はねばならなかったのです。

その着物はかろやかで着心地よく、歩くのにも快く、そして水のようにさらりと身体を流れ落ちる、あこがれのシルクでした。

この道が今も尚、世界の旅人の夢に画くシルクロードなのです。約1万kmの行程が今の中国の西安からパミール山脈を越えてペルシャ、トルコを経てはるかに地中海に達したのです。

さて、この絹が中国から韓国を経て日本に渡って来たのはいつ頃なのでしょうか？

前述のヨーロッパへの道よりかなり遅れて、紀元 700年から 800年頃、元明天皇の和銅6年、更に元正天皇の靈龜2年高麗人1799人が高麗王若光に従って現在の日高町に亡命帰化し、高麗郡地区に養蚕、製糸、織物を広めたといわれて居ります。

現在、高麗神社及聖天院に宝物として、高麗絹を以って幅装したものが遺されて居ります。

最近発掘された奈良県高松塚古墳に絹の衣服が発見された事から考へ合せて今から1200年前頃奈良を中心として絹織物は王朝貴族に愛用された事でしょうし、その絹の生産は吾が埼玉の高麗郡地方も分担したものと思われま

す。飯能絹の記録によりますと、文化5年10月より飯能の街路両側に縁台を敷き織物買人を招いて売買市を開いたのが始まりとなって居りますが、更に逆って慶長年間に飯能絹の江戸での売値1貫300文と記されて居りますし、徳川三代將軍家光公に対して高麗郡宮沢村(飯能市宮沢)田辺勘右衛門より絹10疋也を貢納した処3人扶持を賜ったとの記録もあり、当時の絹の価値が偲ばれるわけです。この高麗郡飯能地方から武蔵野を経て江戸への道、更に鎌倉街道、東海道中仙道を経て奈良、京都への道は我が日本のシルクロードともいえるでしょう

名士を語る

品川 誠三

名士を語ることは大変むづかしい。先づ名士の定義が判然しない。辞典に依ると才徳の優れた名高い人とある。然しこれも思いかたで人それぞれで異であらう。ロータリアン各位はそれぞれの道に於いて名士であり、又名士である自信を持つ努力が必要であらう。

私は、今日まで数多くの先輩、友人の教えを受けて来たが、最も心引かれるのは自分に足りないものを沢山持って居られる方々である。従って各地の例会に出席して有意義に思う事は、多くの方々から私にないものを教えられることである。

私は田舎育ちの粗野な人間で昭和2年に郷里を離れて25年までサラリーマンと云うと格好よいが、労働者として、それなりに努力もし先輩の教えも受けたが各界の名士の教えを直接にうける機会に恵まれなかった。25年に独立するに当り偶然にも私が最も尊敬する「野人品川義介先生」にお会いする幸運に恵まれ、且つ先生に繋る各界の多くの方々を知り、世の中の広さと自分の小ささを沁み沁み味わされたものである。以来暇があれば世に云う名士を訪ね、お話を承ることに熱中し実に多くのことを教えられた。品川先生はどんな方かと云うと、一見きさくな一介の老人だが話を承って居るとその豊かな経験から滲み出る教えと先生を囲む方々が各界の名士、老若男女と其の範囲の広さに驚き且つ羨しい限りであった。

私が最初に先生のお宅をお訪ねした時、その遇され方が先生一流なのに驚かされた。「初めての訪問者が主賓」だと上座に招じられ7～8名の先輩諸氏が当然の事としてなごやかな談笑に加えて頂いた事が印象深く残って居る。其の同席した方々の中に銀座日本堂の社長佐川久市氏、奈良機械の奈良自由市社長、農林省蚕糸試験場長大村清之助博士等が居られ、変わった所では共産党徳田球一氏の妹さんも同席であった。

品川義介先生の教えは「真の豊かさを」求めようとの事が主眼で、真の豊か

さは物質や地位や金では無い、心の豊かさだと沁み沁み教えられた。

先生宅に頭山満翁の書で漢詩があり「金玉積んで山の如し仙眼より之を見れば路傍の糞」と頭に残って居る。品川義介先生の教えこそ真のロータリー精神だと思う。昭和41年現在の会社を創立するに当り少しでも先生から教えられた事の実現が出来ればと、社員諸君からは社長の趣味のように言われながら各界で活躍される名士をお招きして、月一回お話を聞き社員皆んなで少しでも心の糧を得たいと実行し続け、既に80余回になった。知らず知らずの内に少しづつ、心の豊さが養われる事を期待して。名士と云われる方々は大いに利用して差上げねば社会の損失だし、名士の方々にもよろこんで頂けると信じ今後も許される限り続けたいと思う。

今日まで私がお会い出来た名士観は品川先生の教えの通り「名士とは貧しくとも心の豊かな方々の事を称す」と云う事である。

お茶の香り

清水勇三

日常茶飯事ということばがありますように、お茶は、永いあいだ日本人の生活と共に、あゆんで参りました生活の必需品であり、日本人の生活と一体になって、今日にいたっております。

あまりに、その存在が日常化されてしまうと、そのありがたさを忘れがちです。その存在はまるで女房のような、存在でありましょう。そこにあることがごく当然であり、ごく自然であります。ひとたびそれがなければたいへん不自由であり、また、まことにさみしく、物たりなさを感じる。そういった私達の生活の中に密着した、まことに愛すべきものです。「朝によし、晩もなをよし昼もよし、食前食後、その合もよし」と云った人もあります。人とのあらゆるまじわりにも、まずお茶にはじまり、おしまいには「おあがり」とチャレたことばで終るほど、日本人の生活には不可欠の様な存在でもあります。一日はまずこのお茶から始まり、人生の一日がこゝからはじまるのです。今日も元気で

生き甲斐のある一日でありたいと、香り床しい朝茶にねがいこめて、味わいながらのむお茶にふと人生の幸せを感じます。時に、茶柱が立ちますと「今日は良い日にちがいない」そんな淡い希望を、人知れずもつこともあります。

昔から茶柱は瑞兆とされています。それ故に、この茶柱にさ、やかな願いをこめ、今日一日がよかれと願うことは、お茶をのむたのしみのひとつでしょう。お茶は、単にのみものというだけでなく、たのしい和気をつくりだす媒介物でもあります。お茶を飲みあい、つきあう中におのずからなごやかな空気がかもしだされ、人の心と心が結びつけられていくものです。茶の道を和敬清寂と言いますが、清寂は茶道の求めるものにしても、和敬は日常のこうした中にもあるのかも知れません。「お茶！」まことに聞きなれた、また言いやすい名前！というより“ことば”で、ちょうど親が子を、子が親を呼ぶような、なんの抵抗もないひびきさえもっております。煎茶は普通家庭で飲まれているお茶のことですが、このお茶をのむ、まことに平凡なことではありますが、たまたま上手にいられたらいたりしますと、相手方の心遣いがうかゞえて、うれしいものです。お茶をおいしくいれる、どなたも思っていることですが……いかに高価なお茶を使っても、入れる人の“心”がなければ、おいしい味を出すことはむずかしいでしょう。キュウスにお茶葉を入れて、マホービンからチャーで、色つきのお湯をガブガブというのは論外ですが、せっかくいれるならもう一ひねり「おいしくいれる」という心づかいがほしいものです。

抹茶には抹茶道があり、煎茶には煎茶道があります。千利休以来、抹茶道は上流社会で栄えましたが、それとは逆に煎茶道は庶民より発したものだそうです。煎茶道といわれる限りそこに何んらかの「道」があり、茶道・華道・剣道さらに仏道といわれるように「道」とされるものには、精神的なものがそこに求められるわけで、そこに仏道にも通ずる「道」が要求されています。茶禅一味といわれるのも、そうしたことからくるものだそうです。

煎茶道一つにしましても、こんな精神的な奥深い流儀・作法の世界があるわけですが、根本にはお茶をおいしくいれるためのルールがきちっとはめこまれているわけです。しかしむずかしい事はぬきにしまして、おいしいお茶を入れ

る「一ひねり」には最小限度守っていたゝきたい。簡単なルールがあるのでこのルールさえのみこんでしまえば、びっくりするほどおいしいお茶をいれることが出来るでしょう。いちど日本茶の素晴らしい味を味わってみたら、こんなにうまいものだったのかと、きっと驚かれる事でしょう。おいしいお茶をいれること、おいしいお茶をのむこと、それは日本人だけが知る心のゆとりと、幸せであるといえましょう。

近頃しまりに思う

佐野 卯三郎

齢古希を過るとしみじみと長い年月を生きたものだと思う、此長い期間には国家的にも家庭的にも実に大小無数の変化があった。何と言っても第二次世界大戦に日本が敗れた事が全国民にとって嘗てない大ショックだったろう。然しこゝでは家庭に於ける一小事に就いて見たい。

私が小学校に入った頃だった。長兄の結婚式があった。勿論今日料亭で行われる様な式とは大いに趣を異にしている。各家庭に於て行われたのである。親戚、知友はもとより隣組の人々が大勢集って来た。其時私は筒袖の紋付羽織、袴で三三九度の杯の酌をさせられた。花嫁が大きな髪を結って其油の香が強かった事、其後一人ふえた家の中が急に明るく賑やかになって私達まで浮きうきした事、それ等の事どもをつい昨日の事の様にはっきりと覚えて居る。

こう考えると70年は長い様でも実はアッと言う間に過ぎ去ったのである。やがて其姉は3人の子の母となり、子供達は夫々学校を終り職を得て、結婚した。嘗ての花嫁は母となり祖母となりやがて75才で此世を去った。丁度4年前の正月一日朝九時頃この姉の家に年賀に行った。着替へた姉は晴ればれした表情で実家の甥が私の世話で婚約した事を喜んで居た。其夜10時頃電話がありオバアチャンが倒れたと、今朝あれ程元気だった姉だ、信じられなかった。或はお手伝のオバサンではないかと聞き返すとやはり姉だった。飛んで行ったがもうこときれて居た。人生朝露の如しと、馳けつけた者はたゞ茫然とした。

葬儀の日あの大きな髪を結った姉の花嫁姿が目には浮び、然も現実には小さな棺に納められて長男が恭しく遺骨を捧げて居る事を思うと私は人の一生を始めから終りまで見た様な気がした。人は皆この道を通らなければならない。子は生命の延長だと言う其意味では生命は永遠であろうか、たゞ生身の我々には必ず終りがある。

せめて残る日々を充実して行きたいと思う。

職業奉仕委員長として

清水栄次

記念すべき10周年に当り何も分らない私に職業奉仕委員長を指名され、此れはえらい事にぶつかった。何んとか一生懸命勉強しなくてはと云うのが偽はらざる目下の心境です…… が良く考えて見ると職業奉仕というものはロータリアン個人が行うべきもので1職種、1会員の代表として最も奉仕の心の優れた方の集りであり、先づ自分の足もとから天職である自己の職業にベストを尽す事であり、又商人は昔から一段と低く見られがちですが、自分の商売を繁栄させる事によって、自己の職業を通じて地域社会に奉仕すると云うロータリーのみが持つ理論の卓越性。何故か……何故か……と問いつめる所の精神的境地、ロータリー理念、ロータリー哲学の追究こそ今後の人生勉強の心の糧として、かけ出しの委員長ですが、諸先輩に追いつくべく努力し、自己の職業に自信と誇りを持ち、此の様な激動の年、狂乱物価のときこそ我々の真価を問われる秋であると反省して居ります。

ロータリー雑感

斉藤文雄

「ロータリーへ」と云う言葉のある先生からいただいた時、正直なところ何の事だかさっぱりわからなかった。そして現在も尚良くわからない。始めての

例会の出席には、恐怖と期待の入交った心理状態であいさつをしたものだが、今もギリギリで例会へ駆け込む時等は、全く前のまゝである。不勉強と云えばそれまでだが、どうも能力の限界を感じている昨今である。メイクアップともなると全くお手上げである。先輩のロータリアン達が旨くこなしているのを見ると、その努力には頭の下がる思いがある。石の上にも3年と云う言葉があるがロータリーに入って3年目、どうにか「本もの」のロータリアンになってみたいものだと言願している。そしてロータリーの精神は「そこより求めるのではなくて、そこに尽す事にあるんだ」と云う最も初歩的なものに気付いたところです。よろしくお願い致します。

こ う あ り た い

齊 藤 季 利

茲に当ロータリークラブが発足なされてより、10年の永い間、先輩皆様が親睦と奉仕を以って地域社会へ貢献なされた業績に敬意を申し上げます。

私もこの度先輩皆様のご理解によってロータリアンの一人として入会出来まして、小さい自分が職業を通して少しでも世の中のためお役にたつ奉仕のあり方を教えていただきました。又親睦によって巾広い人間関係が結ばれることの機会が出来ましたこと、自分の職業に、プライドを持ち、自分の職業を深く認識して行動すべきである等が解りました。「奉仕に明けて」「奉仕に暮れる」ような立場にあるロータリアンの仕事は、「理解し合った親睦」「協力し合った奉仕」でなければならないと信じました。

理解と協力の欠陥より生れる世相の混乱を見るにつけてもいえること、それはオイル問題、人種差別問題、食糧需給問題、経済交流問題等に故障が出来るのも、原点を探究して見ますと皆んな理解と協力の不均衡に原因があるように思われます。私達身近な問題としても政党政派のあり方を見るにつけ、又労資間の談合も其の結果は実力行為で解決する始末となり、教学の問題も師弟間の感情、主義の相違で闘争に波及し、社会に迷惑を及ぼす有様や地域社会の人間

関係、家庭内のいざこざ等の不祥事は皆んな相互に理解と協力が得られないからであろうと思う。「理解と協力」の手本は夫婦関係ではなかろうかと。夫婦は他人同志が結婚し祝福されて人生の門出をしてより終生に至るまで喜びにつけ、悲しみにつけ、お互に信じ合いよくお互の立場を理解し、協力し合って如何なる苦難も乗り越えて行ける力こそ、真の理解と協力の指針であろうと思います。

奉仕の理想、理想の奉仕もロータリアン同志が理解と協力の巾広い親交を育成し、奉仕の向上につとめるとき実現することでしょうし、自分の職業を通して常に「ロータリアンらしく」「ロータリアンぶらず」明日より毎日毎日自分のペースで奉仕を積み重ねて行くように努力したいと思います。それが私に与えられたこれからの仕事です。これからの世の中も理解と協力とによって平和で、共存共栄でありたいと念じています。

10周年を迎えて

武居藤吉

当クラブも本年7月22日をもって満10周年を迎えることができましたのは、誠にご同慶の至りでございます。

かえりみますと10年前、入間クラブをスポンサークラブとして創立いたしました当時は会員が36名でありましたが、現在では63名となり、第357地区内でも優秀なクラブとなり、各委員会も充実した活動を行って非常に成果を納めております。

昭和43年には第358地区より第357地区として埼玉、千葉両県が分割されました。その後昭和48年7月には1地区の標準クラブ数は50クラブとして編成され当時埼玉県に49クラブ、千葉県には46クラブがあり、埼玉県内を357地区に、千葉県内のクラブを第349地区として、昭和48年7月に発足しました。第357地区の初代ガバナーとして、入間クラブの繁田正一先生が推薦されました。又私も47年の7月より48年の6月まで、当クラブの会長として推薦されつとめさ

せていただきました事は此の上なき栄誉の至りでありまして、感謝いたしております。この1年の間には齊藤分区代理さんのご指導で、分区の合同例会をホストとして、9月20日に行い、又48年の2月17日には、第7分区、第8分区の合同都市連合討論会を当クラブがホストで開催いたしました。当日は指導者として第7分区代理の中村先生と第8分区代理の齊藤先生をお迎えし、来賓として半田、川名両先生を始め20数名の方々と、会員は両分区より347名の方のご参加がありました。会場は観光ホテル雨だれ荘を提供していただきました。当日の討論会の講評として半田、川名両先生から、「各クラブの会員の方々には早朝よりご熱心な討論をいただき、すばらしい成果をあげられた事は誠に喜ばしい次第である」とのごあいさつがあり、続いての懇親会は、広沢バストガバナの乾杯の音頭で始まり、最後に「手に手つないで」のソングによりなごやかなうちに散会いたしました。

私もこの1年間、会長として勤めさせていただきまして県内の各界名士の方々は勿論県外の方々までご交際をいただき、更に又規律正しく社会の為に奉仕する精神につきご指導を受けました事は誠にありがたい次第でありまして、今後ロータリークラブの運営上会員の一人として、この1年間務めました事を反省して当ロータリークラブの発展のためにご協力申しあげる所存でございます。

かんたんで誠に失礼でございますが、当クラブが10周年を迎えた喜びと、会員の皆様方がますますご発展される事をお祈りいたしまして、ごあいさついたします。

ロータリーと私

竹田久治

当クラブに入会して早や5年。入会当時最年少の私は、毎週の例会が窮屈であり随分と気を使ったものであった。商売一途に営業の第一線であった為、メーキャップも多く100%の出席を確保するのに大変努力したものである。

入会当時は会報委員として、会報の編集に不馴れな私は徹夜で記録したこと

もある。その後出席委員、広報委員長を務め、職業奉仕委員長を指命された。今日迄ロータリークラブの何であるかの勉強を疎かにしてきた私に、ロータリー精神を体得する機会を与えてくれたことを感謝している。

「あなたは職業奉仕と云うことについてどうお考へですか？」これは公式訪問のとき、私がガバナーから受けた質問であった。「自己の職業を通じ社会に奉仕することです」と答えたが、ガバナーは「真の職業奉仕とは、洗脳されたロータリアンが先づ自己の職場にロータリーの理想を説き、次いで同業組合を通じて理想を説き、次にロータリアン以外の人に説くことである」……等々のお話をされた。その時私は、ロータリアンとしての使命を強く感じた。

私は朝礼に次のことを社員によく話しをする。「最近の業界は環境がまことに厳しいが、自分の職場に誇りと、自信をもって顧客に接し、斬新なアイデアをもって新商品を生み出し、取引先との共存共栄の実を上げる様努力してほしい」と……………。

私は本年度の『ロータリー精神を振り越せ』のターゲットを指針に、日常の職業と奉仕活動に最善を尽して行きたいと考へている。

雑

感

高橋啓夫

川上源太郎という東京女子大教授の「学校は死んだ」という極めてドラマチックな題名の本を最近一読した。私も現在日本の心と体の鍛錬を忘れた教育のあり方は日本沈没の最大要因になりかねないと大きな危惧を抱いている一人として、強い共感を覚えた。

現在全国に900余の大学と称するものがあるそうである。駅弁大学を卒業してこれでは各駅大学である。どうしてこう増えたのか、儲かるからだそうである。文部省の設置基準に合えば誰でも設立出来る。そこで功成り名を遂げた地方のボス達が最後の売名欲を満たし、余生を平穩に送るために投資することになる。

三尺下ってその影を踏まれなかった、かつての「師」は「てめえ」に引きずりおろされた。最近東北に設置された某私立大学の新生(勿論高校卒である)の英語の時間のやりとりの一コマ。

「アイ・イズ・ア・ボーイ」、スチューデントとは飛行機に乗っている女性のことだろうとヌケヌケと答える。極めて稀な一例としてもひどすぎる。こういう学生は将来どこへ行くのだろうか？。

同書に記載してある「死んだ学校の1・2の例をご紹介します。

遠足から帰って来た中学2年生のA君は、リックを放りだすや「先生達ははがゆかだよ、あげんことあるか、ぼく達はフーフー歩くのに先生達は車でスイスイだ」「なし、先生達は車で行ったと」と父親はげんなり顔。

「落伍者を乗せるというていたのに、帰りはお先にバイバイだよ！」「けしからん！今の先生なっとらん！」怒髪天をついた父親は他の父兄有志と共に校長に面接し、「鍛錬が目的の遠足に、教師は率先範を垂れる姿勢の一片もない！」と非難。校長は一言もなく机に頭を下げっ放し。

次は、ストに参加しない女教師を7時間もつるし上げて卒倒させ、救急車を呼んだマルクス教師達。ある大学の入試の一般常識問題。「次の地名のうち、共通点のないところを二つあげよ一三重、東京、静岡、青森、富山、福岡」海のあるところないところ、日本海側、太平洋側など、頭をひねると皆落第。正解は静岡と福岡。文字をタテに割って左右対称にならないのはこの2つだけだという。(2月18日朝日天声人語)。受験生の人格を侮辱すること之より甚しいものはないであろう。

日本は、史上類例のない「国と民族を沈没させるにはこういう教育に限る」という実験を、企業の自然破壊、公害と共に世界にやって見せているようなものではないか。

かっつ夏尾長群居する大櫛 (凍士)

猫のひたい程の広さではあるが、我が家の庭には木が雑然と茂っているせいか、四季を通じて小鳥が多い。筆頭のスズメは一年を通じての付き合いであり、庭に来る小鳥達の中の主と云った存在と云える。

2月下旬には早くも鶯が、笹なき、で春の近いことを知らせてくれる。毎年忘れずに訪ずれる小鳥は、アオジ、カワラヒワ、ヒタキ、ヒヨドリ、山鳩、オナガ、四十雀、ざっとこんな所である。

アオジは地面に撒かれた雑穀を、カワラヒワはスズメ達の留守をねらって餌場の粟を用心深く然も貪欲に啄んで行く。特に山グミが好物で、ルビーのように赤く熟れた実は勿論、青い実も、すっかり無くなるまでは辛抱強くかよって来る。

ヒヨは大食漢で気性がはげしい。とにかく他の鳥がいると追い散らさなければ気が済まぬらしい。春先は南天、梅の花や白木蓮の花びらまでも勝手気ままに食いちらかし、秋は秋で、柿、つげ、柿の実等、何でも手あたり次第で全く好き嫌いが無い様である。せめて食べる時位は静かに食べれば良いものを、ピーヨ、ピーヨとけた、ましく傍若無人の振舞いとは恐れ入る。

ヒタキは、冬鳥として渡って来るが、秋のほんのひととき姿を見せるだけで気ぜわしく動きながら、いつの間にか姿を消してしまう。ヒーコッコッ、哀調を帯びた声を時たま聞くばかりで、仲々その姿を見せず、それ丈に、黄茶の腹、黒の胸、つばさに白い紋付きが何ともあざやかな印象として残っている。

オナガは人なつこく茶目気のある鳥である。大体グループでやって来るが誠に賑やかで、人が近くに居ようが一向に無頓着をよそおっている。それ所か、相手が子供だと馬鹿にするのか、頭上近く飛び交い、おどろかせたりするいたずら者である。ついこの間も、飼猫のコロが槇の下で昼寝をしていると、4羽のグループがやって来て、すぐ上の枝で大声でわめいたり急降下のいたずらを始めた。コロの方は、相手が鳥ではと云った風情で庭石のかげに退散して様子

を見ていたが、一向に止める気配もない。さすがのコロも腹に据えかねたのだろう、庭石をふみ台に枝に飛び上りざま、一羽を捕えてしまった。何とも見事な跳躍だった。オナガは子供達の手で紫陽花の根元に埋められた。日曜日の昼時は以外に静かである。風が梅の梢を渡って行く。隣の屋根ではスズメ達の声それに相変らずの賑やかなオナガの声、西の空に雲の切れ目が見える。長かった梅雨も、ようやく明けるらしい。

『幻滅を乗り越えて』

—ミネアポリス大会の収獲—

吉島力良

日本民族は昔から、熱し易く醒め易いと言われているが、私もその一人である。

商売上加入している二つの会で、経歴の古い為か役職を持たされ、時には都内の本部へ通うことも多かった。併し会員数が増え、グループ間のもめ事が烈しくなると、野心のない私は厭気がさし、指令されても一切固辞して受けなかった。

ロータリーは、飯能クラブの創立と同時に、二代目ロータリアンの抱負もすさまじく入会させて貰った。何か、人生に大切なあるものを掴めそうな気がしたからである。

チャーターナイトのあと、すっかり全会員と打ち融けて、春風駘蕩たる友情のムードに酔っていた頃、突然第3期の幹事を指命された。創立間もない当クラブでは、事前に炉辺会談を開いて委員会毎に新年度の計画を練ることなど露知らず、一切を委員長様をお願いして第1回の例会そして協議会に臨んだが、どうにも恰好のつかない状態となり、ある会員から手痛く叱り飛ばされた。

そこで大発奮、ルールと手続きの研究を始め、商売柄定款・細則には強い方であったから、一応マスターして事後の運営は、オーソドックスに行った積りである。ところが、ルールを覚え過ぎた為か、他会員のミスが目に着き出した例へば、「クラブ協議会」という用語があるのに、「役員及び委員長会議」なる

珍語を發明したり、又クラブ会報を見ると「会長幹事会でメイクアップ」、或は「何某ゴルフクラブでメイクアップ」等と麗々しく書かれているのに驚き、陰乍ら注意したが、度重なると単にウルサイ奴だと思われるだけ。ロータリーの定款・細則は、ワンマン会長、ワンマン幹事の出現を喰止めるため良くできていると思うが、どうも無視される為にあるらしい。この頃から、少々幻滅を感じ始めた。

併し何と言っても最大の幻滅は、会員の質と量の問題であった。

「ロータリーの拡大が止った時、ロータリーの死滅が始まる。従ってロータリーを拡大せよ」という御趣旨は、誠にご尤もであるが、よく考えて見ると、

ロータリーの力 = 「質」 × 「量」

ではないか。この算式を一見すれば判る通り、幾ら量を増やしても、グレッシャムの法則ではないが、質が低下すれば同じである。反対に量は同じでも、質を向上すれば力は増える筈だ。問題は質と量のバランスである。

長期的視野に立てば、質と量は正比例する。

何故なら、良い会員が増えれば入会希望者が殺到し、逆に会員の程度が下がれば、心有る人は入会をためらうであろうからである。

さて、それでは日本ロータリーの現状はどうか。今や会員数6万と言う世界第2のロータリー大国となり、全国津々浦々の目ぼしい企業の経営者が会員となって、奉仕の精神を持って仕事にあたっている。従って日本の社会、特に産業社会は大いに浄化され、住み良い環境を作っている。ところが現実にあるのは、公害、買占め、インフレの昂進ではないか。勿論これはロータリーだけの責任ではないが、何かロータリーの無力さを物語っているような気がしてならない。

曾て、英国の「講壇社会主義者」は理論を唱えるだけで実行せずと批判されたが、現在のロータリーは、「例会だけのロータリー」と言われても仕方がない一面もあるようだ。

神守バスターガバナーが言われたように、「曲り角に立つロータリー」に高い会費を払い、100%の出席を誇った処で何の足しになるのかと、自問自答し、悶

悶とする日が多くなった。丁度その頃、尊敬するロータリアンの中里、比留間両先輩と連立って、ミネアポリスR I大会に出席する機会を得た。

其処で私は、ロータリアンの暖い友情と、欧米人の息の長さを見出し、今迄の「井の中の蛙」的考え方を変えざるを得なかった。簡素で地味な会場に集まる欧米のロータリアンは、カラフルな服装も軽く、我々日本人にもどンドン話しかけ、握手を交わし、街角であっても「ハイ」と呼掛ける。誠に心暖まる友情が一杯であった。この友情が世界中に行渡ったら、どんなに明るい世の中になることだろうと、私達は大いに感激した。

又アメリカ大陸の、何と広大無辺なことか。バストガバナーの柏原様、川名様を含む一行と共に、ミネアポリスの中心に立つIDSビル51階の展望台に上り、四囲を眺めたが、無限に平野が広がって山影全くなく、所謂大平原の中を「偉大なるミシシッピー」が悠々と流れる雄大なパノラマが展開され、屢く眺めているうちに、「百年河清」を待つ大陸人の広い気持が判るような気がする。同時に、ミミッチイ島国根性が恥しくなった。

何も一気呵成に質の向上を図らなくとも良いのだ。もっと時間をかけて着実にいこう。奉仕の精神は、ロータリアン同志の暖い友情から始るのだ。例会で育んだ友愛を地域社会に溢れさせよう。先づそれからだ。永遠に続くロータリーを前に、何を急ぐのだ。

こう考え直したら今迄の幻滅は消え失せ、目の前が明るくなって来た。フト見上げると、四つのテストの額の中で、「それは好意と友情を深めるか」という文字が、一瞬ピカリと輝いた。

飯能クラブ入会10年にして、ロータリーの本場である米国で、R I大会に参加し、先輩たちから無言の訓えを受けたことを、私は一生忘れないであろう。

10 周年 雑 感

吉 田 富 雄

わがロータリークラブが10周年を迎えた。時の流れと共に会員間に多少の変

動もあったが奉仕の理想に、もえて一つの歴史を作り出したことは誠に意義深いものと感銘している。

憶えば平岡会頭、吉島氏とゴルフをしていた折、会頭から飯能にロータリークラブを作るので入会するよう言われ、何んのことか良く解らなかったが設立に参加したのはツイこの間の様な気がする。その後武田さんの後を引継いで幹事となり、石井会長とアチコチ飛び廻った。難かしい会合での話し等、聊か忘れてしまったが、時には車を止めて屋台の焼芋を買わされ、ヒゲを生やした会長先生と食べた思い出等は、多忙の中にもユーモアがあって忘れられない。私もお陰様で10年間無欠席者3名の中の1人となった。休んではならないと特別に意識した覚えはないが、健康に恵まれて、欠席したらメイキャップすると云う当然の行動をしただけである。クラブに出掛けることは私の生活行動の一部であり、習慣であり惰性でもある。水曜日は黙っていても家内は昼食を作らない。良くしたものである。今後も無理をしないロータリアンとして務めてゆきたいと考えている。

私の例会に出席することの一番楽しみは、仲間と顔を合わせること、語り合うことである。地域社会に於て夫々の立場で信頼を得る人々のこの貴重な集会が簡単に形成されるだろうか。ましてや一週間に一度も。ロータリーはそれを正確に実現して下さる。だから私はメンバーの1人であることに深い感謝と責任を感じるのである。ロータリーの例会の場は家庭でも会社でも一番偉いと思いつている私には無言の良薬である。

お説教の請売

柳内貞雄

両親が昔から日蓮宗の信者であった為にいつとはなしにお経を覚えてお祈りをする様になり、現在でも毎日朝食の前に必ず經典の方便品第20如来寿量品第16、かんぜおんぼさつふもんぼん観世音菩薩普門品第25の三つのお経を唱えてから朝食を頂く習慣になって居ります。何十年間も毎日同じお経を唱えて居りますと、大変に長いお経であ

りますが、お経の意味はわからずとも自然に全部を暗記出来るものであります。私は今後何年生きられるか知りませんが、悪い事でない事だけは確でありますので、仏を信じて人によっては笑う人も居る事と思いますが、笑う方には笑って頂いて結構。命のある限り続けるつもりであります。

以上の事情で、私は時々一人でソット日蓮宗のお寺を尋ねて、高僧の貴いお話を聞きますが、その中で今迄に心に感じた事をホンノ一部ですが請売り致します。

金持ちになる事は人間一生の仕事であります。いくらあっても邪魔にならないものはお金であります。あれば、あるほど自分の為に重宝し、人の為に役立つのはお金であります。物の世界に於ける自在無礙の通力はお金を持って居ります。だからお金に夢中になるのは当然であります。釈迦や基督の説法よりも経済界の有名人や経済学者の経済政策や、経済のお話に聞き耳を立てる所以であります。生きた問題はここにあると思います。だから世の中の實際を良く見定めて無駄骨折りをしない事が極めて大切であります。

人生は成功より失敗の方が多いものであります。スゴロク遊びの様にサイコロの目の出方一つで振出しに戻される場合を勘定に入れれない考えは駄目であります。

昔から金儲けの秘訣は運根鈍の三拍子が揃う所にあると言はれて居ります。

金持になった人の経験から割出した格言でございましょうが、根と鈍は其の人の心掛け次第かも知れませんが運ばかりは人の力ではどうにもならない綾がひそんで居ります。見た処では世の中に、運が良くて金持になった人は、そうはない様に思はれます。運より努力でなった人は少ないながらもあると思います。努力とは一般にあまり出来ない苦勞に堪える力であります。だから一般の人には不向きな注文になります。しかし凡人でも金持ちでも味わえない満足を味うことの出来る道があります。それが信仰の道であります。又世渡りの秘訣は欲を上手に使う所にあると思います。欲は生命を運営する天与の法則でありまして、いかなる人でもこれに逆う事は許されません。生活するのも欲、結婚するのも欲、金持ちになるのも欲、勉強するのも欲、成功を希うのも欲、人生

凡ゆるものは全部欲の変形であります。だから人生を楽しくするのも欲の使い方一つ、苦しくするのも破滅するのも欲の使い方一つと言う事になります。

昔から道徳を説くものは欲を制して押えつける事が人間の立派な行いのように教えて来たようですが、それは誤りで、欲の使い方^に注意する事が正しい事だと信ずるのであります。欲の使い方^の下手な者は欲を狭く用いる。他人の迷惑を省ないで、自分の利益だけを計ろうとするのであります。悪賢く、狡猾な手段を弄する。自分だけ良い道を拾って歩こうとする。少し出して多く取ろうとする。そう云う欲の使い方は下手なのであると思います。誰でも損をする事は嫌で、得をする事は好きであるから割の良い方を選ぶのが当然であります。餌の無い処へ魚は集らないのであります。だから自分の利益だけを計る人は嫌われる。人の為を計り人を喜ばせる事と自分の利益を一致させる事が大切であります。欲の使い方^の上手な者は、人の為になり、人を喜ばせる事が自分を利益する近道であり一番正しい道である事を知って居るのであります。

お互に自分一人の力は知れたものでありますが、多勢の人の力を借りれば、大きく伸びられます。自他両面の道こそ欲の広い使い方だと信じます。

この考えが日蓮宗の教えであります。以上日頃信仰して居ります宗教の坊さんのお説教を請売りして、義務を果たした事にして頂き度くお願い申し上げます。私もこのお説教をいま少し早く聞いて実行していたら、世渡りの上手な金持ちになり、今の様な惨めな生活と人間から逃れて居たのではないかと残念至極であります。

応 対 の む づ か し さ

事務局

佐 藤 喜久江

いまの世の中で人と接しない生活は考えられません。人と接するのがイヤならどこか深い山の中に入って仙人にでもなるほかはありませんが、その深い山の中にまで開発の手が入ろうとしているこのごろですから、人との接触はこれからはますます多くなる一方で、仙人になっても落着いてカスミなどを食べて

はいられなくなるでしょう。

人が接触すればそこには必ず応対行為が生まれます。このごろは新聞を見ているといろいろな場面での応対批判がとても多いのに気がつきます。たしかに私たちは日常生活の中で、多かれ少なかれ不快な感じを受けた経験がありますがそのことを話すときには相手の非だけを前に押出して自分の態度、行動は見失うことが多いものです。自分だけを主張しては円満な人間関係は育たないからよい応対もできる筈がありません。一步下って相手にそのような不快な応対態度をとらせた原因が案外自分の方にあったのではないかと振り返ってみることも必要なのではないのでしょうか。

千差万別といわれる人間の性格……その集団の中でのよい応対は、お互いが相手の立場をよく理解することによって成り立つということを以前本で読んだことがあります。ロータリー精神が「奉仕の理想」であるように、応対精神もたしかに「誠意と奉仕」をその根底にもって、相手の立場をよく理解したものでなければせっかくの応対も、うわべだけのものに終わってしまうでしょう。

しかし、「言うは易く行うは難し」で、パーフェクトな応対は実際に行うのはたいへんむづかしいことです。もちろん私などにはできそうもないことですがその考え方の幾分でも身につけようと前向きの姿勢で進むことは必要だと思っています。特に飯能ロータリークラブの窓口として……。

あれや、これや考え、あらためて応対のむづかしさを噛みしめながら、少々太り気味の身体をせわしく動かしているこのごろです。

尚、事務局の桶田伊代、中島祐八様にも本誌の編纂にあたり、いろいろとお骨おりをいただき、ここに感謝いたします。



H R C と 対 外 活 動

(国 際 大 会 と H R C)
(親 ク ラ ブ ・ 姉 妹 ク ラ ブ ・ 子 ク ラ ブ)



東清州RC締結文



入間RC



東清州RC



越生・毛呂RC

国際大会参加

| | | | |
|---------------|--------------|------------|--------------------------|
| 60 | 1969.5.25-29 | ハワイ(米) | 小川(泰)、石井、神田、武田 |
| 62 | 1971.5.16-20 | シドニー(豪) | 比留間、江沢、平沼、石井、町田 梨木、小林 |
| 64 | 1973.5.13-17 | ローザンヌ(スイス) | 比留間、石井、川崎 |
| 65 | 1974.6.9-13 | ミネアポリス(米) | 比留間、町田、梨木、中里、吉島 |
| 子クラブ誕生 | | | |
| | 1970.3.22 | 越生・毛呂RC認承式 | 毛呂山中学校体育館 |
| 東清州RCと姉妹締結、訪清 | | | |
| | 1970.5.20 | 姉妹クラブ締結 | |
| | 1970.9.17-20 | 清州訪門 | |



第65回ロータリー国際大会（ミネアポリス）

R I 会長ウィリアム C. カター氏の挨拶
（上）

会場前広場にて

右より

川名、武笠、R I 理事、比留間氏（下）





ハワイ・ホノルル大会 (1969. 5. 25~29)



シドニー (豪州) 大会 (1971. 5. 16~20)



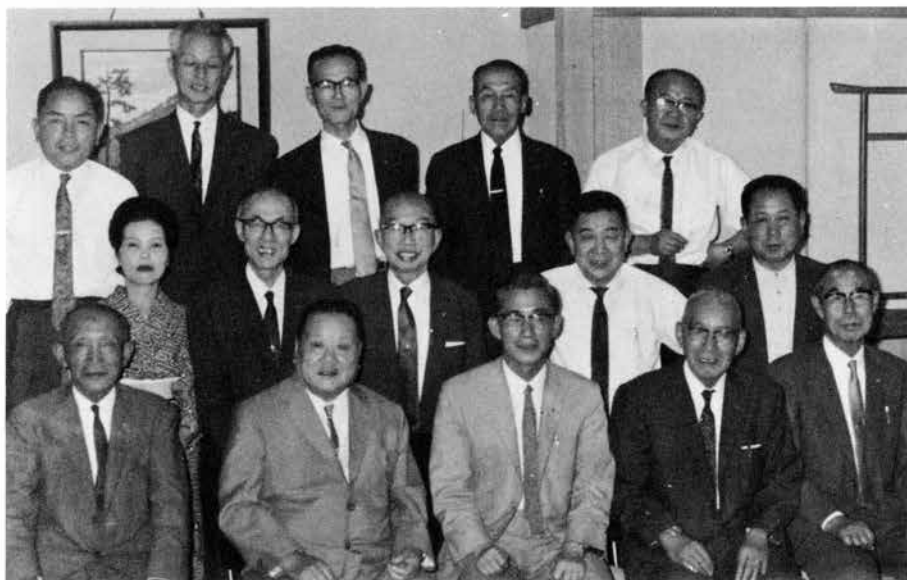
ローザンヌ (スイス) 大会 (1973. 5. 13~17)



ミネアポリス (米) 大会 (1974. 6. 9~13)



越生・毛呂チャーターナイト



李憲雨氏と語る（東雲亭）（45.7.8）

東清州との姉妹クラブ締結の経過

比留間 清治郎

昭和44年9月3日東清州R C総務金熙模氏より友好関係希望の書簡を受取った越生・毛呂R C畑氏は、同クラブが発足後尚日浅きため、親クラブ飯能に善処を依頼して来た。当時の国際奉仕委員長小室敏一君から依頼を受けた小姓は早速金氏に返事の手紙を出した(11月5日)。

その後金氏との文通中、飯能を“イーノー”と発音する一節に、人間相互の交際の必要性を痛感した(12月10日)。又彼があらゆる分野の学問に精通している事を知ってから(翌45年1月9日)彼と個人的に懇談したい欲求にかられ、2月5日訪韓の意志表示をすると、東清州全会員が歓迎するとの返事が来た(2月18日)。そこで意を決し3月6日AM8時45分のJALにてソールに向う、金熙模氏、金晶善氏が金浦空港歓迎デッキに出迎え、「歓迎飯能ロータリークラブ比留間清治郎君」と書いた大きな幟が空港にはためいていた。

同日東清州R Cの例会に出席、その件を協議した(3月6日)。

韓国人の日本に対する関心は以外に深く、私の訪清後、清州では日本語熱が高まり、一信女子中高校では課外教科に日本語を採用し、又日本への就職希望者が激増した(3月13日)。

昭和45年4月22日HRC理事会で締結を決議、続いて東清州R C理事会も5月20日同調し、季憲雨氏が東清州より結縁文を持って来飯(7月8日)、又昭和45年9月17日、HRC会員28名が大挙訪清し、東清州R Cで合同例会を開催した。

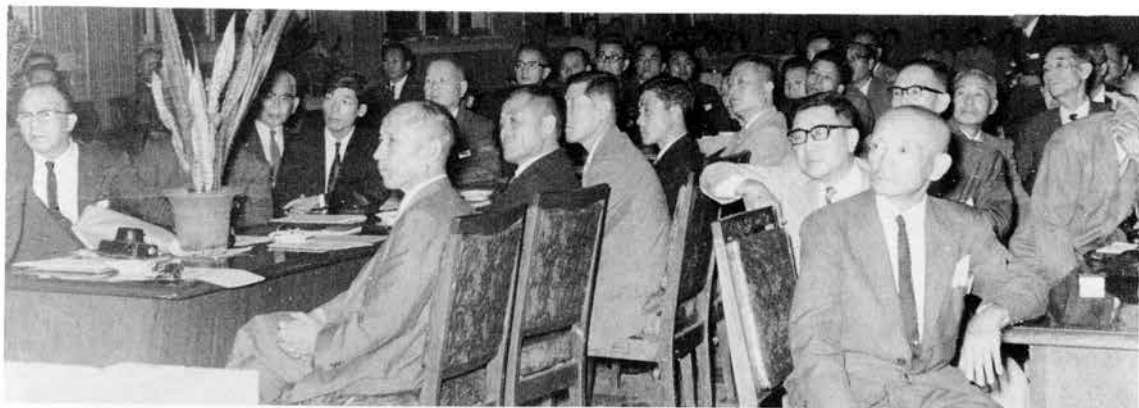
その後、一信女中高校長、金鍾声氏が来飯、又本年に入って、金皮膚科医院長、金熙模氏が当クラブを訪れ、友好の実をあげている。



東清州R C訪問団羽田を出発（1970. 9 .17）



清 州 市



合同会議とソウル観光

ロータリーは百万弗

東清州ロータリークラブ
前々会長 金 熙 模



韓国動乱も休戦になった時の事でした。殺伐でした前線も静かになり、当時従軍していました小生軍医官少領は部下軍医官達と余暇を雑談に過ごしながらかれからの事をよく話し合ったりしました。其の当時はやった流行歌にこんなのがありました。“若しも百万弗があったなら”内容は、軟派調で当時の軍事景気に乗った富益商、金銭万能の風調をおわせる頹廢的なものでした。若い軍医官達も鼻うたまじりによく歌っていました。

或日心の通じ会った一人の軍医官が、私に、中隊長殿が若し百万弗があったら何うしますかときかれた事がありました。金と縁の少い小生はそんな夢をいだいた事ありませんでした。けれど、荒廢した国土と乱れた社会秩序の中での再起には、金は切実に必要なものでした。そして、又此んな大金があったらそれからの人生ははなばなしに違いないとの気持があったのは間違いのない話でした。二人でお互に、あれや、此れやと精一ぱい金の使い所と、使い方を論じあいましたけれど、結局は別に此れと云うものはありませんでした。世界一週の話しも出だし、社会事業の事も、医学研究の事業もありましたけれどその中に一沫此れだけはとしたいものがありました。

人が人を知ると云う事、より高い人格に接すると云う事、其れは今まで小さい診察室で、限られた病人のみを相手に過ごした人が、戦争と云う中に赤裸々な、色々な人を接して見てはじめて知る願でもありました。

5年前清州ロータリークラブが膨張するにあたり、人口15万の此の地域にもう一つのクラブが必要だとの意見がまとまり、今は東清州クラブと呼ぶニュー清州クラブが誕生しました。当時幹事をつとめて居りました小生は、クラブ協議会に国際姉妹結縁の事を提唱した事がありました。

“近くから遠くへ” 動乱中米国に6ヶ月間米医学を学びに行った事があります。帰りに未だ充分復興していなかった東京に寄りましたが、地球上に習慣、人情が韓国と近い国はとしみじみ感じた事があります。それは満州にて過ごした学生時代に得た大陸の経験よりもはるかに近いと云う事を事更に感じました

日本の中でも韓国と何か近似点がある所があればと探している時、新聞に武蔵野を開拓した若光王の事がありました。はじめは“オゴセ・モロ”に手紙を出して見ました所、手紙が廻り廻って飯能クラブにて其の主旨悪しからずと比留間清治郎氏より、同じ医師である縁をもってクラブの快諾を伝へて呉れたのであります。

大挙26人の飯能クラブ会員の訪韓合同週会は、東清州クラブは勿論のこと、清州にては此の種団体では、はじめての国際的会同でありました。ロータリーと云う理念のもとに集った人達は瞬時に10年の知己となり、楽しいひと時を過ごした事は長く想い出の中に残ることと信じてやみません。

其の後、比留間様、品川誠三様をはじめ多くの会員たちから、時節につけおたより等うけて遠くに居ながらおもかげをしのんでは微笑むのであります。

正にロータリーは百万弗であります。“若しも”でない、はっきりした百万弗であり、所願成就の百万弗と信じながらつたない拙文を10周年記念のあいさつに拝上致します。

(註)

金熙模先生は皮膚科医、音楽を通しての才能教育研究に熱心で、研究所を建設、経営して居られます。

東清州一飯能RC姉妹クラブ締結の発言者であり又実権者であります。(比留間記)





わが郷土・わが趣味





丸広百貨店屋上より飯能市を望む



埼銀飯能店 例会場



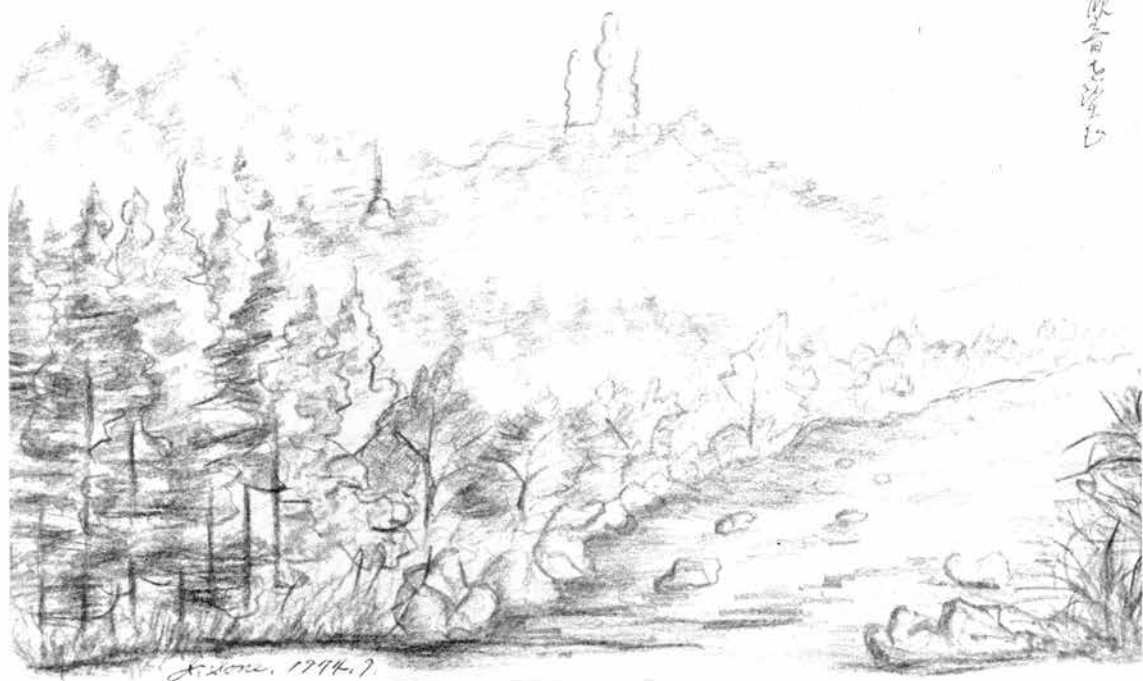
商工会議所 HRC事務所



聖天院山門(比留間)

史に高き 高麗王廟や 虫の声 (新堀)

名栗観音を望む



1974.7.

名栗観音(曾根)

初紅葉 もみじ 名栗川の川の 橋いくつ (川崎)

伊勢参り

梅雨なのに伊勢は紺碧き浪静か

五十鈴川流れも清く鯉の群れ

金箔が外宮内宮見別け付け

真珠には手も出ず孫の土産かな

ポンポンが響く海辺の宿の朝

(前久保幸雄)

例会を戻り山家の夏座敷

家族例会浴衣の子らもはしゃぎゐて

妹の愚痴も聴きやり月の道

旅衣もくせいの香の染むごとし

(伊代)

親しみの面おもに佳き日の菊薫る

遊歩道ここに始まりつたもみじ 薦紅葉

(川崎)

かなしみを空に上げて遠雷のするをりをりを山下り来つ

(飯島宵村)

秋の陽にかゝやう高麗の川波にうかぶ筏の下りやまずも

ほがらかに唄は水の面をつたいゆく筏ははやしきりぎしたかし

ほがらかに竿の手やめて歌うとふ筏は淀に今入りたり

遠里のはやしかすかに聞える秋浅き夜のかろき居心

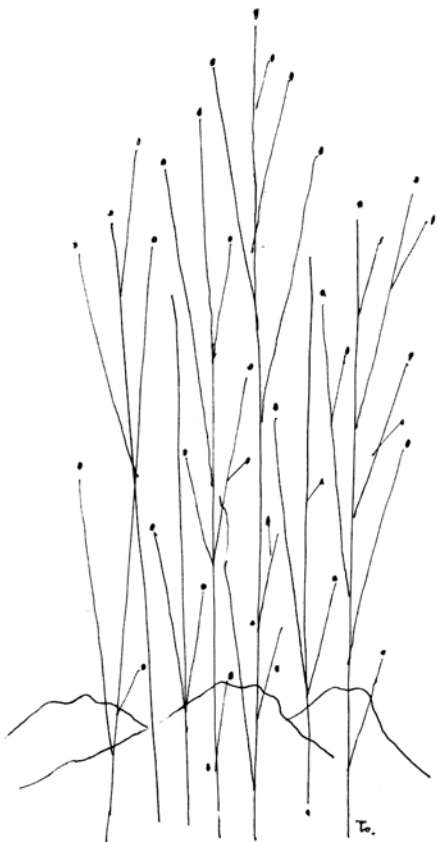
秋の日のかゝやう下に白々と一山の木は伐られゆくかな

(浅見孤村)

夏衣バッジはずしてヤァーのこえ

単衣きた夫人も交る誕生祝

(黒田平八)



追悼のことば

飯能ロータリークラブ発展の
さなかに逝かれた会員を偲び
奉仕と友愛に結ばれた、あり
し日の温顔を掲げて、心から
冥福をお祈りします。

照覧の紫雲

いづくや

秋の空（川崎）



「リュックを背負ったガバナー」

—故松方パストガバナーを偲ぶ—

吉島力良

飯能RCの第3期、私が双木会長の下で幹事を勤めていた当時のガバナーは登山家及びボウイスカウトのリーダーとして世界的に名の通った松方三郎様であった。

幹事という職責上、何度かお会いしているうちに、私はたまらない魅力を松方様に感じてしまった。何故なら、松方様はガバナーとしては型破りの人であると同時に、この上なく心の広い、謙虚で暖かい心の持主であったからである。「松方様ほど偉大なロータリアンに会ったことがない」と、大声で叫びたいくなる位、深い深い感銘を私は受けたのである。

昭和41年9月、公式訪問を前に、必要な書類をそろえてガバナー事務所を訪れた。丸の内第三東京ビルに設けられたガバナー事務所を見て私は驚いた。どう見ても普通の部屋ではない。それは階段下の物置を改造したところで、タイピストが1人いるだけ。豪華なインテリアを想像していた私は、一瞬我が目を疑った程見すばらしい事務所であった。

公式訪問の当日、以前の両ガバナーは、運転手付きの外車で来られたので、どんな車かと内心期待していたところ、松方様は、リュックを背負い、西武飯能駅からトボトボ歩いて来られたのである。歩いて……。

「初めての途なので、少し迷ってしまいました。遅れて申し訳ありません。」とニコリ微笑むガバナーに、私は只々驚くと同時に、この上ない魅力を感じ始めたのである。

最初の公式訪問では、新米のロータリアンを前に理路整然とロータリーを説明し、ロータリアンの責任を強調した神守ガバナーに、我々は強い緊張を覚えた。次の公式訪問では、旧皇族の貫禄充分、滑らかな演説をする竹田ガバナーに、会員一同畏敬の念を深くしたが、洗練された山男という形容詞ピッタリの松方様は、庶民的ガバナーとして我々の前に現れ、如何にもボーイスカウトの隊長らしく、雅拙なユーモアを体一杯に溢れさせて、我々の緊張感をといてくれた。三度目の公式訪問ということもあって、当クラブとしては初めてのリラックス・ムードの中で、充実した協議会を過すことができた。会員の発言も今までになく活発で、明るいムードが、会場内に満ちたのである。

公式訪問後、当時の第4分区に属していた5クラブの会長幹事が分区代理と共に集り、東雲亭で松方様を囲み夕食会を開いたが、酒も煙草もたしなまないガバナーは、コーラを前に、終始ニコヤカに我々の話を聴いてくれ、少しもガバナー臭さを感じさせなかった。

又当クラブ創立時の定款では、飯能市と日高町だけが区域のため、名栗村から新会員を増強するためには、R Iの承認を得て定款を改正しなければならなかった。アメリカでは当地の事情が判らぬので、地図を送付せよと連絡があった。そこで地図を書いて持参すると、松方様は自ら三色の色鉛筆をとって補正し、又ローマ字で必要な地名を書き加えてシカゴの本部へ送り、月ならずして定款変更の認可がおりたが、こういう時でも尊大なところがなく、永年の友人と気軽に接しているような態度で、只々頭の下がる思いであった。

往々にして、ロータリーの役員になった途端、急に華やかなムードとなってロータリー風を吹かす例が多い風潮の中で、ビルの片隅にガバナー事務所を設け、公式訪問に際しては小さなリュックを只一つ肩にかけ、独りでクラブ廻りをする松方様に、私は真のロータリアンを見出した。

「ロータリアンよ、驕るなかれ。」



双眼鏡を手に、アイスフォールの状況を観察する松方隊長、バックの山はリントレン、エベレストベースキャンプにて、4月13日撮影
(提供 毎日新聞社)

「ロータリアンよ、優しく暖かい心を持って。」

「ロータリアンよ、常に奉仕を目指して謙虚に充実した人生を送りなさい。」

リュックを背負ったガバナーは、後輩ロータリアンに対し、無言で問いかけていたのではなからうか。

今や故人となった松方様は、天国でリュックを肩にかけ、好きな山登りを楽しみながら、その合い間に飯能クラブの例会を、あの暖かい眼差しでニコニコとご覧になっているような気がしてならない。

(註) 未だ残暑のきびしい9月7日の昼さがり、松方三郎先生のお写真を戴きに、丸の内日石ビル7階の友の事務所に参りました。さすがにロータリー精神のゆき渡った事務所では、所員一同大変気持よく、応対して下さいました。やがて女子事務員の方がお茶を下さいました。

ビルを捜して、喉の渇ききっていた私には、その一杯のお茶がとてうれしかったのを忘れることが出来ません。

数枚の先生のお姿の中から、どうしてもこの2枚だけは、甲乙をつけられないので、お願いして2枚とも借用しました。一つはやさしいガバナーの温顔。そしてもう一つは、素朴な野人としての松方さん。先生の人間性の中に宿るこの二つの聖骸を是非共々様にお見せしたいと思い、あえて二葉を掲載させて戴きました。(比留間記)



故 小林 貞治氏

M29年6月17日生

S48年1月26日御逝去

小林会長のことも

シドニー国際大会に参加したときのことである。オーストラリア
バリ島、ジャカルタ、シンガポール、マニラと約2週間の旅路では
終始小林さんと同室でした。僕は英会話が出来ないから、先生のカ
バン持ちをするよ。と云って、断るのも聞かず、私の荷物を持って
呉れました。

小林会長の音頭で外遊中の団長を勤め、又帰国後の旅行記「ドク
トル赤道を渡る」は小林先輩のたつての勧めで執筆した次第。今静
かに眼を閉じると、数々の懐しい思い出が走馬燈の様に浮んでくる

(比留間記)



故 小川 泰氏

M31年7月25日生

S46年6月23日御逝去

小川会長と私

ほんとうに、御元気だと思っていたのに、発病に気付いた会長さ
んの胃癌は、既に胃全剝を敢えて決行せざるを得ない程に進行して
いました。

女婿が女子医大中山教授の手術の助手をした、関係もあって、後
に私の病院でお世話しました。

重症にもかかわらず、氏の極めて厳粛な療養態度に改めて私は会
長の御人格にうたれました。

死期を知った氏の遺言の中に、私宛のものもあり、家族を悟し、
医師に生前のお礼をのべた一節に私は痛く感激しました。

(比留間記)



故 土肥無二三氏

M28年5月2日生

S46年2月20日御逝去

会長の好きな句

「ふまれても

咲くたんぼぼの

笑顔かな」

座右訓

忍従と努力



故 小峰 正夫氏

T2年10月31日生

S40年3月25日御逝去

趣味 ゴルフ、囲碁、マージャン

御経歴

東吾野村長、飯能市助役、飯能市議会議長等



故 大久保三男氏

T 2 年11月24日生

S 41年 8 月28日御逝去

52才

趣味 ビリアード、謡



故 谷島 豊一氏

T 10年10月10日生

S 45年10月 1 日御逝去

49才



故 佐野万次郎氏

M 23年 3 月 5 日生

S 45年 6 月12日御逝去

80才

趣味 碁、旅行、山まわり(植林を見て歩く)、テレビ・ラジオで人生論等を聞くこと。

あ と が き

未だ心なしか火の恋しい早春の一夜だったと記憶する。東雲亭で準備委員長
の吉島会員から10年誌の編集を依頼されたときは、一瞬深刻な気持ちになったが
日頃HRCの皆様は大変お世話になっている御恩返しにと。又決意しました、
もう一つの理由は会員の皆さんが心から愛することの出来る方、好感のもてる
人々であったからだと思います。加えて井上(太)、溝口、松下、江原、井上(峰)
各委員の力強い御助力により今、出版上梓することが出来ました。こゝに編
集の経過を申し上げます。

特別寄稿欄では、お願いした全部の方々からお祝辞を戴き感謝に耐えませんが
又会員寄稿では、皆様の絶大な御協力により当初の心配とはうらはらに企画掲
載量を遙かに突破したことは嬉しい悲鳴でした。家族写真欄も僅か旬日の内に
全員の御提出を戴き有難う存じます。唯家族紹介の記事を紙面の都合で一部割
愛したことをお詫びします。尚、当クラブは親クラブがあるのは当然の事乍ら
姉妹クラブがあり子クラブがある。言うなればHRCは完全な家族構成の持主
である。又当クラブ会員諸兄の国際大会参加は誠に活発で、特にシドニー国際
大会では357区(当時千葉埼玉合同)の全参加者70名中、実にその一割をHRC
の会員で占めていました。即ち世間付合いも又誠に立派であります。そこでH
RCの対外活動の異例欄をもうけてみました。

会員諸兄の寄稿を横観要約させて戴きます。さすがにロータリーに関するも
のが多く、又一見無関係の如く見える原稿も静かに読んでみるとその中にロー
タリー精神の息吹あふれるものばかりで心から感心致しました。

出席に関しては新井君が出席と人の融和を、加藤(義)君が出席への熱意、加
藤(音)君の発足当時の回想、10周年雑感的なものでは、江沢君のSAAの苦心
談、小室君の回顧よりRC活動への新しい見解を、又前島君の率直な思い出話
も面白く、吉島君のRC経験より、会員の質と量は正比例すると云う御説に成
る程と領きました。発足当時の思い出は平岡君にお願いしました所、加藤(音)
君も書いて下さいました。溝口君の入会当初の追想と友を得た喜び、又竹田君
のHRCの思い出と決意、吉田君のRCの体験と感想は何れも入会当初を面白
く語り、江原君の安西愛子、細田君の幹事の心構え、加藤(善)君の一般人のR
Cへの認識不足、斉藤(文)君のロータリーは求める所でなく尽す所だと悟った
文章、斉藤(季)君の「親睦と奉仕は理解と協力也」には賛成、以上何れもロー
タリー雑感と云えましょう。井上(峰)君の山造りと職業奉仕、加藤(音)君の結婚
相談、金子君は世相と職業奉仕精神の向上を、又双木君の論文は職業奉仕の真
髓をつき、大久保君の奉仕の解釈と実行の難しさには私も同感、清水(栄)君の
委員長としての決意は何れも奉仕と親睦に関する立派な見解を披露。林君の

モン太」の物語は自然保護の必要を、**黒田君**の野の花の物語、**高水君**の小鳥の記は乙女の如く優しく、**森君**から鮎の知識を、そしてその美しい文章に感服、**新堀君**は高麗峠の美と詩を、以上は何れも**自然を讃美**。**荒井君**は人情の機微を、**江沢君**は事業主も被害者なりと世相の勝手を、**檜崎君**の「油断」と「笑い」の説明も面白く、**福田君**の生い立ち、**萩野君**は坐禅私観を、**市川君**は現代の世相にお祭りの必要性を、**井上(敬)君**は飯能地区の人情を、**川崎君**のロマンスには爆笑しました、さすが俳人です。**中里君**の人生にユーモアを、**大沢君**のハワイアンは堂に入ったもの相当月謝を払った感あり。**大野君**の戦中派の人生観も面白く**品川君**は叔父義介氏を語り、「名士とは食しくとも心は豊かなる人」と結んでいるのには同感、**高橋君**の現代教育論「学校は死んだ」は皆んなで真剣に考うべき問題等**世相、人情、風物**に関する寄稿は雌雄をつけ難く。**平沼君**の国際大会の思い出、**前久保君**の伊勢旅行記、**吉島君**のミネアポリス国際大会の体験談、**愚生**の姉妹締結等何れも**旅の経験**を披露。**後藤君**の韓国との関係、**大野君**の木造住宅、**曾根君**よりの絹の歴史と日本のシルクロードが高麗の里であったのは初耳、**清水(勇)君**には狭山茶の紹介を依頼したが、茶を女房に例え、親子に例え乍らその全貌を。

全文を拝見し、ロータリアンならではの立派な原稿でした。又この寄稿を読むと郷土の風物、人情のすべてが伺える貴重な文献だと云っても過言でないと思存します。御投稿に改めて感謝します。

終りに至らない編集委員を助けて、執筆、資料の提供を戴いた有志の方々、又、本記念誌の上梓に当り、利益を度外視し出血的サービスを戴いた、文化新聞社長吉田鉄之助氏、又、日夜御尽力戴いた同社社員のみなさんにお礼申し上げます。

尚、本誌編集に当り、広沢輝雄バスタガバナーが多数の文献・資料を御提供下さいましたことを、末尾乍ら皆様に御披露し、その好意に深謝します。

飯能ロータリー10年誌編集委員会

委員長 比留間 清治郎

委員 井上 太平

” 溝口 卓男

” 松下 克己

” 江原 寿

” 井上 峰次

追記：本誌編纂後11月2日、会員石井尊四郎氏が御逝去されました。謹んでこゝに哀悼の意を表します。

昭和50年2月3日 印刷

昭和50年2月21日 発行

発行所 飯能ロータリークラブ

埼玉県飯能市本町1番7号

飯能商工会議所内

印刷所 株式会社文化新聞社

埼玉県飯能市柳町12番10号

